

講義内容の概要

(シラバス)

2014 (H26) 年度

高知短期大学

2014年度開講科目一覧（社会科学科）

	授業科目	期間	単位数	専任教員	非常勤講師		ページ		
					氏名	所属等			
基礎教育科目	入門に関する科目	法学Ⅰ	前期	2	下山 憲二准教授			1	
		法学Ⅱ	前期	2	根岸 忠准教授			2	
		経済学Ⅰ	前期	2	大井 方子教授			3	
		経済学Ⅱ	後期	2	細居 俊明教授			4	
		情報処理Ⅰ	前期	2		増井 広二	ブレイン・ソフト・サービス	5	
			前期	2		増井 広二	ブレイン・ソフト・サービス	6	
		情報処理Ⅱ	後期	2		増井 広二	ブレイン・ソフト・サービス	7	
		情報処理Ⅲ	後期	2		増井 広二	ブレイン・ソフト・サービス	8	
		社会科学基礎演習 （「基礎ゼミ」）	前期	2	専任教員			9 ～ 16	
	外国語科目	英語Ⅰ（初級）A	通年	2		松吉 明子	高知大学非常勤講師	17	
		英語Ⅰ（初級）B	通年	2		岡崎 薫	元高知大学人文学部准教授	18	
		英語Ⅱ（中級）	通年	2		奥村 訓代	高知大学人文学部教授	19	
		英語Ⅲ（会話初級）	通年	2		T. J. マナー	高知大学非常勤講師	20	
		英語Ⅳ（会話中級）	通年	2		T. J. マナー	高知大学非常勤講師	21	
		ドイツ語	通年	2		持尾 伸二	高知大学人文学部准教授	22	
		フランス語Ⅰ（初級）	通年	2		山本 明日香	高知大学非常勤講師	23	
		フランス語Ⅱ（中級）	通年	2		山本 明日香	高知大学非常勤講師	24	
		中国語Ⅰ（初級）	通年	2		池 純子	高知大学非常勤講師	25	
		中国語Ⅱ（中級）	通年	2		池 純子	高知大学非常勤講師	26	
		韓国語Ⅰ（初級）	通年	2		具 珉京	財団法人福井保育協会福井保育園	27	
	韓国語Ⅱ（中級）	通年	2		具 珉京	財団法人福井保育協会福井保育園	28		
	保体科目	保健体育	後期	2		本間 聖康	高知大学教育学部教授	29	
		体育実技A	通年	2		神家 一成	高知大学教育学部教授	30	
		体育実技B	通年	2		駒井 説夫	高知大学教育学部教授	31	
	教養科目	哲学	前期	2		原崎 道彦	高知大学教育学部教授	32	
		文学	前期	2		芋生 裕信	高知県立大学文化学部教授	33	
		芸術・文化論	前期	2		河村 章代	（公財）高知県文化財団総務部企画課長	34	
		文章表現技法	前期	2		池田 洋一	土佐塾高校非常勤講師	35	
		自然科学	前期	2		一色 健司	高知県立大学地域教育研究センター教授	36	
		心理学	前期	2		矢野 宏光	高知大学教育学部准教授	37	
		専門教育科目	法学系科目	憲法Ⅰ	前期	2	小林 直三教授		
	憲法Ⅱ			後期	2	小林 直三教授			39
	行政法Ⅰ			後期	2	小林 直三教授			40
	行政法Ⅱ ☆			集中	2		下村 誠	京都府立大学公共政策学部准教授	41
	税法Ⅰ ☆			集中	2		玉置 賢司	玉置会計事務所税理士	42
	刑法総論Ⅰ			前期	2	田中 康代講師			43
	刑法総論Ⅱ			後期	2	田中 康代講師			44
刑法各論Ⅰ	前期			2	田中 康代講師			45	
刑法各論Ⅱ	後期			2	田中 康代講師			46	
刑事訴訟法	前期			2		紫藤 秀久	紫藤法律事務所弁護士	47	
民事訴訟法	前期			2		本澤 友彬	丸の内法律事務所弁護士	48	
民法（総則・物権）Ⅰ	前期			2		林 良太	岩崎淳司法律事務所弁護士	49	
民法（総則・物権）Ⅱ	後期			2		南 拓人	梶原法律事務所弁護士	50	
民法（債権）Ⅰ ☆	集中			2		西澤 希久男	関西大学政策創造学部准教授	51	
民法（債権）Ⅱ ☆	集中			2		西澤 希久男	関西大学政策創造学部准教授	52	
民法（家族）	前期			2		中橋 紅美	丸の内法律事務所弁護士	53	
商法（総則・商行為）Ⅰ	前期			2	菊池 直人講師			54	
商法（総則・商行為）Ⅱ	後期			2	菊池 直人講師			55	
商法（会社）Ⅰ	前期			2	菊池 直人講師			56	
商法（会社）Ⅱ	後期			2	菊池 直人講師			57	
経済法	後期			2		横川 和博	高知大学人文学部教授	58	
労働法Ⅰ	前期			2	根岸 忠准教授			59	
労働法Ⅱ	後期			2	根岸 忠准教授			60	
基礎法学Ⅰ	前期			2		緒方 賢一	高知大学人文学部准教授	61	
基礎法学Ⅱ	後期			2		赤間 聡	高知大学人文学部講師	62	
国際法Ⅰ	前期			2	下山 憲二准教授			63	
国際法Ⅱ	後期			2	下山 憲二准教授			64	
社会保障法Ⅰ	前期			2	根岸 忠准教授			65	
社会保障法Ⅱ	後期			2	根岸 忠准教授			66	
法学特殊講義Ⅰ（不動産法概論）	後期			2		竹村 克彦	竹村克彦事務所土地家屋調査士	67	
法学特殊講義Ⅱ	後期			2		紫藤 秀久	紫藤法律事務所弁護士	68	

	授業科目	期間	単位数	専任教員	非常勤講師		ページ
					氏名	所属等	
専門教育科目	経済原論Ⅱ ☆	集中	2		頭川 博	元高知大学人文学部教授	69
	経済学史Ⅰ	後期	2		森 直人	高知大学人文学部准教授	70
	経済史	前期	2		柳川 平太郎	高知大学教育学部准教授	71
	ミクロ経済学	前期	2	大井 方子教授			72
	マクロ経済学	後期	2	大井 方子教授			73
	現代資本主義論	前期	2		中西 三紀	高知大学人文学部准教授	74
	国際経済論Ⅰ	前期	2	細居 俊明教授			75
	国際経済論Ⅱ	後期	2	細居 俊明教授			76
	財政学Ⅰ	前期	2		霜田 博史	高知大学人文学部准教授	77
	財政学Ⅱ ☆	集中	2		鈴木 啓之	高知大学人文学部教授	78
	金融論Ⅰ ☆	集中	2		近廣 昌史	愛媛大学法文学部専任講師	79
	金融論Ⅱ	後期	2		海野 晋悟	高知大学人文学部講師	80
	農業経済論	前期	2		岩佐 和幸	高知大学人文学部教授	81
	経済政策論Ⅰ	前期	2		石筒 覚	高知大学人文学部准教授	82
	地域経済論Ⅰ ☆	集中	2		宇都宮 千穂	愛媛大学法文学部准教授	83
	地域経済論Ⅱ	前期	2		佐藤 暢	高知工科大学研究連携部社会連携課社会連携専門監	84
	経済学特殊講義Ⅰ(流通経済論) ☆	集中	2		熊野 正樹	崇城大学工学部准教授	85
	経済学特殊講義Ⅲ	後期	2	池谷 江理子教授			86
	労働経済論	後期	2	大井 方子教授			87
	経営学Ⅰ	前期	2		桂 信太郎	高知工科大学マネジメント学部准教授	88
	経営学Ⅱ	後期	2		青木 宏之	香川大学経済学部准教授	89
	企業分析論Ⅰ	前期	2	梶原 太一講師			90
	企業分析論Ⅱ	後期	2	梶原 太一講師			91
	会計学Ⅰ	前期	2	梶原 太一講師			92
	会計学Ⅱ	後期	2	梶原 太一講師			93
	簿記学Ⅰ	前期	2		柳井 正持	高知大学非常勤講師	94
	簿記学Ⅱ	後期	2		柳井 正持	高知大学非常勤講師	95
	現代産業論Ⅰ	前期	2		中道 一心	高知大学人文学部准教授	96
	現代産業論Ⅱ ☆	集中	2		梅村 仁	文教大学経営学部教授	97
	統計学	後期	2		谷本 真二	元高知県立大学地域教育研究センター教授	98
	経済学特殊講義Ⅳ(工業簿記)	前期	2		中野 慶伸	土佐コンピュータ学院非常勤教員	99
	政治学Ⅰ	前期	2	清水 直樹准教授			100
	政治学Ⅱ ☆	集中	2		鶴谷 将彦	立命館大学非常勤講師	101
	政治史Ⅰ	後期	2	清水 直樹准教授			102
	政治史Ⅱ ☆	集中	2		鶴谷 将彦	立命館大学非常勤講師	103
	国際関係論Ⅰ	後期	2	下山 憲二准教授			104
	国際関係論Ⅱ	後期	2		中西 三紀	高知大学人文学部准教授	105
	歴史学	後期	2		江口 布由子	高知大学人文学部准教授	106
	社会保障・福祉論Ⅰ	前期	2		田中 きよむ	高知県立大学社会福祉学部教授	107
	社会保障・福祉論Ⅱ	後期	2		田中 きよむ	高知県立大学社会福祉学部教授	108
	地方自治論Ⅰ	後期	2	清水 直樹准教授			109
	行政学Ⅰ	前期	2	清水 直樹准教授			110
	社会学Ⅰ	前期	2		遠山 茂樹	高知大学人文学部准教授	111
	ジェンダー論	前期	2		池谷 江理子	高知工業高等専門学校教授	112
	生涯教育論 ☆	集中	2		山本 珠美	香川大学生涯学習教育研究センター准教授	113
	歴史学特殊講義Ⅱ(地域史)	後期	2		公文 豪	高知市立自由民権記念館非常勤資料整理員	114
	政治学特殊講義Ⅰ(平和学) ☆	集中	2		谷川 昌幸	ネパール学術調査開発センター顧問	115
	歴史学特殊講義Ⅰ(西洋近現代史)	前期	2		柳川 平太郎	高知大学教育学部准教授	116
現代社会特殊講義Ⅰ(環境論)	後期	2		北條 正司	高知大学理学部教授	117	
				藤原 憲一郎	高知工業高等専門学校特任教授		
現代社会論 ☆	集中	2		久保 隆光	明治大学商学部兼任講師	118	
高知学Ⅳ ☆	集中	2		今城 逸雄	高知大学特任講師	119	
外書講読Ⅰ	前期	2		團野 哲也	高知県立大学地域教育研究センター准教授	120	
	後期	2	池谷 江理子教授			121	
外書講読Ⅱ	後期	2		松吉 明子	高知大学非常勤講師	122	
キャリアデザイン	後期	2		柳井 正持	高知大学非常勤講師	123	
社会人基礎力養成講座	前期	2		坂本 ひとみ	高知県立大学地域教育研究センター特任講師	124	
消費生活論 ☆	集中	2	菊池 直人講師	オムニバス(未定)		125	
社会科学演習Ⅰ (「専門ゼミ」)	後期	2	専任教員			126	
社会科学演習Ⅱ (「専門ゼミ」)	後期	2	専任教員			127	
社会科学演習Ⅲ (「1年後期進路ゼミ」)	後期	2	専任教員	坂本 ひとみ	高知県立大学地域教育研究センター特任講師	128 ~ 129	
社会科学演習Ⅳ (「2年前期進路ゼミ」)	前期	2	専任教員	坂本 ひとみ	高知県立大学地域教育研究センター特任講師	130 ~ 135	

☆→通常講義期間以外の集中講義を示す。

なお、オムニバスで担当が未定のものについては、決まり次第、別途掲示します。

2014年度開講科目一覧（専攻科）

専攻科	授業科目	期間	単位数	専任教員	非常勤講師		ページ	
					氏名	所属等		
応用社会科学専攻	地域政策系	地域政策演習	通年	4	梶原 太一講師			136
		地域政策特講 I ☆	集中	2	専任教員			137
		地域政策特講 II	後期	2	池谷 江理子教授			138
		地域経済論特講	前期	2		石筒 覚	高知大学人文学部准教授	139
		地域財政論	後期	2		霜田 博史	高知大学人文学部准教授	140
		貿易論特講	前期	2	細居 俊明教授			141
		地方政治論	後期	2	清水 直樹准教授			142
		社会調査論	前期	2		畠中 洋行	プロセスデザイナー(フリーランス)	143
	社会実務系	公法特講	前期	2	小林 直三教授			144
		国際法特講	後期	2	下山 憲二准教授			145
		民法特講	後期	2		緒方 賢一	高知大学人文学部准教授	146
		刑事法特講	後期	2	田中 康代講師			147
		社会法特講	前期	2	根岸 忠准教授			148
		商法特講	前期	2	菊池 直人講師			149
		簿記学特講 I ☆	集中	2		中野 慶伸	土佐コンピュータ学院非常勤教員	150
		会計学特講	前期	2	梶原 太一講師			151
		税務会計論	後期	2		梅田 昭彦	梅田税理士事務所税理士	152
		税法特講	後期	2		梅田 昭彦	梅田税理士事務所税理士	153
		経営学特講 I	後期	2		中道 一心	高知大学人文学部准教授	154
総合	情報処理応用演習	前期	2	大井 方子教授			155	
	消費生活論 ☆	集中	2	菊池 直人講師	オムニバス(未定)		156	
	特別研究	通年	4	専任教員			157	

☆→通常講義期間以外の集中講義を示す。

なお、オムニバスで担当が未定のものについては、決まり次第、別途掲示します。

科目名	法学	単位数	2	期別	前期
科目コード	A0010	担当教員	下山 憲二	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	法学の総論を学んでいきます。なぜ法は必要なのか、法によって我々はどのような利益や不利益を被るのかといったことを、公法(憲法、行政法、刑法及び国際法)の観点から学習していきます。
授業の進め方	講義形式で行います。配布するレジメに従って講義を進めます。
達成目標	(1)法学及び公法の基礎知識を理解できるようになる。 (2)法的思考ができるようになる。 (3)実際の問題を法的に分析できるようになる。
授業計画 (講義の具体的 内容)	第1回 はじめに 法を学ぶにあたって 第2回 法源 第3回 法と裁判 第4回 憲法の基本原理 第5回 人権 第6回 統治機構 第7回 行政法の基本原理 第8回 行政組織 (第1回 小テスト) 第9回 行政行為 第10回 刑法の基本原理 第11回 刑罰の種類 第12回 犯罪の要件 第13回 国際法の基本原理 第14回 国際法の主体 第15回 国際法と国内法 (第2回 小テスト)
履修上の注意	私語は厳に慎むこと。
教科書	指定しない。
参考書	講義中に適時あげていきます。
成績評価方法	授業態度(30%)、小テスト(30%)、期末試験(40%)

科目名	法学	単位数	2	期別	前期
科目コード	A0020	担当教員	根岸 忠	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	本講義では総論、私法及び社会法に焦点をあてて、われわれの日常生活にどのように法がかかわるかを見ていくこととしたい。
授業の進め方	パワーポイントを用いながら授業を進めていく。
達成目標	(1) 法とは何かを理解できるようになる。 (2) 具体的な場面で法がどのようにかかわっているかを理解できるようになる。
授業計画 (講義の具体的 内容)	第1回 はじめに、法とはなにか 第2回 法源 第3回 法の解釈 第4回 法の歴史 第5回 契約とは何か(1) 契約の成立 第6回 契約とは何か(2) 契約の種類(1) 第7回 契約とは何か(3) 契約の種類(2) 第8回 家族と法(1) 親族 第9回 家族と法(2) 婚姻、扶養 第10回 家族と法(3) 成年後見制度 第11回 消費者と法(1) 第12回 消費者と法(2) 第13回 会社と法 第14回 雇用と法 第15回 社会保障と法
履修上の注意	本講義は法学科目の基礎となる科目であるので、他の法学科目と履修するにあたっては、すでに本講義を履修しているか、少なくとも本講義と他の法学科目を並行して履修することが望ましい。また、法学 と並行して履修すれば、さらに理解が深まる。
教科書	『プライマリー法学憲法 第2版』石川明、永井博史、皆川治廣編、不磨書房(平成22年) とくに指定しないが、小型の法令集を毎回持参してほしい。
参考書	開講時に指示する。
成績評価方法	筆記試験及び受講態度で評価する。 試験(90%)、受講態度(10%)

科目名	経済学	単位数	2	期別	前期	
科目コード	A0030	担当教員	大井 方子	所属	高知短期大学	
連絡先	電話					088-873-2871(研究室)
	E-mail					oimasako@cc.u-kochi.ac.jp

授業概要 (テーマ等)	需要と供給という経済学の基本理論をマスターしながら、現実の経済を見る目を養う。
授業の進め方	講義を中心に進めるが、理解を深めるため、問題演習も行う。
達成目標	(1) 市場における需要と供給の作用により、価格や取引量がどのように変化するのか理解できるようになる。 (2) 政府が市場に介入しない方がいいとはどういうことか、理解できるようになる。 (3) 政府が市場に介入した方がいい場合とはどういう場合かを知ることができる。
授業計画 (講義の具体的な内容)	第1回 はじめに 第2回 市場1:需要と供給 第3回 市場2:均衡価格と取引量 第4回 市場3:環境の変化と価格と取引量 第5回 弾力性とその応用:豊作貧乏と生産調整 第6回 市場の効率性1:需要と供給再考 第7回 市場の効率性2:余剰分析 第8回 市場介入1:参入規制 第9回 市場介入2:税(1) 第10回 市場介入3:税(2) 第11回 市場介入4:補助金 第12回 市場介入5:販売量規制と価格規制 第13回 市場介入6:国際貿易 第14回 市場の失敗:政府が市場に介入した方がいい場合 第15回 おわりに
履修上の注意	積極的に問題演習に取り組むこと。 「経済学」と「経済学」の両方を受講すればより理解が深まるが、どちらか一方だけでも受講に支障はない。
教科書	『マンキュー経済学 ミクロ編』マンキュー著、東洋経済新報社(2013年)
参考書	『ミクロ経済学 市場の失敗と政府の失敗への対策』八田達夫著、東洋経済新報社(2008年)
成績評価方法	学期末試験の成績を基本に(80%)、受講態度(20%)を加味して評価する。

科目名	経済学	単位数	2	期別	後期	
科目コード	A0040	担当教員	細居 俊明	所属	高知短期大学	
連絡先	電話					088-873-2867
	E-mail					hosoi@cc.u-kochi.ac.jp

授業概要 (テーマ等)	最初に当面する経済危機・長引く不況を取りあげた後、やや長期の視点から見た日本経済の課題に焦点をあてます。具体的には日本で急速に進行する高齢化・人口減少の問題を取りあげ、考え方を整理していきます。その上で、経済学の基本的な用語としてGDPや経済成長の意味を検討していきます。
授業の進め方	講義の形で進めますが、一方的な講義にならないように、受講生が積極的に意見や疑問を出してもらうようにします。ビデオも可能な限り活用します。
達成目標	(1)経済成長や国内総生産などの基礎的な用語について、その基本的な意味と性格を理解できるようになる。 (2)高齢化・人口減少が生み出す問題とそれに対する備えについて、深い関心を持ち、いくつかの基本的な側面を理解できるようになる。 (3)経済成長と豊かさとの関係について、深い関心をもって考えられるようになる。
授業計画 (講義の具体的な内容)	概ね次ように講義を進める予定ですが、最初の5回は大きく削る可能性があります。またいくつかテーマを絞って受講生の間で議論することを計画しています。受講生の状況やトピックスを取り上げる関係で、順序や内容が一部変更になる場合もあります。 第1回 オリエンテーション - 危機の時代と経済学 第2回 なぜ不況が続くのか？ 第3回 なぜ失業が減らないのか？ 第4回 不況対策として何ができるのか？ 第5回 中間復習 第6回 経済成長と暮らし 国民の所得とは？ 第7回 経済成長と暮らし 成長の生む要因は？ 第8回 経済成長と暮らし 経済成長と豊かさ 第9回 経済成長と暮らし 豊かさの国際比較について 第10回 経済成長と暮らし 豊かになるとはどういうことか？ 第11回 高齢化・人口減社会 何が問題か？ 第12回 高齢化・人口減社会 なぜ止められないか？ 第13回 高齢化・人口減社会への備え 公的年金は頼れるか？ 第14回 高齢化・人口減社会への備え 貯金は頼りになるか？ 第15回 総復習 以上の講義を踏まえ、期末試験を実施します。
履修上の注意	積極的に参加する姿勢が求められます。 「経済学」と「経済学」の両方を受講すればより理解が深まりますが、どちらか一方だけでも受講に支障はありません。
教科書	特に指定しません。
参考書	講義の中で適宜指示します。
成績評価方法	試験の成績を基本に(60%)、授業への参加の姿勢(40%)を加味して総合的に評価します。

科目名	情報処理 (2クラス)	単位数	2	期別	前期
科目コード	A0050	担当教員	増井 広二	所属	ブレインソフトサービス
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	パソコンを便利に使い楽しむためには、パソコンをよく知ることが大事です。 この授業ではパソコンについての基本知識やパソコン上で動くアプリケーションソフトについて学習します。 インターネットの基礎とセキュリティを学習し、ワードで文章の作成、パワーポイントでプレゼンテーションの方法を学習します。
授業の進め方	情報演習室内における講義と実習。
達成目標	(1) パソコンや周辺機器を使いこなす (2) インターネットを使用するに必要な知識と技術を身につける (3) ワードで基本的な文章を作成できるようになる (4) パワーポイントでプレゼンテーションが出来るようになる
授業計画 (講義の具体的 内容)	第1回 オリエンテーション パソコンの基礎 第2回 Windowsの基礎 第3回 インターネットの基礎とセキュリティ 第4回 インターネットを使う 第5回 Wordの基本 第6回 拡張書式・スタイルの設定 第7回 表の作成 第8回 段落・タブ・箇条書き 第9回 画像の処理(画像処理ソフト) 第10回 画像・ワードアートの操作 第11回 差し込み印刷 第12回 パワーポイントの基礎 第13回 画像・ワードアートの操作 第14回 アニメーションを使ってみる 第15回 テーマの変更・スライド操作・まとめ
履修上の注意	自分のデータを保存する為のUSBメモリを持参して下さい。 受講希望の方は学生課に置いてある受講名簿に記入して下さい。
教科書	授業内でプリント配布。
参考書	Web教材を授業内で使用します。
成績評価方法	期末の試験(50%)、提出物と講義への参加姿勢(50%)などから総合的に評価する。

科目名	情報処理 (2クラス)	単位数	2	期別	前期
科目コード	A0050	担当教員	増井 広二	所属	ブレインソフトサービス
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	パソコンを便利に使い楽しむためには、パソコンをよく知ることが大事です。 この授業ではパソコンについての基本知識やパソコン上で動くアプリケーションソフトについて学習します。 インターネットの基礎とセキュリティを学習し、ワードで文章の作成、パワーポイントでプレゼンテーションの方法を学習します。
授業の進め方	情報演習室内における講義と実習。
達成目標	(1) パソコンや周辺機器を使いこなす (2) インターネットを使用するに必要な知識と技術を身につける (3) ワードで基本的な文章を作成できるようになる (4) パワーポイントでプレゼンテーションが出来るようになる
授業計画 (講義の具体的 内容)	第1回 オリエンテーション パソコンの基礎 第2回 Windowsの基礎 第3回 インターネットの基礎とセキュリティ 第4回 インターネットを使う 第5回 Wordの基本 第6回 拡張書式・スタイルの設定 第7回 表の作成 第8回 段落・タブ・箇条書き 第9回 画像の処理(画像処理ソフト) 第10回 画像・ワードアートの操作 第11回 差し込み印刷 第12回 パワーポイントの基礎 第13回 画像・ワードアートの操作 第14回 アニメーションを使ってみる 第15回 テーマの変更・スライド操作・まとめ
履修上の注意	自分のデータを保存する為のUSBメモリを持参して下さい。 受講希望の方は学生課に置いてある受講名簿に記入して下さい。
教科書	授業内でプリント配布。
参考書	Web教材を授業内で使用します。
成績評価方法	期末の試験(50%)、提出物と講義への参加姿勢(50%)などから総合的に評価する。

科目名	情報処理	単位数	2	期別	後期
科目コード	A0060	担当教員	増井 広二	所属	ブレインソフトサービス
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	この授業では、Excelを使用して表計算ソフトの操作方法と、パワーポイントでプレゼンテーションの方法を学習します。
授業の進め方	情報演習室内における講義と実習。
達成目標	(1) 表計算ソフト (Excel) の基本操作ができるようになる (2) 計算式、関数を理解する (3) データの処理ができるようになる (4) パワーポイントでプレゼンテーションができるようになる
授業計画 (講義の具体的 内容)	第1回 オリエンテーション 表計算ソフトの基礎 第2回 セルの操作 ワークシートの操作 第3回 セルの書式 罫線 第4回 計算式・関数1 (数値関数) 第5回 関数2 (文字関数) 第6回 関数3 (制御関数) 第7回 データの処理1 (ソート他 検索と選択) 第8回 データの処理2 (集計 テーマ 条件付き書式 スタイル) 第9回 画像 図形とワードアート SmartArt 第10回 グラフ 第11回 マクロとツールボックス 第12回 パワーポイントの基礎 第13回 画像・ワードアートの操作 第14回 アニメーションを使ってみる 第15回 テーマの変更・スライド操作・まとめ
履修上の注意	パソコンの基本操作と、文字入力ができる方を対象とします。 自分のデータを保存する為のUSBメモリを持参して下さい。 受講希望の方は学生課に置いてある受講名簿に記入して下さい。
教科書	授業内でプリント配布。
参考書	Web教材を授業内で使用します。
成績評価方法	期末の試験 (50%)、提出物と講義への参加姿勢 (50%) などから総合的に評価する。

科目名	情報処理	単位数	2	期別	後期
科目コード	A0065	担当教員	増井 広二	所属	ブレインソフトサービス
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	色々なアプリケーションを使用して、データの収集・整理・分析・発表をします。
授業の進め方	情報処理実習室内における講義と実習。
達成目標	(1) インターネットから、検索してデータの収集が出来る。 (2) PowerPointで、分析結果を発表する。 (3) Excelで、データの分析が出来る。
授業計画 (講義の具体的 内容)	第1回 オリエンテーション Windowsの操作 第2回 パワーポイントの基礎 第3回 文字や画像を入力 第4回 SmartArt、ワードアートを使う 第5回 アニメーションを使ってみる 第6回 プレゼンテーションの作成 第7回 表計算ソフトの基礎 第8回 関数1 第9回 マクロとツールボックス 第10回 VBAの基礎 第11回 制御文1 第12回 制御文2 第13回 プロシージャ 第14回 実際のデータの処理 第15回 まとめ
履修上の注意	2010年度以前の「経営情報システム論」を履修済の場合、この科目を履修することはできません。 文字入力とマウス操作が出来る方を対象とします。 自分データを保存する為のUSBメモリを持参して下さい。 受講希望の方は学生課に置いてある受講名簿に記入して下さい。
教科書	授業前にプリントを配布します。
参考書	Web教材を授業内で使用します。
成績評価方法	期末の試験(50%)、講義への参加姿勢(50%)などから総合的に評価する。

科目名	社会科学基礎演習（基礎ゼミ）	単位数	2	期別	前期
科目コード	A0070	担当教員	大井方子	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	本演習では、新入生を対象に大学で学習を進めるにあたっての基礎的な力を養うこと、及び社会についての関心を持ち、科学的に社会を見る目を養うことを目的とする。
授業の進め方	入学生は、全員、専任教員に振り分けられ、各教員により少人数での学習が行われる。教員の指導のもとに、学生自身が報告し、学生同士が意見交換を行うという学生の主体的な参加が大きな比重を占める授業である（「演習方式」という）。
達成目標	達成目標、授業計画、履修上の注意、成績評価の方法などは、オリエンテーション及び最初の授業の際に担当教員が説明する。
授業計画 (講義の具体的 内容)	開講時に担当教員が説明する。
履修上の注意	大学における学習や生活の基礎となる科目なのでできるだけ受講すること。
教科書	
参考書	
成績評価方法	各担当教員が授業中に明示する。

科目名	社会科学基礎演習（基礎ゼミ）	単位数	2	期別	前期
科目コード	A0070	担当教員	細居 俊明	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	本演習では、新入生を対象に大学で学習を進めるにあたっての基礎的な力を養うこと、及び社会についての関心を持ち、科学的に社会を見る目を養うことを目的とする。
授業の進め方	入学生は、全員、専任教員に振り分けられ、各教員により少人数での学習が行われる。教員の指導のもとに、学生自身が報告し、学生同士が意見交換を行うという学生の主体的な参加が大きな比重を占める授業である（「演習方式」という）。
達成目標	達成目標、授業計画、履修上の注意、成績評価の方法などは、オリエンテーション及び最初の授業の際に担当教員が説明する。
授業計画 (講義の具体的 内容)	開講時に担当教員が説明する。
履修上の注意	大学における学習や生活の基礎となる科目なのでできるだけ受講すること。
教科書	
参考書	
成績評価方法	各担当教員が授業中に明示する。

科目名	社会科学基礎演習（基礎ゼミ）	単位数	2	期別	前期
科目コード	A0070	担当教員	田中康代	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	本演習では、新入生を対象に大学で学習を進めるにあたっての基礎的な力を養うこと、及び社会についての関心を持ち、科学的に社会を見る目を養うことを目的とする。
授業の進め方	入学生は、全員、専任教員に振り分けられ、各教員により少人数での学習が行われる。教員の指導のもとに、学生自身が報告し、学生同士が意見交換を行うという学生の主体的な参加が大きな比重を占める授業である（「演習方式」という）。
達成目標	達成目標、授業計画、履修上の注意、成績評価の方法などは、オリエンテーション及び最初の授業の際に担当教員が説明する。
授業計画 (講義の具体的 内容)	開講時に担当教員が説明する。
履修上の注意	大学における学習や生活の基礎となる科目なのでできるだけ受講すること。
教科書	
参考書	
成績評価方法	各担当教員が授業中に明示する。

科目名	社会科学基礎演習（基礎ゼミ）	単位数	2	期別	前期
科目コード	A0070	担当教員	池谷江理子	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	本演習では、新入生を対象に大学で学習を進めるにあたっての基礎的な力を養うこと、及び社会についての関心を持ち、科学的に社会を見る目を養うことを目的とする。
授業の進め方	入学生は、全員、専任教員に振り分けられ、各教員により少人数での学習が行われる。教員の指導のもとに、学生自身が報告し、学生同士が意見交換を行うという学生の主体的な参加が大きな比重を占める授業である（「演習方式」という）。
達成目標	達成目標、授業計画、履修上の注意、成績評価の方法などは、オリエンテーション及び最初の授業の際に担当教員が説明する。
授業計画 (講義の具体的 内容)	開講時に担当教員が説明する。
履修上の注意	大学における学習や生活の基礎となる科目なのでできるだけ受講すること。
教科書	
参考書	
成績評価方法	各担当教員が授業中に明示する。

科目名	社会科学基礎演習（基礎ゼミ）	単位数	2	期別	前期
科目コード	A0070	担当教員	根岸 忠	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	本演習では、新入生を対象に大学で学習を進めるにあたっての基礎的な力を養うこと、及び社会についての関心を持ち、科学的に社会を見る目を養うことを目的とする。
授業の進め方	入学生は、全員、専任教員に振り分けられ、各教員により少人数での学習が行われる。教員の指導のもとに、学生自身が報告し、学生同士が意見交換を行うという学生の主体的な参加が大きな比重を占める授業である（「演習方式」という）。
達成目標	達成目標、授業計画、履修上の注意、成績評価の方法などは、オリエンテーション及び最初の授業の際に担当教員が説明する。
授業計画 (講義の具体的 内容)	開講時に担当教員が説明する。
履修上の注意	大学における学習や生活の基礎となる科目なのでできるだけ受講すること。
教科書	
参考書	
成績評価方法	各担当教員が授業中に明示する。

科目名	社会科学基礎演習（基礎ゼミ）	単位数	2	期別	前期
科目コード	A0070	担当教員	清水直樹	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	本演習では、新入生を対象に大学で学習を進めるにあたっての基礎的な力を養うこと、及び社会についての関心を持ち、科学的に社会を見る目を養うことを目的とする。
授業の進め方	入学生は、全員、専任教員に振り分けられ、各教員により少人数での学習が行われる。教員の指導のもとに、学生自身が報告し、学生同士が意見交換を行うという学生の主体的な参加が大きな比重を占める授業である（「演習方式」という）。
達成目標	達成目標、授業計画、履修上の注意、成績評価の方法などは、オリエンテーション及び最初の授業の際に担当教員が説明する。
授業計画 (講義の具体的 内容)	開講時に担当教員が説明する。
履修上の注意	大学における学習や生活の基礎となる科目なのでできるだけ受講すること。
教科書	
参考書	
成績評価方法	各担当教員が授業中に明示する。

科目名	社会科学基礎演習（基礎ゼミ）	単位数	2	期別	前期
科目コード	A0070	担当教員	小林 直三	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	本演習では、新入生を対象に大学で学習を進めるにあたっての基礎的な力を養うこと、及び社会についての関心を持ち、科学的に社会を見る目を養うことを目的とする。
授業の進め方	入学生は、全員、専任教員に振り分けられ、各教員により少人数での学習が行われる。教員の指導のもとに、学生自身が報告し、学生同士が意見交換を行うという学生の主体的な参加が大きな比重を占める授業である（「演習方式」という）。
達成目標	達成目標、授業計画、履修上の注意、成績評価の方法などは、オリエンテーション及び最初の授業の際に担当教員が説明する。
授業計画 (講義の具体的 内容)	開講時に担当教員が説明する。
履修上の注意	大学における学習や生活の基礎となる科目なのでできるだけ受講すること。
教科書	
参考書	
成績評価方法	各担当教員が授業中に明示する。

科目名	社会科学基礎演習（基礎ゼミ）	単位数	2	期別	前期
科目コード	A0070	担当教員	下山憲二	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	本演習では、新入生を対象に大学で学習を進めるにあたっての基礎的な力を養うこと、及び社会についての関心を持ち、科学的に社会を見る目を養うことを目的とする。
授業の進め方	入学生は、全員、専任教員に振り分けられ、各教員により少人数での学習が行われる。教員の指導のもとに、学生自身が報告し、学生同士が意見交換を行うという学生の主体的な参加が大きな比重を占める授業である（「演習方式」という）。
達成目標	達成目標、授業計画、履修上の注意、成績評価の方法などは、オリエンテーション及び最初の授業の際に担当教員が説明する。
授業計画 (講義の具体的 内容)	開講時に担当教員が説明する。
履修上の注意	大学における学習や生活の基礎となる科目なのでできるだけ受講すること。
教科書	
参考書	
成績評価方法	各担当教員が授業中に明示する。

科目名	英語 (初級)A	単位数	2	期別	通年
科目コード	B0080	担当教員	松吉 明子	所属	高知大学非常勤講師
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	テキストに沿って基本的文法事項を学習し、英語を理解し活用できる基礎的な力を身につけ、簡単な英語の文章が読めるようになることを目的とします。 知識を実践に生かせるようにするため、テキスト付属のCDを活用して音読や口頭練習を行い、使える英語の習得を目指します。																														
授業の進め方	高校時代、英語の自信が持てなかった方、数十年間英語と縁がなかった方に配慮して繰り返し復習することで知識の定着を図っていきます。 ペアワークを多用し、相手と上手くコミュニケーションをとる練習をしていきます。																														
達成目標	(1)中学、高校時代に習った文法項目を復習、整理する。 (2)英語を話す、聞く、読む、書くという4技能に関して基礎力をつける。 (3)さらに英語力を伸ばすことができるような学習方法を身につける。																														
授業計画 (講義の具体的な内容)	<table border="0"> <tr> <td>第1回 オリエンテーション 英語で挨拶・自己紹介</td> <td>第16回 名詞、冠詞、数詞</td> </tr> <tr> <td>第2回 be動詞(現在形・過去形)</td> <td>第17回 代名詞</td> </tr> <tr> <td>第3回 一般動詞(現在形・過去形)</td> <td>第18回 形容詞、副詞</td> </tr> <tr> <td>第4回 未来形</td> <td>第19回 前置詞</td> </tr> <tr> <td>第5回 進行形</td> <td>第20回 第16回から19回の復習</td> </tr> <tr> <td>第6回 これまでの復習</td> <td>第21回 接続詞</td> </tr> <tr> <td>第7回 助動詞</td> <td>第22回 比較</td> </tr> <tr> <td>第8回 能動態・受動態</td> <td>第23回 関係代名詞</td> </tr> <tr> <td>第9回 動名詞</td> <td>第24回 関係副詞</td> </tr> <tr> <td>第10回 分詞</td> <td>第25回 第21回から24回の復習</td> </tr> <tr> <td>第11回 不定詞</td> <td>第26回 仮定法</td> </tr> <tr> <td>第12回 現在完了形</td> <td>第27回 音読・暗唱</td> </tr> <tr> <td>第13回 過去完了形</td> <td>第28回 英語の文章を読む</td> </tr> <tr> <td>第14回 第7回から13回のまとめ</td> <td>第29回 後半のまとめ</td> </tr> <tr> <td>第15回 前半の総復習</td> <td>第30回 総復習</td> </tr> </table>	第1回 オリエンテーション 英語で挨拶・自己紹介	第16回 名詞、冠詞、数詞	第2回 be動詞(現在形・過去形)	第17回 代名詞	第3回 一般動詞(現在形・過去形)	第18回 形容詞、副詞	第4回 未来形	第19回 前置詞	第5回 進行形	第20回 第16回から19回の復習	第6回 これまでの復習	第21回 接続詞	第7回 助動詞	第22回 比較	第8回 能動態・受動態	第23回 関係代名詞	第9回 動名詞	第24回 関係副詞	第10回 分詞	第25回 第21回から24回の復習	第11回 不定詞	第26回 仮定法	第12回 現在完了形	第27回 音読・暗唱	第13回 過去完了形	第28回 英語の文章を読む	第14回 第7回から13回のまとめ	第29回 後半のまとめ	第15回 前半の総復習	第30回 総復習
第1回 オリエンテーション 英語で挨拶・自己紹介	第16回 名詞、冠詞、数詞																														
第2回 be動詞(現在形・過去形)	第17回 代名詞																														
第3回 一般動詞(現在形・過去形)	第18回 形容詞、副詞																														
第4回 未来形	第19回 前置詞																														
第5回 進行形	第20回 第16回から19回の復習																														
第6回 これまでの復習	第21回 接続詞																														
第7回 助動詞	第22回 比較																														
第8回 能動態・受動態	第23回 関係代名詞																														
第9回 動名詞	第24回 関係副詞																														
第10回 分詞	第25回 第21回から24回の復習																														
第11回 不定詞	第26回 仮定法																														
第12回 現在完了形	第27回 音読・暗唱																														
第13回 過去完了形	第28回 英語の文章を読む																														
第14回 第7回から13回のまとめ	第29回 後半のまとめ																														
第15回 前半の総復習	第30回 総復習																														
履修上の注意	語学の授業は地道に努力することが大切ですので、できる限り休まず出席してください。 初級のクラスですので、英語の基礎力のある方は、別のクラスを受講してください。																														
教科書	『English Grammar: Onward&Upward』 芝垣茂、奥田良二、川口格昭 他著、セングージラーニング株式会社(2010年発行)																														
参考書	高校の時使用していた英文法の本																														
成績評価方法	授業に取り組む姿勢と授業中の発表(20%)、試験(80%)から総合的に評価します。																														

科目名	英語（初級）B	単位数	2	期別	通年
科目コード	B0090	担当教員	岡崎 薫	所属	元高知大学人文学部
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	高校までに学習した英文法の復習と英文読解の演習																														
授業の進め方	文法事項の解説と、学生による演習（英文解釈と文法問題）と発表																														
達成目標	(1) 基本的な英単語、英熟語が理解できる (2) 正しい英語の発音ができる (3) 英文法の重要事項が理解できる (4) 辞書があれば普通の英文が読めるようになること																														
授業計画 (講義の具体的な内容)	<table border="0"> <tr> <td>第1回 オリエンテーション ()</td> <td>第16回 オリエンテーション ()</td> </tr> <tr> <td>第2回 動詞について ()</td> <td>第17回 動詞について ()</td> </tr> <tr> <td>第3回 名詞について ()</td> <td>第18回 名詞について ()</td> </tr> <tr> <td>第4回 代名詞について ()</td> <td>第19回 代名詞について ()</td> </tr> <tr> <td>第5回 辞書の使い方 ()</td> <td>第20回 辞書の使い方 ()</td> </tr> <tr> <td>第6回 形容詞について ()</td> <td>第21回 形容詞について ()</td> </tr> <tr> <td>第7回 冠詞について ()</td> <td>第22回 冠詞について ()</td> </tr> <tr> <td>第8回 副詞について ()</td> <td>第23回 副詞について ()</td> </tr> <tr> <td>第9回 前置について ()</td> <td>第24回 前置について ()</td> </tr> <tr> <td>第10回 助動詞について ()</td> <td>第25回 助動詞について ()</td> </tr> <tr> <td>第11回 接続詞について ()</td> <td>第26回 接続詞について ()</td> </tr> <tr> <td>第12回 比較について ()</td> <td>第27回 比較について ()</td> </tr> <tr> <td>第13回 時制について ()</td> <td>第28回 時制について ()</td> </tr> <tr> <td>第14回 完了形などについて ()</td> <td>第29回 完了形などについて ()</td> </tr> <tr> <td>第15回 まとめ ()</td> <td>第30回 まとめ ()</td> </tr> </table>	第1回 オリエンテーション ()	第16回 オリエンテーション ()	第2回 動詞について ()	第17回 動詞について ()	第3回 名詞について ()	第18回 名詞について ()	第4回 代名詞について ()	第19回 代名詞について ()	第5回 辞書の使い方 ()	第20回 辞書の使い方 ()	第6回 形容詞について ()	第21回 形容詞について ()	第7回 冠詞について ()	第22回 冠詞について ()	第8回 副詞について ()	第23回 副詞について ()	第9回 前置について ()	第24回 前置について ()	第10回 助動詞について ()	第25回 助動詞について ()	第11回 接続詞について ()	第26回 接続詞について ()	第12回 比較について ()	第27回 比較について ()	第13回 時制について ()	第28回 時制について ()	第14回 完了形などについて ()	第29回 完了形などについて ()	第15回 まとめ ()	第30回 まとめ ()
第1回 オリエンテーション ()	第16回 オリエンテーション ()																														
第2回 動詞について ()	第17回 動詞について ()																														
第3回 名詞について ()	第18回 名詞について ()																														
第4回 代名詞について ()	第19回 代名詞について ()																														
第5回 辞書の使い方 ()	第20回 辞書の使い方 ()																														
第6回 形容詞について ()	第21回 形容詞について ()																														
第7回 冠詞について ()	第22回 冠詞について ()																														
第8回 副詞について ()	第23回 副詞について ()																														
第9回 前置について ()	第24回 前置について ()																														
第10回 助動詞について ()	第25回 助動詞について ()																														
第11回 接続詞について ()	第26回 接続詞について ()																														
第12回 比較について ()	第27回 比較について ()																														
第13回 時制について ()	第28回 時制について ()																														
第14回 完了形などについて ()	第29回 完了形などについて ()																														
第15回 まとめ ()	第30回 まとめ ()																														
履修上の注意																															
教科書	『文法から学ぶ大学基礎英語』（南雲堂）																														
参考書																															
成績評価方法	試験（65%）授業への参加姿勢（35%）などから総合的に評価する																														

科目名	英語 (中級)	単位数	2	期別	通年
科目コード	B0100	担当教員	奥村 訓代	所属	高知大学人文学部
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	編入希望者を視野に入れながら、前期は簡単な英語によるプレゼンテーションを学び、後期は、トピックなども視野に入れた聴解にもポイントにおいて学習する。	
授業の進め方	基本的に一日一課進むので、必ず予習が必要である。 また、毎回10分間の復習クイズから始め、それを出席代りにするので、時間に遅れないことと復習が必要です。	
達成目標	1) 英文の大意が把握できるようになる。 2) 文法に捉われず、日本語らしく訳せるようになる。 3) 英語を聞いて分かるようになる。 4) 英語でコミュニケーションをとることに興味を持つようになる。 5) 即答できるようになる。	
授業計画 (講義の具体的 内容)	第1回 オリエンテーション 第2回 Project1 Introducing yourself(1) 第3回 Introducing yourself(2) 第4回 Project2 News digest(1) 第5回 News digest(2) 第6回 Project3 Promoting your vacation plans(1) 第7回 Promoting your vacation plans(2) 第8回 Project4 Introducing Japan(1) 第9回 Introducing Japan(2) 第10回 Project5 Discussing social issues(1) 第11回 Discussing social issues(2) 第12回 Project6 Talking about your future plans(1) 第13回 Talking about your future plans(2) 第14回 Project7 まとめ 第15回 前期復習(テスト)	第16回 後期テキスト・授業オリエンテーション 第17回 Unit 1 イギリスのカフェで、及びUnit 1 0 道路閉鎖 第18回 Unit 2 ジョーンズ家族滞在、及び Unit 1 1 旅程表 第19回 Unit 3 コピー機の故障、及び Unit 1 2 野菜オーケストラ 第20回 Unit 4 語学学校の電話、及び Unit 1 3 レストラン 第21回 Unit 5 観光案内所で、及び Unit 1 4 定期購読 第22回 Unit 6 妻のパート探し、及び Unit 1 5 セール広告 第23回 Unit 7 新刊料理本、及び Unit 1 6 書評 第24回 Unit 8 仕事の面接、及び Unit 1 7 テニスの若きエース 第25回 Unit 9 セミナーの感想、及び Unit 1 8 求人広告 第26回 応用問題 1 第27回 応用問題 2 第28回 応用問題 3 第29回 応用問題 4 第30回 後期復習
履修上の注意	毎回の予・復習が必要である。 また、辞書は毎回必携のこと。	
教科書	前期: "Presentations to go" センゲージ ラーニングKK 後期: 『スパイラル英語トレーニング』入江泉著、The Japan Times	
参考書	授業中に適宜紹介する	
成績評価方法	3分の2以上出席者対象の試験 毎回のクイズ、その他提出物や積極性	70% 30%

科目名	英語（会話初級）	単位数	2	期別	通年
科目コード	B0110	担当教員	トーマス・マナー	所属	高知大学非常勤講師
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	英会話に楽しく慣れ親しみ、英会話の基礎を学ぶ。初級。 英語（会話中級）より、初歩の内容です。	
授業の進め方	テキストを中心にテープ等も使います。 ペアやグループになって会話の練習をしたり、ゲーム等も取り入れます。英会話初心者用のテキストを使い、その内容にそって授業を進めていきます。ペアやグループになってたくさん会話の練習をしていきますので、失敗をおそれず、積極的に話してみてください。それが上達につながると思います。また、イントネーション、ストレス、発音の指導にも力を入れていきたいと思っています。少しでも多くの英会話ができるよう、楽しい雰囲気 で授業を進めていきたいと考えています。	
達成目標	(1) 英語で簡単な会話ができるようになる。 (2) 自然な英語を聞き取れるようになる。 (3) 基本的なことがらについて意見が言える。	
授業計画 (講義の具体的 内容)	Lesson 1 To Be(1) Lesson 2 To Be(2)/Subject Pronouns Lesson 3 Present Continuous Tense Lesson 4 Possessive Adjectives Lesson 5 Adjectives/Possessive Nouns Lesson 6 Prepositions of Location Lesson 7 There Is/There Are Lesson 8 Singular/Plural(1) Lesson 9 Singular/Plural(2) Lesson 10 This/That/These/Those Lesson 11 Simple Present Tense(1) Lesson 12 Simple Present Tense(2) Lesson 13 Review(1) Lesson 14 Review(2) Lesson 15 Summary	Lesson 16 Object Pronouns Lesson 17 Simple Present Tense Lesson 18 Adverbs of Frequency Lesson 19 Simple Present and Present Continuous Tenses Lesson 20 Can/Have to Lesson 21 Future Lesson 22 Time Expressions (1)/Want to Lesson 23 Past Tense(1) Lesson 24 Past Tense(2) Lesson 25 Past Tense(3) Lesson 26 Time Expressions(2) Lesson 27 To Be(Past Tense) Lesson 28 Review(1) Lesson 29 Review(2) Lesson 30 Summary
履修上の注意	Prepare 30 minutes before each class. Please do not use KEITAI in class except for emergency. Office hours: before class in the classroom 英語（会話中級）よりやさしい内容を勉強していきますので初めて英会話に挑戦される方や、ほとんど英語が話せない方はこの授業を取られるとよいと思います。	
教科書	『SIDE by SIDE』 Steven J. Molinsky他著、ロングマン社	
参考書		
成績評価方法	授業態度 60% Mid-term test 20% Final test 20% 等で総合的に評価します。	

科目名	英語（会話中級）	単位数	2	期別	通年
科目コード	B0120	担当教員	トーマス・マナー	所属	高知大学非常勤講師
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	中級程度の英会話の修得をめざします。 英語（会話初級）より、少し高い内容を勉強します。
授業の進め方	テキストを中心にヒアリング上達のためにテープ等も使います。 ペアやグループになつての会話の練習や、ゲーム等も取り入れます。 テキストにそつて進めていき、その中で、より実践的な英会話が状況に応じて使えるよう、指導していきます。 ユニットごとに基本となる文がのつていますので、これを使って会話の練習をしたり、テープの後について言ったり、また聞き取りテスト等もします。2人やグループでの会話を取り入れ、イントネーション・ストレス・発音の指導にも力を入れていきたいと思つています。 イラストの入つた楽しいテキストは日常生活の身近な話題ばかりで会話を学ぶ楽しさを実感してもらえます。英語が自然に好きになるような授業をめざしたいと思つています。
達成目標	(1) 英文法を理解する。 (2) 英語で活発な会話ができるようになる。 (3) 英語を正確に聞き取れるようになる。
授業計画 (講義の具体的な内容)	Lesson 1 Getting to know each other Lesson 2 Talking about Interests(1) Lesson 3 Talking about Interests(2) Lesson 4 Talking about Family Lesson 5 Talking about People(1) Lesson 6 Talking about People(2) Lesson 7 Talking about Work(1) Lesson 8 Talking about Work(2) Lesson 9 Talking about Past Experiences Lesson 10 Talking about Sports Lesson 11 Talking about other Countries Lesson 12 Talking about Experiences Lesson 13 Review(1) Lesson 14 Review(2) Lesson 15 Summary Lesson 16 Talking about Places(1) Lesson 17 Talking about Places(2) Lesson 18 Travel English PartI:Traveling to Hawaii(1) Lesson 19 Travel English PartI:Traveling to Hawaii(2) Lesson 20 Talking about Japanese Things(1) Lesson 21 Talking about Japanese Things(2) Lesson 22 Talking about Future Events Lesson 23 Talking about School Lesson 24 Travel English PartII:Traveling to Thailand(1) Lesson 25 Travel English PartII:Traveling to Thailand(2) Lesson 26 Talking about Sickness & Health Lesson 27 Talkopoly Lesson 28 Review(1) Lesson 29 Review(2) Lesson 30 Summary
履修上の注意	Prepare 30 minutes before each class. Please do not use KEITAI in class except for emergency. Office hours: before class in the classroom 英語（会話初級）から、少し進んだ内容で進めていきますので、簡単な英語なら話せる方や、さらに自分の会話力を伸ばしたい方に適しています。
教科書	『Talk a Lot Book 1』 David Martin著、EFL Press
参考書	
成績評価方法	授業態度 60% Mid-term test 20% Final test 20% 等で総合的に評価します。

科目名	ドイツ語	単位数	2	期別	通年
科目コード	B0130	担当教員	持尾 伸二	所属	高知大学人文学部
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	英語以外の外国語を新たに学ぶことは、大いに意義のあることです。ドイツ語と英語はきわめて近い関係にあり、実際に学習してみるとその類似性に驚くでしょう。ドイツ語を学ぶことによりドイツ語圏の文化に身近に触れることができるだけでなく、その背後にある西洋というものの姿がこれまでよりも鮮明に見えてくるはずです。																														
授業の進め方	毎回授業の最初に発音練習をやります。そのあと前回の授業の復習をして、練習問題を受講生にやってもらいます。授業中にわからないことがあったら、いつでも遠慮せずに質問してください。																														
達成目標	(1) ドイツ語の正しい発音ができるようになる (2) やさしいドイツ語の文章を辞書を引きながら読めるようになる (3) 簡単なドイツ語の作文ができるようになる																														
授業計画 (講義の具体的な内容)	<table border="0"> <tr> <td>第1回 導入授業 ドイツ語のアルファベット。発音I</td> <td>第16回 前期授業の復習</td> </tr> <tr> <td>第2回 発音II 第1課 動詞の現在人称変化</td> <td>第17回 第8課 形容詞の格変化 形容詞の名詞化</td> </tr> <tr> <td>第3回 第1課の復習と練習問題</td> <td>第18回 第8課の復習と練習問題</td> </tr> <tr> <td>第4回 第2課 名詞の性・数・格 定冠詞と不定冠詞</td> <td>第19回 第9課 動詞の三基本形 過去人称変化</td> </tr> <tr> <td>第5回 第2課の復習と練習問題</td> <td>第20回 第9課の復習と練習問題</td> </tr> <tr> <td>第6回 第3課 不規則動詞の現在人称変化 命令</td> <td>第21回 第10課 完了形</td> </tr> <tr> <td>第7回 第3課の復習と練習問題</td> <td>第22回 第10課の復習と練習問題</td> </tr> <tr> <td>第8回 第4課 冠詞類 指示代名詞 疑問代名詞</td> <td>第23回 第11課 関係代名詞</td> </tr> <tr> <td>第9回 第4課の復習と練習問題</td> <td>第24回 第11課の復習と練習問題</td> </tr> <tr> <td>第10回 第5課 人称代名詞 前置詞</td> <td>第25回 第12課 比較級と最高級 ZU不定詞</td> </tr> <tr> <td>第11回 第5課の復習と練習問題</td> <td>第26回 第12課の復習と練習問題</td> </tr> <tr> <td>第12回 第6課 話法の助動詞 従属接続詞</td> <td>第27回 第13課 受動態</td> </tr> <tr> <td>第13回 第6課の復習と練習問題</td> <td>第28回 第13課の復習と練習問題</td> </tr> <tr> <td>第14回 第7課 分離動詞 再帰動詞</td> <td>第29回 第14課 接続法</td> </tr> <tr> <td>第15回 第7課の復習と練習問題 まとめ</td> <td>第30回 第14課の復習と練習問題 まとめ</td> </tr> </table>	第1回 導入授業 ドイツ語のアルファベット。発音I	第16回 前期授業の復習	第2回 発音II 第1課 動詞の現在人称変化	第17回 第8課 形容詞の格変化 形容詞の名詞化	第3回 第1課の復習と練習問題	第18回 第8課の復習と練習問題	第4回 第2課 名詞の性・数・格 定冠詞と不定冠詞	第19回 第9課 動詞の三基本形 過去人称変化	第5回 第2課の復習と練習問題	第20回 第9課の復習と練習問題	第6回 第3課 不規則動詞の現在人称変化 命令	第21回 第10課 完了形	第7回 第3課の復習と練習問題	第22回 第10課の復習と練習問題	第8回 第4課 冠詞類 指示代名詞 疑問代名詞	第23回 第11課 関係代名詞	第9回 第4課の復習と練習問題	第24回 第11課の復習と練習問題	第10回 第5課 人称代名詞 前置詞	第25回 第12課 比較級と最高級 ZU不定詞	第11回 第5課の復習と練習問題	第26回 第12課の復習と練習問題	第12回 第6課 話法の助動詞 従属接続詞	第27回 第13課 受動態	第13回 第6課の復習と練習問題	第28回 第13課の復習と練習問題	第14回 第7課 分離動詞 再帰動詞	第29回 第14課 接続法	第15回 第7課の復習と練習問題 まとめ	第30回 第14課の復習と練習問題 まとめ
第1回 導入授業 ドイツ語のアルファベット。発音I	第16回 前期授業の復習																														
第2回 発音II 第1課 動詞の現在人称変化	第17回 第8課 形容詞の格変化 形容詞の名詞化																														
第3回 第1課の復習と練習問題	第18回 第8課の復習と練習問題																														
第4回 第2課 名詞の性・数・格 定冠詞と不定冠詞	第19回 第9課 動詞の三基本形 過去人称変化																														
第5回 第2課の復習と練習問題	第20回 第9課の復習と練習問題																														
第6回 第3課 不規則動詞の現在人称変化 命令	第21回 第10課 完了形																														
第7回 第3課の復習と練習問題	第22回 第10課の復習と練習問題																														
第8回 第4課 冠詞類 指示代名詞 疑問代名詞	第23回 第11課 関係代名詞																														
第9回 第4課の復習と練習問題	第24回 第11課の復習と練習問題																														
第10回 第5課 人称代名詞 前置詞	第25回 第12課 比較級と最高級 ZU不定詞																														
第11回 第5課の復習と練習問題	第26回 第12課の復習と練習問題																														
第12回 第6課 話法の助動詞 従属接続詞	第27回 第13課 受動態																														
第13回 第6課の復習と練習問題	第28回 第13課の復習と練習問題																														
第14回 第7課 分離動詞 再帰動詞	第29回 第14課 接続法																														
第15回 第7課の復習と練習問題 まとめ	第30回 第14課の復習と練習問題 まとめ																														
履修上の注意	課題の練習問題は必ずやってきてください。																														
教科書	『日本語で学ぶドイツ語』春日正男 郁文堂																														
参考書	辞書等は第1回の授業で紹介します。																														
成績評価方法	授業への積極的な取り組み(20%)小テスト(15%)学期末試験(65%)を考慮に入れて総合的に評価します。																														

科目名	フランス語（初級）	単位数	2	期別	通年
科目コード	B0140	担当教員	山本 明日香	所属	高知大学非常勤講師
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	初めてフランス語を学ぶ人を対象に、最初歩からのフランス語会話と文法を学びます。				
授業の進め方	前週のおさらい / 教科書、CDを使つての講義 / ペアを組んで会話や発音の練習 / プリントを使つて復習や応用練習 (宿題があります)				
達成目標	(1) 正しい動詞の活用や、名詞の性数、それにあつた正しい冠詞などを選ぶ事が出来る。(文法の修得) (2) 簡単な文章を作る事が出来る。読む事が出来る。(応用) (3) 会話を指示に従つて作り、簡単なやりとりが出来る。聞き取つて内容を把握出来る。(コミュニケーション)				
授業計画 (講義の具体的な内容)	第1回 オリエンテーション 第2回 フランス語の音 / アルファベット / 挨拶1 第3～5回 自己紹介 / 国籍・身分 / 数字 (0～10) 第6～8回 職業 / 住んでいる所について / 数字 (11～20) / 第9～11回 否定形 / 言語 (~語を話す) / 喫茶店での飲み物 / 数字 (30～69)	第12～14回 身の回りのもの / 兄弟について言う / 年齢 第15回 まとめ、復習	第16～18回 人を描写する / 国名 / いろんな疑問文 第19～21回 物の位置 / 場所を表す言葉 / 数字 (70～100) 第22～24回 好き嫌いを言う / ~がある / 第25回 フランスの地方料理 / フランスの年間行事 第26～28回 朝食について言う / スポーツ 第29～30回 曜日 / 場所 / 招待する /	後期の間にも、会話の発表や、小テスト、ゲーム、DVD鑑賞などをする事があります。	前期の間、会話の発表や、小テスト、ゲーム、DVD鑑賞などをする事があります。
履修上の注意					
教科書	『Café français カフェ・フランセ』 朝日出版社				
参考書	仏和辞書				
成績評価方法	学年末試験 (60%) 提出物 (20%) 発表・小テスト (10%) 出席 (10%) これらから、総合的に評価します。3分の1以上の欠席者は試験受験資格を失います。				

科目名	フランス語（中級）	単位数	2	期別	通年
科目コード	B0141	担当教員	山本 明日香	所属	高知大学非常勤講師
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	「フランス語（初級）」を履修した方対象です。 前期は、初級クラスで用いた教科書を続けて学習します。後期は学習した知識を生かし、時事問題や、文学作品の抜粋、手紙文や、詩などのテキストを読みます。	
授業の進め方	前期はフランス語（初級）クラスと同様。前週のおさらい／教科書、CDを使つての講義／ペアを組んで会話や発音の練習／プリントを使って復習や応用練習（宿題があります） 後期は、テキストを読み、翻訳する事が中心です。 詩や手紙文は、自分たちでの創作もします。	
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> (1) 「フランス語（初級）」に続き、基礎文法を修得する。 (2) 修得した文法を生かし、文章を読み、理解する。 (3) 文法だけでなく、フランスの時事問題、文学等の理解を深める。 (4) 詩や、簡単な手紙文等が書けるようになる。 	
授業計画 (講義の具体的内容)	第1回 オリエンテーション 第2回 ~へ行きましょう。曜日、場所、交通手段、時間について言う 第3～5回 自分の一日について話す／時刻を言う 第6～8回 直接目的語と間接目的語の人称代名詞／自分のアルバイトについて言う 第9～12回 複合過去／半過去／レストランで注文する 第13～15回 未来について言う／命令形／前期の総復習	第16～20回 時事問題についてのテキスト 第21～25回 文学作品からの抜粋（小説）／手紙文を読む（書く） 第26～30回 詩を読む／シャンソンの歌詞を読む（歌う） （順番が変わる事があります。）
履修上の注意	「フランス語（初級）」を履修した方、フランス語の基礎を学んだ経験のある方を対象にしています。	
教科書	「Cafe français」朝日出版社(初級クラスで使用したもの) 後期のテキストは未定（コピーで渡します）	
参考書	仏和辞書	
成績評価方法	学年末試験（60%）、提出物(30%)、出席(10%)から総合的に評価します。授業への積極的な参加が求められます。 3分の1以上の欠席者は学年末試験資格を失います。	

科目名	中国語（初級）	単位数	2	期別	通年
科目コード	B0150	担当教員	池 純子	所属	高知大学非常勤講師
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	中国語は日本人にとって漢字という共通の文字を持つ親しみやすい言語ですが、発音という点では、かなり異なっています。この授業では繰り返し発音練習をして正確な発音を習得するようにします。また、会話練習を重点的に行い、簡単な文章を口頭練習し、聞き取れ、表現できるようにします。言葉の習得はその国を理解する上で大きな手助けとなりますし、中国語は今後様々な分野で必要となる言語です。授業の中では、中国事情についても触れる予定です。				
授業の進め方	演習形式 対話で会話練習 口頭練習を重視				
達成目標	(1) 中国語のローマ字による発音表記(ピンイン)を習得し、正しい発音ができるようになる。 (2) 基本単語を覚え、基本文法を学ぶ。 (3) 聞き取り練習によって、簡単な文が聞き取れ、簡単な会話ができるようになる。 (4) 辞書を使って単語の意味や、簡単な文が理解できるようになる。				
授業計画 (講義の具体的な内容)	第1回 オリエンテーション	第16回	発音・文型復習		
	第2回 発音練習(声調・単母音) 第1課 中国人ですか(人称代名詞/「是」)	第17回	第7課 何人家族ですか (介詞1、存在文、反復疑問文)		
	第3回 発音練習(子音) 第1課	第18回			
	第4回 発音練習(複合母音) 第2課 これは何ですか(指示代名詞/疑問詞疑問文/「的」の用法/副詞)	第19回	第8課 何時からアルバイトをしますか。		
	第5回 発音練習(鼻母音) 第2課	第20回	(時間量、助動詞「得」、介詞2)		
	第6回 発音練習(r化・変調) 第3課 あなたはどこへ行きますか (動詞文、所有文、省略疑問文)	第21回	第9課 アメリカへ行ったことがありますか。		
	第7回 発音練習(復習) 第3課	第22回			
	第8回 復習・中間テスト	第23回	(過去の経験、是~的文、介詞3)		
	第9回 発音復習 第4課 このかばんいくらですか(量詞、指示代名詞、形容詞文、「几、多少いくつ」)	第24回	復習・中間テスト 第10課 歌が歌えますか。		
	第10回 発音復習 第4課	第25回	(助動詞「能・会」、動作の様態、動詞の重ね型)		
	第11回 発音復習 第5課 夜、用事がありますか(数字、日付・時刻、動作の時点)	第26回	第11課 何をしているんですか。		
	第12回 発音復習 第5課	第27回	(進行、「~しに来る・行く」、選択疑問、目的語が文頭に出る文)		
	第13回 発音復習 第6課 ご飯を食べましたか(完了、所在文、助動詞「想」)	第28回	第12課 いい旅を!		
	第14回 発音復習 第6課	第29回	(比較、的の用法、二重目的語、主述述語文)		
	第15回 復習	第30回	復習とまとめ(1)		
履修上の注意	休まずに受講すること。授業中は積極的に発音、口頭練習をすること。				
教科書	『中国語ははじめの一步』竹島金吾監修 白水社				
参考書	中日辞典				
成績評価方法	前期末試験、学年末試験を行う。前期末試験(30%) 学年末試験(40%)、授業中の発表、課題の提出(30%)等を併せて総合的に評価する				

科目名	中国語（中級）	単位数	2	期別	通年
科目コード	B0160	担当教員	池 純子	所属	高知大学非常勤講師
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	初級の基礎の上に、単語を増やし、少し複雑な構文を学びます。基礎的な文法を確実なものにすることで、会話の幅を広げ、基本的な作文ができるようにします。さらに、実際に使える表現を繰り返し練習してマスターするようにします。また、中国文化に関する簡単な読み物を取り上げ、中国文化への知識を深めます。
授業の進め方	演習形式。 会話練習を重視。 簡単な作文をして、発表する。
達成目標	(1)正しい発音ができる。発音表記(ピンイン)が読み、書ける。 (2)簡単な文が聞き取れ、作文ができ、会話ができる。 (3)ややまとまった文を読んで日本語訳ができるようにする。
授業計画 (講義の具体的 内容)	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 第1課 中国へ行こう！</p> <p>第3回 (主述述語文、助動詞、目的語が主述句)</p> <p>第4回 第2課 ジャスミン茶を飲もう！</p> <p>第5回 (「的」の用法、「原因理由」の表現、文末助詞)</p> <p>第6回 第3課 友達を作ろう！</p> <p>第7回 (連動文、是～的構文、疑問詞「怎么」)</p> <p>第8回 復習1・中間テスト</p> <p>第9回 第4課 長城に登ろう</p> <p>第10回 (「了」の3つの用法、副詞「就」)</p> <p>第11回 第5課 卓球を楽しもう！</p> <p>第12回 (様態補語、可能性の「会」、仮定)</p> <p>第13回 第6課 漢字を覚えよう！</p> <p>第14回 (結果補語、副詞「有点儿」)</p> <p>第15回 復習2</p> <p>第16回 復習</p> <p>第17回 第7課 街を歩こう！</p> <p>第18回 (存現文、主語がフレーズの時、「又～又～」「一边儿～一边儿～」)</p> <p>第19回 第8課 中国映画を見よう！</p> <p>第20回 (「状態の持続」を表す「着」、副詞「再」、疑問詞の不定用法)</p> <p>第21回 第9課 チャイナドレスを買おう！</p> <p>第22回 (方向補語、使役「让」)</p> <p>第23回 復習1・中間テスト</p> <p>第24回 第10課 中華を食べよう！</p> <p>第25回 (可能補語、強調表現)</p> <p>第26回 第11課 西遊記を読もう！</p> <p>第27回 (結果補語2、受け身「被」)</p> <p>第28回 第12課 春節を祝おう！</p> <p>第29回 (「快～了」、「把」構文)</p> <p>第30回 復習2</p>
履修上の注意	授業は休まずに出席すること。 積極的に口頭練習に参加すること。 辞書をよく使いこなすこと。
教科書	『中国語つぎへの一步』尹景春・竹島毅著 白水社
参考書	中日辞典 日中辞典
成績評価方法	中間試験、期末試験を行う。授業中の発表と課題の提出(30%)中間試験(30%)期末試験(40%)などから総合的に評価する?中間試験、期末試験の意味が明確になるように記述を変える、例えば、中間試験ではなく「授業期間中に行う小テスト」など、期末試験も「学年末の試験に行う試験」などとする。たとえば韓国語シラバスのような表現を参照?

科目名	韓国語（初級）	単位数	2	期別	通年
科目コード	B0170	担当教員	具 珉京	所属	財団法人福井保育協会
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	韓国語の仕組みからハングルの読み書き、そして基本的な韓国語の文章が理解出来、簡単な挨拶や会話を身に付ける。				
授業の進め方	テキストをもとに講義をする。 プリントを使つての演習とペアやグループになって会話の練習をする。 最初はハングルの文字と発音を十分身に付けるために、韓国語の仕組みや、ハングルの読み書きの練習をし、文法と表現の学習を段階的に学べるようにする。後半では、簡単な会話演習も行う。試験は中間テストと期末試験の2回行う。				
達成目標	(1) 韓国語の仕組みを理解する (2) ハングル文字と日常生活に良く出てくる単語を覚える。 (3) 初めて習う人が1年で簡単な文章が作れるようになる。 (4) 挨拶を中心に簡単な日常会話ができるようになる。 予習復習を熱心にし、巻末の用言活用表で不規則用言の変化まで覚えると、ハングル能力検定試験4級に相当する力がつく。				
授業計画 (講義の具体的な内容)	第1回 オリエンテーション 第2回 韓国語の仕組みとハングルについて 第3回 挨拶表現(1) 母音(1) 第4回 挨拶表現(2)と子音(1)・母音(2) 第5回 挨拶表現(3)と子音(2)・母音(3) 第6回 挨拶表現(4)と終声 第7回 挨拶表現(4)と発声 第8回 指定詞 第9回 指定詞の否定形 第10回 改まりの上称形 第11回 漢数詞と助数詞 第12回 固有数詞と助数詞 第13回 韓国の日常生活と会話 第14回 復習の為の会話練習 第15回 授業前半のまとめと復習	第16回 親しさの上称形(1) 第17回 親しさの上称形(2) 第18回 方向位置名詞 第19回 過去時制 第20回 否定形と不可能形 第21回 尊敬表現 第22回 動作の継続と希求表現 第23回 婉曲と根拠の表現 第24回 連体形 第25回 意志・相談・可能形 第26回 用言活用、助詞の整理、文法形式 第27回 韓国の風習と言語について 第28回 復習の為の会話練習 第29回 授業後半のまとめと復習 第30回 総まとめと質疑応答			
履修上の注意	欠席しないこと。予習・復習をすること。				
教科書	『楽しく学ぶハングル1』浜之上幸監修、姜英淑・印省熙・黄善英・林史樹・呉順瑛・朴校熙・雁昌玉著、白帝社				
参考書	韓日辞書、日韓辞書				
成績評価方法	授業態度 30% 前期授業期間中に行う中間テスト 30% 後期試験期間に行う期末試験 40%				

科目名	韓国語（中級）	単位数	2	期別	通年
科目コード	B0180	担当教員	具 珉京	所属	財団法人福井保育協会
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	韓国語の基本的な文章の理解と会話を習得することを目的とする。	
授業の進め方	テキストをもとに講義をする。(プリントを使つての演習) 単語と文法を覚え、文章を理解し表現できるようにした上で、ペアやグループになって会話練習を行い、ヒアリング力も身につくようにする。 中間テストと期末試験を行う。	
達成目標	(1) 一般的に良く使われるハングル文字や文章の読み書きが出来るようになる。 (2) 日常会話力がレベルアップする。 (3) ヒアリング力がつくようになる。 予習復習を熱心にし、テキストを完全にマスターして、付録や読解編の文法事項まで覚えると、韓国での生活に支障をきたさないレベルの語学力、ハングル能力検定試験3級に相当する力がつく。	
授業計画 (講義の具体的な内容)	第1回 オリエンテーション 第2回 韓国語初級からの確認事項 第3回 過去時制と未来連体形 第4回 相談・提案の表現 第5回 否定表現と不可能表現 第6回 現在連体形と活用用言 第7回 変格用言(1)と原因・理由(1)の表現 第8回 変格用言(2)と意向の表現 第9回 過去連体形と経験の表現 第10回 変格用言(3)と連用形を用いた表現 第11回 変格用言(4)と文中の疑問形 第12回 変格用言(5)と継続の表現(1) 第13回 韓国の伝統と文化と言語について 第14回 復習の為の会話練習 第15回 授業前半のまとめと復習	第16回 尊敬の丁寧な命令、勧誘、簡単な表現 第17回 同意・確認と希求・願望の表現 第18回 許可と義務の表現 第19回 意志・推量と意図の表現 第20回 用言の名詞形を用いた表現 第21回 目的の表現と副詞形 第22回 ハンタ体と伝聞の表現 第23回 原因・理由・(2)と動作や対象の変化の表現 第24回 ぞんざいしない方と禁止の表現 第25回 継続の表現(2) 第26回 自分の力で読んでみよう(読解編) 第27回 補充文法、発音変化の整理、漢数詞と固有数詞、文法形式 第28回 復習の為の会話練習 第29回 授業後半のまとめと復習 第30回 総まとめと質疑応答
履修上の注意	韓国語（初級）を受講していることが望ましい。 予習・復習をする事、欠席しないように。	
教科書	『楽しく学ぶハングル2』浜之上幸監修、姜英淑・印省熙・黄善英・林史樹・呉順瑛・朴校熙・雁昌玉著、白帝社	
参考書	韓日辞書 日韓辞書	
成績評価方法	授業態度 30% 中間テスト30% 期末試験40%	

科目名	保健体育	単位数	2	期別	後期
科目コード	C0190	担当教員	本間 聖康	所属	高知大学教育学部
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	生活と健康（特に運動と健康） ライフスタイルの変化により、日常生活における身体活動は大幅に軽減された。 ここでは、主に運動（身体活動）と健康の関係についてみていく。
授業の進め方	講義形式
達成目標	(1) 運動（身体活動）と健康の関係について理解し、生活に生かすことができる。 (2) 健康管理のために、メディカルチェックが重要であることが理解できる。 (3) 健康の保持・増進のために運動（身体活動）を実施する際の注意点が理解できる。
授業計画 (講義の具体的 内容)	第1回 人間と運動 第2回 運動不足の実態 第3回 ベッド・レスト・スタディ 第4回 運動と心臓疾患の予防 第5回 運動と心臓 第6回 運動と血圧 第7回 肥満と血中脂質に及ぼす影響 第8回 体力に及ぼす効果 第9回 喫煙と運動 第10回 運動と寿命 第11回 自覚的効果 第12回 運動の功罪 第13回 運動処方とは 第14回 運動処方の手順 第15回 運動処方の内容
履修上の注意	特になし
教科書	なし
参考書	『新版 運動処方』池上晴夫著、朝倉書店 『スポーツ医学』池上晴夫著、朝倉書店
成績評価方法	期末試験（100%）

科目名	体育実技A	単位数	2	期別	通年
科目コード	C0200	担当教員	神家 一成	所属	高知大学教育学部
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	仲間と共にスポーツのもつ本来の楽しさに触れることにより、生涯を通じて主体的にスポーツに親しむために必要な資質や能力を形成していくことを目的とする。
授業の進め方	全期間を4つの単元に区分し、数種のスポーツ実技を行う。基本技術の習得とゲームの実践を中心として行う。
達成目標	(1) 各スポーツにおける基礎的技能を習得する。 (2) ルールを理解し、ゲームに参加してプレーすることができる。 (3) 審判の役についてゲームを進行することができる。
授業計画 (講義の具体的な内容)	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p><バドミントン> 第2回 用具に慣れる 第3回 簡易ゲーム 第4回 ストローク練習、ダブルスゲーム 第5回 ストローク練習、ダブルスゲーム 第6回 フライ練習、シングルスゲーム 第7回 フライ練習、シングルスゲーム 第8回 総括ゲーム</p> <p><ソフトバレーボール> 第9回 ボールに慣れる 第10回 パス練習、簡易ゲーム 第11回 パス練習、簡易ゲーム 第12回 サーブ練習、ゲーム 第13回 集団技能練習、ゲーム 第14回 集団技能練習、ゲーム 第15回 総括ゲーム</p> <p><テニス> 第16回 用具に慣れる 第17回 フォアハンドグラウンドストローク 第18回 フォアハンドグラウンドストローク 第19回 バックハンドグラウンドストローク 第20回 バックハンドグラウンドストローク 第21回 サーブ、ボレーストローク 第22回 ゲーム 第23回 ゲーム</p> <p><卓球> 第24回 用具に慣れる 第25回 フォアハンドストローク 第26回 バックハンドストローク 第27回 シングルスゲーム 第28回 シングルスゲーム 第29回 ダブルスゲーム 第30回 ダブルスゲーム</p>
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・ 体育実技にふさわしい服装(ウェア、シューズ)で参加すること。 ・ ルール、マナーを守り、フェアプレーを心がけること。 ・ 仲間と協力して行うことを心がけること。
教科書	不 要
参考書	
成績評価方法	授業への参加状況(40%)、受講態度(40%)、レポート(20%)を総合的に評価する。

科目名	体育実技B	単位数	2	期別	通年
科目コード	C0210	担当教員	駒井 説夫	所属	高知大学教育学部
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	授業を通してスポーツのもつ本来の楽しさに触れるとともに、生涯を通じて主体的にスポーツを実践するために必要な資質や能力を形成していくことを目的とする。				
授業の進め方	全期間を3つの単元に区分し、数種のスポーツ実技を行う。基本技術の習得とゲームの実践を中心として行う。				
達成目標	(1) 各スポーツにおける基礎的技能を習得する。 (2) ルールを理解し、ゲームに参加することができる。 (3) 審判の役についてゲームを進行することができる。 (4) 技能・体力レベルの差を認めながらも、互いにゲームを楽しむことができる。				
授業計画 (講義の具体的内容)	第1回 オリエンテーション <バドミントン> 第2回 簡易ゲーム 第3回 バドミントンの基礎技術 第4回 各種ストローク練習、ダブルスゲーム 第5回 各種ストローク練習とサービス、ダブルスゲーム 第6回 各種ストローク練習とルール・審判について シングルゲーム 第7回 総合練習とシングルゲーム 第8回 総合練習とダブルスゲーム 第9回 総合練習とダブルスゲーム 第10回 総括ゲーム ソフトバレーボール 第11回 簡易オリエンテーション ソフトバレーボールの技術と練習ゲーム 第12回 パス練習と簡易ゲーム	第13回～18回 ルール、基礎技術(パス、スパイク、レシーブ)具体的な練習方法(フォーンメーション等)、ゲームの行い方等の説明とゲーム 第19回～第20回 総括ゲーム <卓球> 第21回 簡易オリエンテーション、用具に慣れる 第22回～第24回 基本打法の習得(各種ストローク、サービス) 第25回～第27回 ルール・審判法とゲーム形式練習 第28回 シングルゲーム 第29回 ダブルスゲーム 第30回 ダブルスゲーム			
履修上の注意	・ 体育実技にふさわしい服装(ウエア、シューズ)で参加すること。 ・ ルール、マナーを守り、フェアプレーを心がけること。 ・ 仲間と協力して行うことを心がけること。				
教科書	特になし				
参考書	資料を配布する予定。				
成績評価方法	授業への参加姿勢(50%)、受講態度(20%)、技能(10%)、レポート(20%)から総合的に評価する。				

科目名	哲学		単位数	2	期別	前期
科目コード	D0220		担当教員	原崎 道彦	所属	高知大学教育学部
連絡先	電話	088-844-8370(研究室)				
	E-mail	harasaki@kochi-u.ac.jp				
授業概要 (テーマ等)	授業のサブタイトルは「リラクゼーションの哲学」。リラクゼーションは「たんなるリラックス」とは異なるものです。しかるべきメソッドに基づいてなされるリラクゼーションは、私たちを深く非日常的な体験へと導きます。体験のその「深さ」こそが、リラクゼーションで哲学することを可能とするのです。この授業は、リラクゼーション体験を深めながら、その深い体験をもとに哲学しようとする授業です。					
授業の進め方	毎時間、最後に、授業を聞いて考えたことを短いレポートにまとめる時間をとります。次の時間は、そのレポートへコメントするところから始まります。					
達成目標	(1) 哲学という学問のスタイルを理解する。 (2) リラクゼーションの基礎となる哲学的な人間論を理解する。 (3) リラクゼーションのための基本的な技術を身につけ、リラクゼーションをおこなえるようになる。 (4) リラクゼーションのもつ可能性を理解し、生活に役立てることができるようになる。					
授業計画 (講義の具体的内容)	第1回 授業のすすめ方や成績評価についてのオリエンテーション。 第2回 リラクゼーションとは何か(その1) 第3回 リラクゼーションとは何か(その2) 第4回 リラクゼーションとは何か(その3) 第5回 リラクゼーションとは何か(その4) 第6回 リラクゼーションとは何か(その5) 第7回 リラクゼーションの世界(その1) 第8回 リラクゼーションの世界(その2) 第9回 リラクゼーションの世界(その3) 第10回 リラクゼーションの世界(その4) 第11回 リラクゼーションの可能性(その1) 第12回 リラクゼーションの可能性(その2) 第13回 リラクゼーションの可能性(その3) 第14回 リラクゼーションの可能性(その4) 第15回 まとめ					
履修上の注意	自宅でのリラクゼーションの実習をとまなう授業です。実習用のCDを配布します。自宅でのリラクゼーション実習ではCDプレイヤーが必要です。リラクゼーションの実習は授業でも行います。リラクゼーションは、教室で普段の格好のまま行える内容のもので、カラダやココロに負担がかかるものではありませんが、カラダやココロに病院での治療を必要とするところを抱えている方は、念のために1時間目のガイダンスの際に原崎に相談してください。また、リラクゼーションの実習は非常に静かな世界となります。その静寂さを壊す行為(おしゃべり等)を行う学生は退室を求められることがあります。					
教科書	教科書のかわりとなるテキストを2時間目に配布します。					
参考書	授業で紹介します。					
成績評価方法	毎時間(ガイダンスの1時間目は除く)、授業の最後に授業を聞いて考えたことをまとめたレポートを書く時間をとります。そのレポートの点数が、1回5点満点で、14回で70点満点となります。学期の中間での2回のレポート、期末レポートも提出してもらいます。そちらが計30点となります。中間レポートや期末レポートの課題や分量や提出期間などについては、1時間目のガイダンスで詳しく説明します。6回以上の欠席で、自動的に履修の資格を失います。20分以上の遅刻は欠席扱いとします。また、授業に出ても(授業の最後で書いてもらう)レポートの提出がない場合や、レポートの内容が授業の内容に沿っていない場合は、欠席扱いとなります。20分以上の遅刻は欠席扱いとします。毎時間のレポートが全て提出されていても、中間および期末のレポートの提出がない場合は、失格となります。					

科目名	文学	単位数	2	期別	前期
科目コード	D0230	担当教員	芋生 裕信	所属	高知県立大学 文化学部
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	俳句革新、短歌革新、『ホトトギス』への支援、夏目漱石や後輩たちのかかわり等をポイントに、正岡子規が近代俳句、近代短歌、写生文において果たした役割を作品に即してたどっていきます。
授業の進め方	受講生との質疑応答、意見交換を積極的に取り入れながら、子規の作品、文章を丁寧に読んでいきます。一つのテキストを中心にして、ともに読み深める「講読」形式の授業になります。
達成目標	(1) 俳句、短歌、写生文が鑑賞、理解できるようになる。 (2) 近代詩歌の世界において子規が果たした役割が理解できるようになる。 (3) 自分の考えが口頭で、また文章で発表できるようになる。
授業計画 (講義の具体的 内容)	第1回 オリエンテーション 第2回 子規の生涯 第3回 俳句の革新 理論(1) 第4回 俳句の革新 理論(2) 第5回 俳句の革新 実作(1) 第6回 俳句の革新 実作(2) 第7回 短歌の革新 理論(1) 第8回 短歌の革新 理論(2) 第9回 短歌の革新 実作(1) 第10回 短歌の革新 実作(2) 第11回 『ホトトギス』と子規(1) 第12回 『ホトトギス』と子規(2) 第13回 漱石と子規(1) 第14回 漱石と子規(2) 第15回 まとめ
履修上の注意	小レポートを数回課しますので、熱心に取り組んでください。
教科書	『ちくま日本文学 正岡子規』筑摩書房(2009年):必携
参考書	授業の中で紹介します。
成績評価方法	平常点(小レポートを含む。40%)と期末レポート(60%)を総合して評価します。

科目名	芸術・文化論	単位数	2	期別	前期	
科目コード	D0240	担当教員	河村 章代	所属	高知県文化財団	
連絡先	電話					088-866-8013
	E-mail					akiyo_kawamura@kochi-bunkazaidan.or.jp

授業概要 (テーマ等)	芸術文化は私たちの暮らす社会や生活とどう関わっているでしょうか。 美術や演劇、音楽は、なくても困るものではありません。本当にそうでしょうか。県内でのアートイベントや文化施設の現状など、できるだけ身近で具体的な事例を用いて、社会になぜ芸術文化が必要なのか、を考えたいと思います。
授業の進め方	講義形式を基本に、意見交換など双方向の講義をめざしたい。
達成目標	(1) 現在の文化政策について関心を持ち、理解できるようになる (2) 自分が暮らす地域の文化政策に対して考えをまとめることができるようになる (3) 芸術文化を通じた地域づくりについて関心を持ち、理解できるようになる
授業計画 (講義の具体的 内容)	授業計画は下記の内容を予定しています。 第1回 オリエンテーション 第2回 指定管理者制度と文化施設 第3回 文化の担い手 第4回 なぜ地域に美術館、博物館が必要か 第5回 地域とアート - アーティスト・イン・レジデンス 第6回 演劇は社会に役に立つのか 第7回 歴史的建造物を活用した芸術文化事業 第8回 地域活性化と芸術文化 第9回 ホールはハコモノか 第10回 子どもと芸術 第11回 障がい者と芸術 第12回 災害と文化財 第13回 観光と芸術文化 第14回 まとめ1 第15回 まとめ2
履修上の注意	美術や演劇、映画、音楽など芸術文化に関心がある人が望ましい。関心の度合いは問いません。必須ではありませんが、鑑賞をすすめる催しを適宜紹介します(入場料等は自己負担で願います)。
教科書	適宜資料を配布します。
参考書	『芸術立国論]平田オリザ著、集英社(2001年) 他、講義の中で随時紹介します。
成績評価方法	期末試験に代えた課題レポート(60%)、授業への参加姿勢(40%)の比率で、総合的に評価する。平常点には数回実施予定の小レポートの評価を含む。

科目名	文章表現技法	単位数	2	期別	前期
科目コード	D0250	担当教員	池田 洋一	所属	土佐塾高校非常勤講師
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	講義形式で進めます。しかし、実際に書かないと上達しませんので、後半は小論文を書いてもらいます。よい文章は、一体どうすれば書けるのか。この課題に、よりよい解答が出るように挑戦します。よい文章の書き方として、用字・用語、句読点の勘所、構想の立て方、構成の取り方を最初に学んでいきます。そして、テーマへの取り組み方、その効果的な表現などを当方で用意したテキスト・問題文に即して、実践的に学んでいきます。今後、さまざまな場面で要求される小論文が、最終的にきちんと書ける段階までを目標とします。	
授業の進め方	最初はよい文章とは何かを概説的に説明します。日本語の基礎知識、執筆技術の基礎知識、書き方のコツなどを全般的に指導します。当方で書いたものを配布し、その上で、問題点を話して行きます。その後、テキスト(教科書等)の読み込み、相互の批評・分析を加えて、名文から書き方の要諦・方法を学びます。文章上達のコツは、名文をよく読み込むこと、数多く書き込むことなので、課題文を出して、必要に応じて小論文を書いてもらい、添削・批評をして行きます。文章上達には、他者の目に曝すことが必要です。	
達成目標	(1) 大学生として要求される基礎的な文章表現の能力を身につける。 (2) 明晰で、論理的な文章の書き方を習得する。 (3) 実際に課題をあたえられて、小論文が十分に書けるところまでを目標とする。	
授業計画 (講義の具体的な内容)	<p>第1回：オリエンテーション、文章を書く際の基礎知識・概説</p> <p>第2回：小論文の基本技術 正しい文章を書くために A・主語・述語 B・修飾の順序 C・文末表現 D・助詞の使い方</p> <p>第3回：小論文の基礎 A・原稿用紙の使い方 B・符号の使い方 C・文のつながり方 D・句読点の打ち方</p> <p>第4回：小論文の基礎 A・よい文章とは一わかりやすさと読みやすさ B・文章修行のやり方など C・小論文 と作文の違い D・情報の集め方など</p> <p>第5回：小論文の基礎 テーマ・発想の展開 A・テーマの見つけ方 B・テーマの絞り方 C・発想の方法 D・構想の立て方</p> <p>第6回：小論文の基礎 ・文章構成のノウハウ 具体的な構成の立て方 A・実際的小論文の問題と模範答案を使う B・書き方の具体的な手順を板書・記載したもので説明</p> <p>第7回：「教科書」を読み込む 辰濃和男『文章のみがき方』を使う A・相互批評を行う B・分析する C・文章の勘所を学ぶ</p>	<p>第8回：「教科書」を読み込む 辰濃和男著『文章のみがき方』を使う A・相互批評を行う B・分析をする C・文章の勘所を学ぶ</p> <p>第9回：課題文の演習 一課題問題の書き方・方法 抽象的なテーマの場合 A・具体的な書き方は記載したもので説明 B・実際に小論文を書く C・書いたものを推敲</p> <p>第10回：課題文の演習 複数の資料・グラフのついた問題 A・問題点を指摘し、実際に小論文を書いてもらう</p> <p>第11回：課題文の演習 時事的な問題 第12回：課題文の演習 時事的な頻出問題 第13回：課題文の演習 よく出る問題 第14回：課題文の演習 よく出る問題 第15回：まとめ 明晰でわかりやすい、論理的な文章を書くための「まとめ」</p> <p>授業の進め方は、1回から6回目までを、上記の基礎的な内容に費やします。 7回・8回目では教科書(『文章のみがき方』)で文章の要諦・勘所を学びます。 9回から14回目は、その応用・実践編とし、15回目を「まとめ」とします。</p>
履修上の注意	教科書は言うまでもないが、国語辞典を持参のこと。原稿用紙は当方で用意をします。	教科書は7回・8回目で使いますので、生協の書店にて必ず購入してもらいます。前もって読み込んでおくこと。
教科書	『文章のみがき方』辰濃和男著、岩波新書(819円税込) *上記は購入してもらいます。* 他はすべてプリントを配布します。	
参考書	『文章読本』丸谷才一著、中公文庫、『日本語の作文技術』本多勝一著、朝日文庫、『悪文一裏返し文章読本』中村明著、ちくま新書、『作家の文体』、『名文』ともに中村明著、ちくま学芸文庫、『勝つための論文の書き方』鹿島 茂著、文春新書。これらは推薦図書ですが、購入する必要はありません。	
成績評価方法	授業の姿勢(10%)、書評・小論文の内容(10%)、期末試験(80%)から総合的に評価をします。期末試験(テスト)は、7月31日(木)の1時限目を予定しています。	

科目名	自然科学	単位数	2	期別	前期
科目コード	D0260	担当教員	一色 健司	所属	高知県立大学 地域教育研究センター
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	様々なものの量・状態や現象を計測して量的に表現するために、自然科学の成果が幅広く利用されています。本授業では「計測標準と単位を通して見た自然科学」をテーマとして、日常生活の中で使われているいろいろな量や単位を題材として、これらの背景にある自然現象と自然法則を解説します。
授業の進め方	講義形式で進めますが、授業中に演習問題を解いていただくこともあります。質疑応答は授業中に行うほか、レスポンスシート兼出席確認票やレポートに併記された質問、電子メールで出された質問に対しては、授業中またはウェブページへの掲載によって回答します。
達成目標	(1) 基礎的なことから順を追って論理的に考えることができるようになる。 (2) 様々な量や単位の決め方や測り方を通じて、基本的な自然現象と自然法則を理解する。 (3) 自然を理解するときに量的表現を用いることの重要性を実感する。 (4) 科学的なものの見方・考え方のできる教養あるより良き市民としての素養を培う。
授業計画 (講義の具体的な内容)	日常生活で出会う現象や日常生活で使う量を取り上げながら、以下の話題を解説します。難易度はなるべく受講生に合わせるつもりです。また、受講生からの質問や疑問等への回答や、内容に関連する最新の研究成果や時事的な話題も取り入れます。 第1回 単位とは、SI単位、単位に関する法令 第2回 時間の計測と暦－惑星の運動と暦、太陽暦とグレゴリオ暦 第3回 時間と時刻－協定世界時と原子時計 第4回 長さや位置－光速不変の原理と特殊相対論 第5回 質量と重さ－力と運動法則、等価原理と一般相対論 第6回 物質の構造と原子分子－単位モルとアボガドロ定数、原子の存在証明 第7回 原子の種類と周期表－原子の成り立ち 第8回 原子量と原子数の計測－質量標準としての原器、新しい質量標準 第9回 摂氏温度と絶対温度－理想気体、水の状態変化 第10回 黒体放射－太陽表面温度と地表温度、温室効果 第11回 光と視覚－光度と比視感度曲線 第12回 熱と仕事－エネルギー、質量とエネルギーの等価性、特殊相対論(再) 第13回 電気に関わる現象と電気エネルギー 第14回 放射線と放射能 第15回 SI単位の将来(まとめ)
履修上の注意	授業で映写したスライド、自習用資料、質問に対する回答のうち授業で触れなかった事項をウェブページで提供しますので、可能であればウェブページを閲覧できる環境を用意してください。自宅でもかまいませんし、大学の情報演習室も使用できます。
教科書	使用しません。映写資料を用いて解説します。 授業の中で計算問題を解いていただくことがありますので、可能であれば電卓を持参してください。携帯電話の電卓機能を使用したのでもかまいません。
参考書	『理科年表』国立天文台編、丸善(毎年発行されています。最新のもの(2014年版)がよいですが、それ以前のものでもかまいません。授業で取り上げた様々な量に関するデータが記載されていますので、自習用教材として使用すると良いでしょう)。大学の情報演習室の端末を使うと、オンライン版理科年表も利用することができます
成績評価方法	授業への参加姿勢(20%)、授業時に出席するレポート(不定期に数回程度出題)(30%)、期末試験(50%)を得点化し、その合計点で評価します。

科目名	心理学	単位数	2	期別	前期
科目コード	D0270	担当教員	矢野 宏光	所属	高知大学教育学部
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	<p>心理学の多くの分野の中から、受講生の興味や関心が高いと思われる分野を中心に取り上げ、心理学の基礎的な講義を行います。この講義を通して、心を科学的にとらえる力を身につけるとともに、人間理解や自己理解を深めて欲しいものです。</p> <p>さらに、担当者の専門とする健康心理学・運動心理学・スポーツ心理学などの領域の講義内容は、他ではあまり受講する機会がありません。けれど、「心と身体つながり」を考える上では、実生活にも密着した内容が展開されますので、興味関心がある方はどうぞ受講して下さい。</p>
授業の進め方	<p>・講義形式を主とするが、質問や意見を求める機会も設ける。簡単な心理実験や心理検査なども実施する予定。</p>
達成目標	<p>(1)心理学に対する興味や関心を高める。(関心・意欲・態度) (2)重要な概念や用語の意味を理解できる。(知識・理解) (3)日常的な文脈の中で、学習した事柄を活かすことができる(活用力)</p>
授業計画 (講義の具体的な内容)	<p>全ての学問には基礎的分野と応用的分野があり、心理学も然りである。とりわけ心理学は、日常生活における人間理解や自己理解を深めていくうえでの実用性が高い学問である。本講義では、これまでの心理学研究から見出されてきた様々な理論的見解(心のしくみや働き)を深く学ぶことによって、実生活の中で心理学的枠組みを通して自己を客観的にみつめ、他者の心を理解し、よりよい生き方をしていくための基礎的能力を養う。</p> <p>第1回 オリエンテーション(心を科学するとは) 第2回 見る・聞く・感じるころ(知覚) 第3回 学ぶ・覚えるころ(学習・記憶) 第4回 やる気の心理(動機づけ・欲求) 第5回 喜怒哀楽のころ(感情・フラストレーション・ストレス) 第6回 その人らしさの心理(人間性とパーソナリティ) 第7回 かしこさの心理(知能) 第8回 考えるころ(思考・問題解決・創造性) 第9回 発達するころ(乳幼児期・児童期・青年期の発達) 第10回 発達するころ(成人期・高齢期の発達) 第11回 人と関わる心理(対人認知・帰属理論) 第12回 人と集うころ(集団の心理・リーダーシップ・社会的影響) 第13回 健康なころ(メンタルヘルス・心理臨床の対象・心理療法) 第14回 運動ところ(身体運動の意義と効果・TTM) 第15回 競技スポーツところの関係(メンタルトレーニング)</p>
履修上の注意	<p>授業中に数回小レポートを課します。</p>
教科書	<p>使いません。資料を配布します。</p>
参考書	<p>その都度、紹介します。</p>
成績評価方法	<p>小レポート(30%)、期末試験(50%)、授業への参加姿勢(20%)から総合的に評価します。</p>

科目名	憲法	単位数	2	期別	前期
科目コード	E0280	担当教員	小林 直三	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	この講義では、おもに、日本国憲法が想定する統治システムに関して解説する。ただし、たんに規定を逐条解釈するのではなく、その文化的背景や文化との相互関係、そして、比較法文化的な視点から捉えて、解説する。
授業の進め方	通常の講義形式で行う。
達成目標	(1) 立憲主義の文化的背景および歴史的発展並びに基本理念を理解できるようになる。 (2) 日本国憲法が想定する統治システムに関して、その文化的背景や文化との相互関係、そして、比較法文化的な視点から捉えたうえで、正確に理解できるようになる。 (3) 上記の2項目が達成できたことを前提としたうえで、立憲主義や日本国憲法に関する現代の様々な問題に関して、きちんと分析し、自分自身で考えていくことができるようになる。
授業計画 (講義の具体的 内容)	第1回 イントロダクション(講義のすすめ方や成績評価方法、受講にあたっての注意事項などの説明) 第2回 憲法とは何か? 第3回 立憲主義の文化的背景とその歴史的発展 第4回 立憲主義の正統性の検討(民主主義との緊張関係について) 第5回 わが国の憲法史 第6回 日本国憲法の平和主義の検討 第7回 国民主権原理について 第8回 国会の組織 第9回 国会と議院の権能 第10回 内閣の組織・権能と議院内閣制 第11回 裁判所の組織と権能 第12回 財政民主主義と地方自治 第13回 憲法保障概説 第14回 憲法改正とその手続 第15回 これまでの講義の補足説明と時事問題の検討
履修上の注意	解らないことは、そのままにしないで、きちんと質問するようにして下さい。
教科書	『テキストブック憲法』澤野義一・小林直三編、法律文化社(2014年)
参考書	『憲法実感!ゼミナール』孝忠延夫・大久保卓治編、法律文化社(2014年) 『中絶権の憲法哲学的研究 アメリカ憲法判例を踏まえて』小林直三、法律文化社(2013年)
成績評価方法	期末の試験(100%)で評価する。ただし、レポート課題を出したり、講義中に小テストをすることもあるかもしれないが、それらは、期末試験で60点未満だった者に対して、60点を上限とした加点材料としてのみ評価する。

科目名	憲法	単位数	2	期別	後期
科目コード	E0290	担当教員	小林 直三	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	この講義では、おもに、日本国憲法が想定する人権に関して解説する。ただし、たんに規定を逐条解釈するのではなく、その文化的背景や文化との相互関係、そして、比較法文化的な視点から捉えて、解説する。
授業の進め方	通常の講義形式で行う。
達成目標	(1) 人権の文化的背景および歴史的発展並びに基本理念を理解できるようになる。 (2) 日本国憲法が想定する人権保障に関して、その文化的背景や文化との相互関係、そして、比較法文化的な視点から捉えたうえで、正確に理解できるようになる。 (3) 上記の2項目が達成できたことを前提としたうえで、人権に関する現代の様々な問題に関して、きちんと分析し、自分自身で考えていくことができるようになる
授業計画 (講義の具体的な内容)	第1回 インTRODククション(講義のすすめ方や成績評価方法、受講にあたっての注意事項などの説明) 第2回 人権の文化的背景とその歴史的発展 第3回 基本的人権の原理と限界 第4回 私人間における人権保障と限界 第5回 包括的人権規定と新しい人権 第6回 情報化社会とプライバシー権 第7回 法の下での平等について 第8回 思想・良心の自由と学問の自由 第9回 信教の自由と政教分離原則 第10回 表現の自由の保障 第11回 経済的自由の保障 第12回 人身の自由と刑事手続 第13回 国務請求権と参政権 第14回 社会権の保障 第15回 これまでの講義の補足説明と時事問題の検討
履修上の注意	解らないことは、そのままにしないで、きちんと質問するようにして下さい。
教科書	『テキストブック憲法』澤野義一・小林直三編、法律文化社(2014年)
参考書	『憲法実感!ゼミナール』孝忠延夫・大久保卓治編、法律文化社(2014年) 『中絶権の憲法哲学的研究 アメリカ憲法判例を踏まえて』小林直三、法律文化社(2013年)
成績評価方法	期末の試験(100%)で評価する。ただし、レポート課題を出したり、講義中に小テストをすることもあるかもしれないが、それらは、期末試験で60点未満だった者に対して、60点を上限とした加点材料としてのみ評価する。

科目名	行政法	単位数	2	期別	後期
科目コード	E0301	担当教員	小林 直三	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	この講義では、行政法の基礎原理、行政組織法、および行政作用法などの諸分野について、解説を行う。ただし、たんに規定を逐条解釈するのではなく、その文化的背景や文化との相互関係、そして、比較法文化的な視点から捉えて、解説する。
授業の進め方	通常の講義形式で行う。
達成目標	(1) 行政法の基礎原理を、その文化的背景を踏まえたうえで、正確に理解できるようになる。 (2) 行政組織法に関する概念と理論に関して、その文化的背景や文化との相互関係、そして、比較法文化的な視点から捉えたうえで、正確に理解できるようになる。 (3) 行政作用法に関する概念と理論に関して、その文化的背景や文化との相互関係、そして、比較法文化的な視点から捉えたうえで、正確に理解できるようになる。 (4) 上記の3項目が達成できたことを前提とした上で、現代の行政に関する諸問題について、きちんと分析し、自分自身で考えていくことができるようになる。
授業計画 (講義の具体的な内容)	第1回 イントロダクション(講義のすすめ方や成績評価方法、受講にあたっての注意事項などの説明) 第2回 行政法の特徴と法源 第3回 法の支配と法治主義の文化的背景 第4回 行政裁量 第5回 行政組織法概説 第6回 行政立法概説 第7回 行政計画の必要性とその問題 第8回 行政行為の概念とその効力 第9回 行政行為の種類 第10回 行政上の強制執行 第11回 行政上の即時強制と制裁 第12回 行政契約、行政指導、および行政調査 第13回 行政手続法概説 第14回 情報公開制度概説 第15回 これまでの講義の補足説明と時事問題の解説
履修上の注意	解らないことは、そのままにしないで、きちんと質問するようにして下さい。
教科書	なし。
参考書	講義中に適時、あげていきます。
成績評価方法	期末の試験(100%)で評価する。ただし、レポート課題を出したり、講義中に小テストをすることもあるかもしれないが、それらは、期末試験で60点未満だった者に対して、60点を上限とした加点材料としてのみ評価する。

科目名	行政法	単位数	2	期別	集中
科目コード	E0302	担当教員	下村 誠	所属	京都府立大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	<p>わが国には「行政法」という法律は存在しません。「行政法」とは、土地収用法、建築基準法、都市計画法といった無数に存在する「行政に関する法」の総称です。一般的に、行政法は3つの分野、すなわち 行政組織法（「行政」はどのような組織になっているのか、またどのような権限を与えられているのか）、 行政作用法（「行政」はどのようなルールに基づき、どのような活動を行っているのか）、 行政救済法（「行政」の活動により権利利益を侵害された場合、われわれはどのような救済を受けられるのか）から構成されています。</p> <p>この講義では、3分野のうち行政救済法に焦点を当て、前半は、行政救済法のうち「国家補償法」、すなわち損失補償と国家賠償法を学び、後半は、行政救済法のうち「行政争訟法」、すなわち行政不服審査法と行政事件訴訟法を学びます。</p>	
授業の進め方	<p>下記の達成目標を念頭に置きながら、講義では、詳細なレジュメに沿って、図表や具体例を交えながら丁寧に進めていきたいと思います。</p> <p>非常勤のため、質問等は、講義終了後に対応します。</p>	
達成目標	<p>行政活動により私人が損失・損害を被った場合の金銭的救済について体系的に理解することができるようになる。</p> <p>私人が違法な（又は不当な）行政活動により権利利益を侵害された場合の救済について体系的に理解することができるようになる。</p> <p>主要な判例について、どのような事案で、何が争点となり、それに対して裁判所がどのような判断を下したかを理解することができるようになる。</p>	
授業計画 (講義の具体的な内容)	<p>第1回 行政救済法 「行政法」とは何かを確認し、広範な行政法領域において、本講義がどこに位置づけられるかを中心に概説します。</p> <p>第2回 損失補償 損失補償の概念、損失補償の法的根拠、損失補償の要否に関する学説と判例、損失補償の内容に関する学説と判例を検討します。</p> <p>第3回 国家賠償法1条(1) 国家賠償の要件のうち「公権力の行使」に関する学説と判例を検討します。</p> <p>第4回 国家賠償法1条(2) 「公務員」、「その職務を行うについて」に関する学説と判例を中心に検討します。</p> <p>第5回 国家賠償法1条(3) 「故意又は過失」、「違法」に関する学説と判例を中心に検討します。求償権についても概説します。</p> <p>第6回 国家賠償法2条 無過失責任主義と「公の营造物」、「設置又は管理」、「瑕疵」に関する学説と判例を検討します。</p> <p>第7回 国家賠償法3～6条・国家補償の谷間 前半で賠償責任の主体、他の法律との関係、相互保証主義について概説し、後半で損失補償や国家賠償法での救済が困難な、いわゆる国家補償の谷間の問題も検討します。</p> <p>第8回 行政訴訟 行政訴訟制度の沿革を確認し、行政事件訴訟法における行政訴訟の類型として、抗告訴訟、当事者訴訟、民衆訴訟、機関訴訟について概説します。</p>	<p>第9回 取消訴訟(1) 訴訟要件のうち 処分性、原告適格に関する学説と判例を中心に検討します。</p> <p>第10回 取消訴訟(2) 訴えの利益に関する学説と判例を中心に検討し、残りの 被告適格、裁判管轄、出訴期間、不服申立前置及び教示制度について概説します。</p> <p>第11回 取消訴訟(3) ——違法性の承継、違法判断の基準時及び違法の主張制限を中心に検討します。また、訴訟参加、職権証拠調べ、立証責任といった審理手続を中心に概説します。</p> <p>第12回 取消訴訟(4) ・仮の権利保護 前半で判決の種類と効力(既判力、形成力、拘束力)を検討し、後半で執行停止と内閣総理大臣の異議を検討します。</p> <p>第13回 無効確認訴訟・不作為の違法確認訴訟——無効確認訴訟・不作為の違法確認訴訟の意義、訴訟要件、審理手続、判決を検討します。</p> <p>第14回 義務付け訴訟・差止訴訟——義務付け訴訟・差止訴訟の意義、要件、審理手続、判決を検討します。</p> <p>第15回 行政上の不服申立て 不服申立ての種類、対象、資格、期間、形式を中心に検討します。また、執行停止と教示制度も概説します。</p>
履修上の注意	<p>この分野は多くの判例の蓄積があります。判例を理解し整理していくことで、この分野の理解をより深めることができます。講義中取り上げた基本的な判例だけでなく、さらに各自で判例をフォローしていくことを期待します。</p>	
教科書	<p>『行政救済法講義(第3版)』芝池義一著、有斐閣(2006年)</p> <p>講義で使用するレジュメは、このテキストに沿って作成しています。ただし、授業計画は、テキスト通りではありません。</p>	
参考書	<p>『行政判例百選(第6版)』宇賀克也・交告尚史・山本隆司編(有斐閣、2012年)</p> <p>『六法』。どの出版社のものでも構いませんが、『ポケット六法』(有斐閣)をお勧めします。</p>	
成績評価方法	<p>成績評価は、レポート(60%)</p> <p>課題を論ずるにあたって必要な概念等に言及しているか、概念等の理解の正確さ、論理性を評価します。作文上のルールに従っているかも評価に含みます。</p> <p>講義への参加姿勢(40%)</p> <p>の2点から評価します。</p>	

科目名	税法	単位数	2	期別	集中
科目コード	E0310	担当教員	玉置 賢司	所属	玉置会計事務所
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	日本では現在約50種類以上の税金があります。その中でも普段の仕事・生活において身近で重要な税法(所得税、法人税、消費税を中心)の課税制度について紹介していきます。税法の理解だけでなく、実際の実務的な話も含めて講義できればと考えています。
授業の進め方	テキストを中心に、各税法の課税システムを講義していきます。また時折、レジュメや参考資料を配布し、練習問題を解きながら、知識を習得してもらいます。
達成目標	(1)所得税における基礎的な理論や納税額を計算する仕組みを理解すること。 (2)法人税における基礎的な理論や納税額を計算する仕組みを理解すること。 (3)消費税における基礎的な理論や納税額を計算する仕組みを理解すること。
授業計画 (講義の具体的な内容)	第1回 講義ガイダンス・租税法の概念 第2回 所得税の概要 第3回 所得税の各論(所得税の種類・所得控除) 第4回 所得税の計算(源泉徴収・年末調整) 第5回 所得税の計算(練習問題) 第6回 法人税の概要(法人税法上の所得) 第7回 法人税の各論(減価償却費・役員報酬他) 第8回 法人税の各論(租税公課・交際費他) 第9回 法人税の各論(練習問題) 第10回 消費税の概要 第11回 消費税の各論(消費税の対象・簡易課税・原則課税) 第12回 消費税の計算(練習問題) 第13回 小テスト 第14回 相続税・贈与税の概要 第15回 講義の復習とまとめ
履修上の注意	電卓を持参のこと(できれば12桁用のものが望ましい)
教科書	経理教育研究会編『基本税法』株式会社英光社、最新年度版。(所得税・法人税・消費税の基礎)
参考書	
成績評価方法	期末試験70%、授業中の課題30%の比率で、総合的に評価します。

科目名	刑法総論	単位数	2	期別	前期
科目コード	E0331	担当教員	田中 康代	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	この講義では、刑法をはじめとするあらゆる刑罰法規に適用される刑法第1編総則の前半部分について勉強します。 後半部分については刑法総論 で勉強することになります。
授業の進め方	講義形式で行います。 皆さんの理解度を確認するために小テストを行うことを予定しています。
達成目標	(1) 犯罪とは何かについての理解すること。 (2) 刑法の基本概念を理解すること。 (3) 行為概念と構成要件について理解すること。 (4) 違法性について理解すること。 (5) 違法性阻却事由について理解すること。 裁判員制度が根付きつつあります。誰が、いつ、どんな場合に裁判員に選ばれるかもしれません。裁判員に選ばれた場合には必要になってくる知識を、皆さんが少しでも身につけることができるよう、講義していきたいと思えます。
授業計画 (講義の具体的 内容)	第1回 刑法とは何か、刑法総論とは何か 第2回 刑法の基本原則 第3回 刑罰の基礎的問題 第4回 罪刑法定主義 第5回 刑法の適用範囲 第6回 犯罪論の体系 第7回 行為と構成要件 第8回 因果関係(1) 第9回 因果関係(2) 第10回 不作為犯(1) 第11回 不作為犯(2) 第12回 違法性の意義と機能 第13回 可罰的違法性と違法性 第14回 違法性と違法阻却事由 第15回 正当行為 *皆さんの理解度などを勘案して、場合によっては、上記の授業計画にとらわれずに(速く、若しくは、遅く)進むことになるかもしれません。
履修上の注意	2009年度以前の「刑法 (4単位)」を履修済の場合、この科目を履修することはできません。 教科書を事前に読んで、予習してください。 平成25年度版の六法を必ず持参してください。
教科書	『口述刑法総論新版補訂2版』中山研一著、成文堂(2007年)
参考書	『刑法入門』山口厚著、岩波書店(2008年)
成績評価方法	期末試験(90%)、小テスト(5%)、受講態度(5%)を総合して評価します。

科目名	刑法総論	単位数	2	期別	後期
科目コード	E0332	担当教員	田中 康代	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	刑法第1編総則の後半部分(刑法総論の続き)について勉強します。
授業の進め方	講義形式で行います。皆さんの理解度を確認するために小テストを行います。
達成目標	(1) 違法性阻却事由について理解すること。 (2) 責任の概念について理解すること。 (3) 故意・過失について理解すること。 (4) 錯誤について理解すること (5) 共犯について理解すること。 裁判員制度が根付きつつあります。裁判員に選ばれた場合には必要になってくる知識を、皆さんが少しでも身につけることができるよう、講義していきたいと思ひます。
授業計画 (講義の具体的内容)	第1回 正当防衛 第2回 緊急避難 第3回 自救行為と被害者の同意 第4回 責任論の基本問題 第5回 責任能力 第6回 原因において自由な行為 第7回 故意 第8回 錯誤論(1) 第9回 錯誤論(2) 第10回 過失 第11回 未遂 第12回 中止犯 第13回 不能犯 第14回 共犯(1) 第15回 共犯(2) *皆さんの理解度などを勘案して、場合によっては、上記の授業計画にとらわれずに(速く、若しくは、遅く)進むことになるかもしれません。
履修上の注意	2009年度以前の「刑法(4単位)」を履修済の場合、この科目を履修することはできません。 刑法総論を履修していることが望ましい。 平成25年度版の六法を必ず持参すること。
教科書	『口述刑法総論新版補訂2版』中山研一著、成文堂(2007年)
参考書	『刑法入門』山口厚著、岩波書店(2008年)
成績評価方法	期末試験(90%)、小テスト(5%)、受講態度(5%)を総合して評価します。

科目名	刑法各論	単位数	2	期別	前期
科目コード	E0333	担当教員	田中 康代	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	刑法第二編罪の内、個人的法益に関する罪を勉強します。
授業の進め方	講義形式で行います。 皆さんの理解度を確認するために小テストを行います。
達成目標	(1) 生命・身体に対する罪について理解すること (2) 身体の自由に対する罪について理解すること。 (3) 人格的法益に対する罪について理解すること。 裁判員制度が始まり、4年目になりました。裁判員に選ばれた場合には必要になってくる知識を、皆さんが少しでも身につけることができるよう、講義していきたいと思えます。
授業計画 (講義の具体的 内容)	第1回 刑法各論とは何か、刑法の基本原則 第2回 殺人の罪 第3回 傷害の罪(1) 第4回 傷害の罪(2) 第5回 過失傷害の罪 第6回 堕胎の罪 第7回 遺棄の罪 第8回 脅迫の罪 第9回 逮捕・監禁の罪 第10回 略取、誘拐及び人身売買の罪 第11回 姦淫の罪 第12回 住居を侵す罪 第13回 秘密を侵す罪 第14回 名誉に対する罪 第15回 信用及び業務に対する罪 *皆さんの理解度などを勘案して、場合によっては、上記の授業計画にとらわれずに(遅く、若しくは、速く)進むことになるかもしれません。
履修上の注意	2009年度以前の「刑法 (4単位)」を履修済の場合、この科目を履修することはできません。 刑法総論を既に、若しくは同時に履修することが望ましい。 平成25年度版の六法を必ず持参すること。
教科書	「新版口述刑法各論[補訂2版]」中山研一著、成文堂(2006年)
参考書	特になし。必要な場合にはレジュメ等で伝えます。
成績評価方法	期末試験(90%)、小テスト(5%)、受講態度(5%)を総合して評価します。

科目名	刑法各論	単位数	2	期別	後期
科目コード	E0334	担当教員	田中 康代	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	刑法第2編罪の内、刑法各論 の続きを、財産犯を中心に、社会的法益に対する罪、国家的法益に対する罪などについても勉強します。
授業の進め方	講義形式で行います。皆さんの理解度を確認するための小テストも行います。
達成目標	(1) 財産犯の共通概念について理解すること。 (2) 個々の財産犯について理解すること。 (3) 社会的法益に対する罪について理解すること。 (4) 国家的法益に対する罪について理解すること。 裁判員制度が根付きつつあります。裁判員に選ばれた場合には必要になってくる知識を、皆さんが少しでも身につけることができるよう、講義していきたいと思えます。
授業計画 (講義の具体的 内容)	第1回 財産犯総論(1) 第2回 財産犯総論(2) 第3回 窃盗の罪(1) 第4回 窃盗の罪(2) 第5回 強盗の罪 第6回 詐欺の罪(1) 第7回 詐欺の罪(2) 第8回 恐喝の罪 第9回 横領の罪 第10回 背任の罪 第11回 盗品に関する罪、毀棄及び隠匿の罪 第12回 社会的法益に対する罪(1) 第13回 社会的法益に対する罪(2) 第14回 国家的法益に対する罪(1) 第15回 国家的法益に対する罪(2) *皆さんの理解度などを勘案して、場合によっては、上記の授業計画にとらわれずに(速く、若しくは、遅く進むことになるかもしれません。
履修上の注意	2009年度以前の「刑法 (4単位)」を履修済の場合、この科目を履修することはできません。 刑法総論を既に、若しくは同時に、刑法各論 を履修していることが望ましい。 平成25年度版の六法を必ず持参すること。
教科書	「新版口述刑法各論[補訂2版]」中山研一著、成文堂(2006年)
参考書	特になし。必要な場合には、レジュメ等で伝えます。
成績評価方法	期末試験(90%)、小テスト(5%)、受講態度(5%)を総合して評価します。

科目名	刑事訴訟法	単位数	2	期別	前期
科目コード	E0340	担当教員	紫藤 秀久	所属	紫藤法律事務所
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	現実の刑事裁判における実例等を織り交ぜながら、刑法を実現する法である刑事訴訟法を学びます。 なぜ弁護士は被告人を擁護するのか、なぜ取調べの可視化が叫ばれるのか、なぜ裁判員制度は必要なのか等の疑問を解消します。
授業の進め方	講義形式を基礎とします。
達成目標	(1) 刑事訴訟法の根本原則である「無罪の推定」の大原則について、基本的な理解をすること。 (2) 捜査から公訴提起を経て公判・判決に至る刑事訴訟全体の流れを把握すること。 (3) 裁判員制度の基礎を理解し、裁判員に選ばれた場合の基本的な姿勢を身につけること。
授業計画 (講義の具体的な内容)	第1回 オリエンテーション 第2回 刑事訴訟手続全般と刑事訴訟法の基本原則 第3回 捜査 (捜査とは、捜査の端緒、捜査の登場人物) 第4回 捜査 (人に対する捜査、逮捕、勾留) 第5回 捜査 (物に対する捜査、令状主義の例外) 第6回 捜査 (供述を得るための捜査) 第7回 捜査 (問題となる捜査手法、捜査における被疑者の防御) 第8回 公訴の提起 第9回 公判手続 (概観) 第10回 公判手続 (審判の対象) 第11回 公判手続 (証拠調べ、厳格な証明、自白法則、伝聞法則) 第12回 公判手続 (証拠調べ、挙証責任、事実認定、自由心証主義) 第13回 裁判、救済手続、被害者の保護 第14回 裁判員裁判 第15回 まとめ
履修上の注意	憲法・刑法と関連して学んでください。
教科書	『伊藤真の刑事訴訟法入門(第4版)』伊藤真著、日本評論社出版(1700円+税)
参考書	「六法」は必ず1冊準備してください(小型のものでもOKです)。
成績評価方法	期末の試験で評価します。 問題は論述式と小問形式を併用し、配点はほぼ同じ比重とします。

科目名	民事訴訟法	単位数	2	期別	前期	
科目コード	E0341	担当教員	本澤 友彬	所属	丸の内法律事務所	
連絡先	電話					088-824-1088
	E-mail					honzawa@htlawoffice.com

授業概要 (テーマ等)	民事訴訟の仕組みと手続の概略、および、重要概念の解説。
授業の進め方	講義
達成目標	(1) 民事訴訟制度の意義と目的について理解できるようになる。 (2) 民事法の考え方を習得することができるようになる。 (3) 民法訴訟の手続の具体的なイメージを持つことができるようになる。
授業計画 (講義の具体的な内容)	<p>刑事訴訟については、裁判員裁判の導入や報道等があり、ある程度イメージがわかりやすいと思います。しかし、民事裁判については、イメージがわきにくいのではないかと思います。</p> <p>そこで、具体例(貸した金を返せ等)を使って、授業の中で、民事訴訟の流れをシミュレーションしてみたいと思います。そのシミュレーションの中で、民事訴訟法の重要な用語や論点について触れていきます。また、訴訟実務の話や、実際にどのような紛争のケースがあるのかなどのお話もしていきたいと思います。</p> <p>必要な書籍は、六法です。レジユメを配布する予定です。基本的には、講義であり、質問(教科書の要らない程度のもの。または、以前授業で触れた事柄等)はたまにする程度を予定しています。</p> <p>民法を少し勉強している方が望ましいです。</p> <p>第1回 講義ガイダンス 講義の進め方 訴訟の目的 第2回 訴えの提起(1) 訴訟の主体など 第3回 訴えの提起(2) 処分権主義 第4回 第1回期日～裁判所での訴訟活動(1) 裁判所による争点整理 第5回 第1回期日～裁判所での訴訟活動(2) 弁論主義 第6回 第1回期日～裁判所での訴訟活動(3) 弁論主義 第7回 第1回期日～裁判所での訴訟活動(4) 自由心証主義・証明責任 第8回 判決以外の訴訟の終了 第9回 裁判官による判断内容・判決(1) 第10回 裁判官による判断内容・判決(2) 第11回 判決後の手続・判決の効力の概説 第12回 判決の効力についての論点(1) 第13回 判決の効力についての論点(2) 第14回 通常訴訟以外の訴訟 第15回 講義の復習とまとめ</p>
履修上の注意	
教科書	ポケット六法等の六法(3000円以下のもので可。電子六法でも可)
参考書	授業で指摘します。
成績評価方法	期末の試験(60%)、講義への参加姿勢(40%)などから総合的に評価します。

科目名	民法（総則・物権）	単位数	2	期別	前期
科目コード	E0351	担当教員	林 良太	所属	岩崎淳司法律事務所
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	民法の総則編を講義します。
授業の進め方	講義形式で行います。具体的には、法律の趣旨、意義、要件、効果といった基礎を中心に講義をします。基本的には講師が説明することで、受講生には「民法総則の知識」というよりは「民法の考え方」を身に着けられることを目標とします。
達成目標	(1) 民法（総則編）の基礎を理解できるようになる。 (2) 新聞等で報道されている法律問題を自分で調べることができるようになる。 (3) 資格試験受験をする際に、独学できるようになる。
授業計画 (講義の具体的 内容)	第1回 オリエンテーション 第2回 民法の基本的な仕組み 第3回 権利の主体（ ）自然人 第4回 権利の主体（ ）法人 第5回 物・意思表示による権利変動 第6回 意思表示の瑕疵（1） 第7回 意思表示の瑕疵（2） 第8回 契約の不当性 第9回 無効と取消し 第10回 代理（1） 第11回 代理（2） 第12回 代理（3） 第13回 法律行為の効力発生時期 第14回 時効 第15回 まとめ
履修上の注意	2009年度以前の「民法（4単位）」を履修済の場合、この科目を履修することはできません。 民法(債権) を同時並行して受講することが望ましい。 講義を受講する際には、教科書と六法を必ず持参すること。
教科書	『民法 総則・物権総論-第4版-』内田 貴著 東京大学出版会（2008年）
参考書	講義中に紹介します。
成績評価方法	期末試験（80％）および講義への参加姿勢（20％）により評価します。

科目名	民法（総則・物権）	単位数	2	期別	後期
科目コード	E0352	担当教員	南 拓人	所属	梶原法律事務所
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	民法の物権編の講義をします。
授業の進め方	講義形式で行います。具体的には、法律の趣旨、意義、要件、効果といった基礎を中心に講義をします。
達成目標	(1) 民法（物権編）の基礎を理解できるようになる。 (2) 新聞等で報道されている法律問題を自分で調べることができるようになる。 (3) 資格試験受験をする際に、独学できるようになる。 (4) 論理的思考を身に付ける。
授業計画 (講義の具体的 内容)	第1回 オリエンテーション 第2回 物権法序説，所有権（1） 第3回 所有権（2） 第4回 所有権（3） 第5回 占有権 第6回 物権変動（1） 第7回 物権変動（2） 第8回 物権変動（3），用益物権 第9回 担保物権序説，留置権 第10回 先取特権，質権 第11回 抵当権（1） 第12回 抵当権（2） 第13回 抵当権（3），譲渡担保（1） 第14回 譲渡担保（2），所有権留保 第15回 まとめ
履修上の注意	2009年度以前の「民法（4単位）」を履修済の場合、この科目を履修することはできません。 民法（総則・物権）を受講しておくこと。また、民法(債権)を同時並行して受講することが望ましい。 講義を受ける際には、教科書と六法を必ず持参すること。
教科書	『民法（第4版）』内田貴著，東京大学出版会（2008年） 『民法（第3版）』内田貴著，東京大学出版会（2005年）
参考書	講義中に紹介します。
成績評価方法	期末試験（80%）および講義への参加姿勢（20%）により評価します。

科目名	民法（債権）	単位数	2	期別	集中
科目コード	E0361	担当教員	西澤 希久男	所属	関西大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	民法の債権総論部分を講義します。
授業の進め方	講義形式で行います。具体的には、法律の趣旨、意義、要件、効果といった基礎を中心に進めていきます。また、受講生と一緒に、教科書等の資料を読みながら進めていきます。
達成目標	(1) 民法（債権総論部分）の基礎を理解できるようになる。 (2) 新聞等で報道されている法律問題を自分で調べることができるようになる。 (3) 資格試験を受験する際に、独学できるようになる。
授業計画 (講義の具体的 内容)	第1回 オリエンテーション 第2回 債権総論序説・債権の目的 第3回 強制履行・債務不履行 第4回 損害賠償・受領遅滞 第5回 債権者代位権 第6回 詐害行為取消権 第7回 分割債務・不可分債務ほか 第8回 連帯債務 第9回 保証債務 第10回 債権譲渡 第11回 債務引受・契約譲渡 第12回 弁済 第13回 代物弁済、供託ほか 第14回 相殺 第15回 まとめ
履修上の注意	2009年度以前の「民法（4単位）」を履修済の場合、この科目を履修することはできません。 民法(総則・物権) および民法(債権) をすでに履修済みであることが望ましい。 講義を受講する際には、教科書と六法を必ず持参すること。
教科書	『スタートライン債権法（第5版）』池田真朗著、日本評論社（2010年）
参考書	講義中に紹介します。
成績評価方法	期末試験（80%）および講義への参加姿勢（20%）により評価します。

科目名	民法（債権）	単位数	2	期別	集中
科目コード	E0362	担当教員	西澤 希久男	所属	関西大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	民法の債権各論部分を講義します。
授業の進め方	講義形式で行います。具体的には、法律の趣旨、意義、要件、効果といった基礎を中心に進めていきます。また、受講生と一緒に、教科書等の資料を読みながら進めていきます。
達成目標	(1) 民法（債権各論部分）の基礎を理解できるようになる。 (2) 新聞等で報道されている法律問題を自分で調べることができるようになる。 (3) 資格試験受験を準備する際に、独学できるようになる。
授業計画 (講義の具体的 内容)	第1回 オリエンテーション 第2回 契約総論序説・契約の成立 第3回 契約の効力 第4回 契約の解除 第5回 解約各論序説・贈与 第6回 売買（1） 第7回 売買（2） 第8回 消費貸借・使用貸借 第9回 賃貸借（1） 第10回 賃貸借（2） 第11回 請負・委任 第12回 事務管理・不当利得 第13回 不法行為（1） 第14回 不法行為（2） 第15回 まとめ
履修上の注意	2009年度以前の「民法（4単位）」を履修済の場合、この科目を履修することはできません。 民法（債権）を受講しておくこと。また、民法（総則・物権）を履修済みであることが望ましい。 講義を受ける際には、教科書と六法を必ず持参すること。
教科書	『スタートライン債権法（第5版）』池田真朗著、日本評論社（2010年）
参考書	講義中に紹介します。
成績評価方法	期末試験（80%）および講義への参加姿勢（20%）により評価します。

科目名	民法（家族）	単位数	2	期別	前期
科目コード	E0371	担当教員	中橋 紅美	所属	丸の内法律事務所
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	家族と家族の法について学びます。夫婦、親子、扶養、後見、相続などの家族関係を規定している法律が、民法の親族編・相続編です。本講義では、民法親族編・相続編の基本的な内容について学びつつ、実務で直面した体験談等も踏まえながら、法律を身近に感じてもらい、法律が現実社会にどのような影響しているかを考えます。
授業の進め方	教科書は特に指定しませんが、何でもいいので民法の親族編・相続編(家族法)に関する文献を購入し、各回のテーマに該当する部分を読んできてもらえれば、講義の理解が深まると思います。講義は主に口頭で行い、その補助として板書をします。
達成目標	(1) 民法親族法・相続法の基礎的内容が理解できる。 (2) 民法上の基本的な法律用語を正しく理解し、生活上必要な知識として活用できる。 (3) 家族に関して、法と社会的現実の関係について理解できる。
授業計画 (講義の具体的な内容)	本講義では、毎回テーマを決め、そのテーマについて講義をします。講義のテーマは以下のとおりです。 第1回 オリエンテーション・家族法の概要 第2回 結婚 第3回 離婚 第4回 離婚に伴う財産関係 第5回 離婚に伴う財産関係 第6回 親子(実子) 第7回 親子(養子) 第8回 後見・扶養 第9回 相続の概要 第10回 相続分 第11回 相続の効果 第12回 相続回復請求、相続の承認・放棄 第13回 遺産分割 第14回 遺言 第15回 遺留分 以上のテーマについて講義をする予定です。講義は基本的には上記の順で行いますが、場合によっては入れ替えることもあります。
履修上の注意	2009年度以前の「民法」を履修済の場合、この科目を履修することはできません。民法(総則・物権)・民法(債権)に続く科目ですが、これらの内容を理解していることを前提とはしません。民法についてはごく基本的な内容を講義するのにとどめ、法律をはじめて受講する人でもついていける内容にします。
教科書	『六法』。出版社は問いませんが、最新版を用意してください。期末試験にも使います。
参考書	*あくまで一例です。 『家族法(第3版)』二宮周平著、新世社(2013年) 『はじめての家族法』常岡史子編、成文堂(2013年) 『身近な家族法』川村隆子著、法律文化社(2010年)
成績評価方法	期末試験を行います。期末試験の成績(70%)、講義への参加姿勢(30%)で総合評価します。

科目名	商法（総則・商行為）	単位数	2	期別	前期
科目コード	E0391	担当教員	菊池 直人	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	企業と企業、あるいは企業と消費者との間でなされる「企業取引」およびその法規制（商法）について理解することを目標とします。私たち市民の生活関係を規律する法としては、民法がありますが、なぜ独立した法領域として商法が存在するのか、それぞれの規定の意義とは何かについて学びます。商法（総則・商行為）では企業取引の主体である商人とは何かを中心に講義を進めていきます。
授業の進め方	講義形式ですすめる。
達成目標	(1) 商法の意義、特徴について理解できるようになる。 (2) 商人概念、商行為概念について理解できるようになる。 (3) 企業を構成する要素について理解できるようになる。
授業計画 (講義の具体的 内容)	第1回 インTRODククション 第2回 商法の特徴 第3回 商人と商行為 第4回 商人資格と取得時期 第5回 商業登記 第6回 商業登記の効力 第7回 商号 第8回 名板貸 第9回 営業と営業譲渡 第10回 営業譲渡人の債権者・債務者 第11回 商業帳簿 第12回 商業使用人 第13回 支配人と表見支配人 第14回 代理商 第15回 商事代理
履修上の注意	2009年度以前の「商法（4単位）」を履修済の場合、この科目を履修することはできません。商法は民法の特別法であるので、民法がすでに履修済みであるか、並行して履修していることが望ましい。六法を持参すること。
教科書	指定しないが、理解を深めるために、何でも良いので、商法総則・商行為についての書籍を持っていた方が望ましい。
参考書	授業中に指定する。
成績評価方法	期末試験(80%)、講義への参加姿勢(20%)の比率で、総合的に評価します。

科目名	商法（総則・商行為）	単位数	2	期別	後期
科目コード	E0392	担当教員	菊池 直人	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	企業と企業、あるいは企業と消費者との間でなされる「企業取引」およびその法規制（商法）について理解することを目標とします。私たち市民の生活関係を規律する法としては、民法がありますが、なぜ独立した法領域として商法が存在するのか、それぞれの規定の意義とは何かについて学びます。商法（総則・商行為）では具体的な商取引およびその法規制について学んでいきます。
授業の進め方	講義形式で進める。
達成目標	(1) 商行為の特則とは何かについて理解できるようになる。 (2) 企業取引に特有の各種契約と法規制について、概要がわかるようになる。 (3) 企業に関する法律問題に関心をもつようになる。
授業計画 (講義の具体的 内容)	第1回 イントロダクション 第2回 商行為とは 第3回 商人の報酬請求権、商事法定利率、商事時効 第4回 商事売買 第5回 消費者売買 第6回 消費者契約法 第7回 運送営業 第8回 運送取扱営業 第9回 場屋営業、倉庫営業 第10回 交互計算、匿名組合 第11回 手形法概説 第12回 手形の権利移転と権利行使 第13回 保険法 総論 第14回 保険法 損害保険 第15回 保険法 生命保険
履修上の注意	2009年度以前の「商法（4単位）」を履修済の場合、この科目を履修することはできません。商法は民法の特別法であるので、民法がすでに履修済みであるか、並行して履修していることが望ましい。六法を持参すること。
教科書	指定しないが、理解を深めるために、何でも良いので、商法総則・商行為についての書籍を持っていた方が望ましい。
参考書	講義中に指示する。
成績評価方法	期末試験(80%)、講義への参加姿勢(20%)の比率で、総合的に評価します。

科目名	商法（会社）	単位数	2	期別	前期
科目コード	E0401	担当教員	菊池 直人	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	株式会社を中心に、会社とはどのような制度なのかについて講義します。
授業の進め方	講義形式で行います。テキスト、講義レジュメに則しながら進めていきます。
達成目標	(1) 株式会社の特徴について理解できるようになる。 (2) 株式の意義、株主の権利について理解する。 (3) 株式会社の機関の仕組み、役員の義務と責任の内容について理解する。 (4) 会社の設立手続きについて理解する。
授業計画 (講義の具体的な内容)	第1回 ガイダンス 第2回 会社法総論 第3回 会社の設立 第4回 設立登記、設立中の法律関係 第5回 株式とは何か 第6回 株式の種類 第7回 株主名簿、株式の消却、併合、分割 第8回 機関総論 第9回 株主総会 第10回 株主総会の決議 第11回 株主総会と決議の瑕疵 第12回 取締役と取締役会 第13回 取締役の義務と責任 第14回 株主代表訴訟と差止請求権、第三者に対する責任 第15回 監査役と監査役会
履修上の注意	2009年度以前の「商法（4単位）」を履修済の場合、この科目を履修することはできません。 民法の基礎的理解を前提に講義を進めていくので、民法科目が履修済あるいは同時履修していることが望ましい。 。六法を持参のこと。
教科書	『リーガルクエスト会社法 第2版』伊藤靖史・大杉謙一・田中亘・松井秀征著、有斐閣（2011年）
参考書	『会社法判例百選』江頭憲治郎・岩原紳作・神作裕之・藤田友敬著、有斐閣（2011年） その他の参考書は適宜指示します。
成績評価方法	学期末試験（80％）、講義への参加姿勢（20％）により総合的に評価します。

科目名	商法（会社）	単位数	2	期別	後期
科目コード	E0402	担当教員	菊池 直人	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	株式会社を中心に、会社とはどのような制度なのかについて講義します。
授業の進め方	講義形式で行います。テキスト、講義レジュメに則しながら進めていきます。
達成目標	(1) 会社法上の会計の意義について理解する (2) 新株発行や社債発行など、企業の資金調達について理解する (3) 会社の組織再編について理解する
授業計画 (講義の具体的 内容)	第1回 イン트로ダクション 第2回 会社の計算 第3回 連結計算書類、利益の分配、株主の帳簿閲覧権 第4回 資金調達とは 第5回 新株発行 第6回 新株発行の瑕疵 第7回 社債 第8回 定款変更の意義と手続 第9回 資本の減少 第10回 企業の買収・結合・再編 第11回 会社の合併 第12回 会社の分割 第13回 株式交換・株式移転 第14回 会社の解散と清算 第15回 持分会社
履修上の注意	2009年度以前の「商法（4単位）」を履修済の場合、この科目を履修することはできません。 民法の基礎的理解を前提に講義を進めていくので、民法科目が履修済あるいは同時履修していることが望ましい。 。六法を持参のこと。
教科書	『リーガルクエスト会社法 第2版』伊藤靖史・大杉謙一・田中亘・松井秀征著、有斐閣（2011年）
参考書	『会社法判例百選』江頭憲治郎・岩原紳作・神作裕之・藤田友敬著、有斐閣（2011年） その他の参考書は適宜指示します。
成績評価方法	学期末試験（80％）、講義への参加姿勢（20％）により総合的に評価します。

科目名	経済法	単位数	2	期別	後期	
科目コード	E0410	担当教員	横川 和博	所属	高知大学人文学部	
連絡先	電話					088-844-8257(研究室)
	E-mail					yokokawa@cc.kochi-u.ac.jp

授業概要 (テーマ等)	日本の市場経済に関わる法律を概観し、国際的視野から評価・分析する。
授業の進め方	講義
達成目標	(1) 日本の市場経済に関わる法律の基本構造を理解する。 (2) それが経済社会の実態とどう関わるかについて考察できるようになる。 (3) 日本の経済法制を国際的視野から評価する能力を獲得する。
授業計画 (講義の具体的 内容)	次の順序で講義する。 第1回 経済法とはなにか 第2回 独占禁止法の意義 第3回～第4回 独占禁止法違反事件例・・・不当な取引制限 第5回 流通系列化と化粧品業界 第6回 医薬品業界と独占禁止法 第7回 自動車製造業と独占禁止法 第8回 コンビニ業界と独占禁止法 第9回～第10回 中小企業の競争力と中小企業法制 第11回 知的財産権法制 知的財産権とはなにか 第12回 著作権法の概要 第13回 特許法の概要 第14回～第15回 市場経済と独占禁止法・知的財産権法
履修上の注意	特になし
教科書	特に指定しない。
参考書	講義時に指示する。
成績評価方法	評価は最終筆記試験の成績による。 講義の内容が概ね理解できていれば60点。 講義時に指示した文献等に自分でアクセスし、講義内容を深めていれば70点。 講義で獲得した評価の視点で、講義内容を分析し、その結果を表現できれば80点以上となる。

科目名	労働法	単位数	2	期別	前期
科目コード	E0420	担当教員	根岸 忠	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	わたしたちは、働くことによって生活の糧を得るのであり、また、多くの時間を労働に費やしているのだから、雇用関係を規制する法や労働者が有する権利を知っておくことはきわめて重要である。 具体的には、採用内定や試用期間、人事といった職業生活の各場面について、我が国の雇用関係が形成されてきた文化的な背景もふまえながら、どのような法規制がなされているのかを考えてみることにしたい。
授業の進め方	パワーポイントを用いながら授業を進めていく。
達成目標	(1) 労働法の理念を学ぶ。 (2) 労働法をめぐる当事者(労働者、労働組合、使用者)の関係について理解を深める。 (3) 労働条件を規制するもの(労働契約、就業規則、労働協約)の関係について理解する。
授業計画 (講義の具体的な内容)	第1回 はじめに、労働法とは何か 第2回 労働契約の意義・労働法の適用対象 第3回 労働契約と労働者の権利義務 第4回 募集と採用 第5回 労働条件の決定(1) 第6回 労働条件の決定(2) 第7回 労働条件の変更(1) 第8回 労働条件の変更(2) 第9回 人事(1)配転、出向 第10回 人事(2)転籍 第11回 人事(3)懲戒処分 第12回 労働時間(1)労働時間の定義 第13回 労働時間(2)弾力的な労働時間 第14回 休憩、休日、年次有給休暇(1)休憩、休日 第15回 休憩、休日、年次有給休暇(2)年次有給休暇
履修上の注意	労働法は応用法学であり、憲法、民法、社会保障法といった他の法分野と密接にかかわる。そのため、これら科目をすでに履修しているか、本講義と並行して履修することが望ましい。また、できるだけ労働法 もつづけて履修してもらいたい。
教科書	『基礎から学ぶ労働法 第3版』金子征史ほか著、エイデル研究所(平成24年) 『労働関係法規集 2014年版』労働政策研究・研修機構編、労働政策研究・研修機構(平成26年)
参考書	開講時に指示する。
成績評価方法	筆記試験及び受講態度で評価する。 試験(90%)、受講態度(10%)

科目名	労働法	単位数	2	期別	後期
科目コード	E0430	担当教員	根岸 忠	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	本講義では、労働法 につづけて、賃金や雇用平等などに関してどのような法規制がなされているかにつき、文化的な背景もふまえて見ていくこととする。おわりに、労働法の規制の要ともいえる、解雇を中心とした労働契約の終了について学ぶこととする。
授業の進め方	パワーポイントを用いながら授業を進めていく。
達成目標	(1) 労基法を中心とした法律が、どのように労働関係を規制しているかを学ぶ。 (2) 近時問題となっている非正規労働者の処遇について理解する。 (3) 解雇を中心とした労働契約の終了につき、判例及び法令上どのような規制がなされているかを理解する。
授業計画 (講義の具体的な内容)	第1回 はじめに、賃金(1) 賃金の定義、賃金支払いの原則(1) 第2回 賃金(2) 賃金支払いの原則(2)、最低賃金 第3回 賃金(3) 賞与、退職金 第4回 雇用平等 第5回 ワーク・ライフ・バランス 第6回 非正規労働者の処遇(1) パートタイム労働 第7回 非正規労働者の処遇(2) 派遣労働 第8回 営業譲渡と労働契約 第9回 労働安全衛生 第10回 労災補償 第11回 労働契約の終了(1) 労働契約の終了事由 第12回 労働契約の終了(2) 解雇(1) 第13回 労働契約の終了(3) 解雇(2) 第14回 労働契約の終了(4) 有期契約の雇止め 第15回 労働契約の終了(5) 労働契約終了後の法規制
履修上の注意	労働法は応用法学であり、憲法、民法、社会保障法といった他の法分野と密接にかかわる。そのため、これら科目をすでに履修しているか、本講義と並行して履修することが望ましい。また、本講義を履修するにあたっては労働法 を事前に履修してほしい。
教科書	『基礎から学ぶ労働法 第3版』金子征史ほか著、エイデル研究所(平成24年) 『労働関係法規集 2014年版』労働政策研究・研修機構編、労働政策研究・研修機構(平成26年)
参考書	開講時に指示する。
成績評価方法	筆記試験及び受講態度で評価する。 試験(90%)、受講態度(10%)

科目名	基礎法学	単位数	2	期別	前期
科目コード	E0431	担当教員	緒方 賢一	所属	高知大学人文学部
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	<p>法学を学ぶ際、法律用語や条文、あるいは判例など、とにかく知識を増やすことが重要だと考えがちです。もちろん、法律を実際に利用する場合に法的知識や解釈力は欠かせないものですが、現実の社会関係において法がどのように位置づけられるか、法と社会（あるいは私たち市民）との関係はどのようなものであるのかという基本認識を持つことも重要です。</p> <p>本講義では、法と社会の現実の関係について「法社会学」的な視点から検討し、社会の中で法がどのような機能を果たしているのかを検討対象として、法の現実を理解していきます。</p>
授業の進め方	<p>レジュメにもとづいて基本的な問題状況を講義形式で説明し、皆さんにじっくり考えてもらう時間をとりながら授業を進めていきます。</p> <p>授業開始時に出席確認を兼ねたペーパー（出席確認カード）を配布し、毎回簡単な課題への回答および感想等を書いてもらいます。</p> <p>講義中および講義後の質問はもちろん歓迎します。</p> <p>毎回の出席確認カード提出のほかに、講義の区切りのところで簡単なレポートを書いてもらいます。すべての講義終了後、期末試験（テストまたはレポート）を行います。</p>
達成目標	<p>(1) 法学の基本的分類と法社会学の法学上の位置づけについて理解できる。</p> <p>(2) 法と社会の関係について法社会学的な視点から理解することができる。</p> <p>(3) 社会的現実の中での法のあり方を考えることができる。</p>
授業計画 (講義の具体的内容)	<p>法社会学の基本的な考え方、問題へのアプローチの仕方についてまず学び、その後土地制度および民法のの歴史的な展開を一通り学んだ後、現代的な状況の中でどのような法的課題があるかについて考えます。</p> <p>第1回 法学・法社会学の基礎 第2回 継受法としての民法の基礎構造 第3回 土地制度の展開（1）近代的所有権の絶対性 第4回 土地制度の展開（2）所有権に対する現代的制限 第5回 土地制度の展開（3）地域的公序に基づく土地所有権の管理 第6回 農地制度が抱える現代的課題 第7回 コモンズとしての入会の現代的役割 第8回 家族と法の展開過程 第9回 家族の法の現代的諸課題 第10回 過失責任主義の限界と制限 第11回 過失責任主義を超えて 第12回 漁業・漁村・漁業権のあり方 第13回 企業社会と中間団体論 第14回 司法制度と日本人の法意識 第15回 まとめ</p> <p>講義1回につき一つのテーマを扱う予定ですが、次回にまたがる場合もあります。</p> <p>また、担当教員の判断・皆さんのリクエストによって順序を変更したり、テーマを変更することもあり得ます。</p>
履修上の注意	<p>基礎法学のうち、法社会学に関する講義です。法的な知識があることを講義の前提とはしませんが、法律問題に関心のある学生の受講を歓迎します。</p>
教科書	<p>毎回レジュメを配布しますので、教科書は特にありません。</p>
参考書	<p>テーマごとに適宜紹介しますが、さしあたり『地域農業の再生と農地制度』原田純孝編著、農文協(2011年)、『変容するコモンズ』新保輝幸・松本充郎編、ナカニシヤ出版（2012年）を読んでおく講義内容の理解がしやすくなります。</p>
成績評価方法	<p>期末試験（60%）、小課題（20%）、講義への参加姿勢（20%）で総合評価します。配点の若干の変更はあり得ます。</p>

科目名	基礎法学	単位数	2	期別	後期
科目コード	E0432	担当教員	赤間 聡	所属	高知大学人文学部
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	国会や各行政機関、裁判所がどのように法に向き合うのか。我々によって法とは何か、正義とは何か、自由とは何かといった法哲学の基本問題を問う。
授業の進め方	下に挙げる教科書に沿いつつ、時には判例や新聞記事を用いて、多面的に法を考察する。各自の報告が授業の主体である。
達成目標	自分の人生の指針、あるべき社会の理想像を模索できる批判的判断力をもてるようにする。
授業計画 (講義の具体的な内容)	第1回 基礎法学 のオリエンテーション 法哲学とは何か 第2回 正義について1 社会契約論 第3回 正義について2 利益と自由 第4回 法体系について1 ハートの法理論 第5回 法体系について2 ケルゼンの法理論 第6回 法体系について3 ハバーマスのコミュニケーション理論 第7回 価値相対主義について 第8回 公益と自由の優先関係 第9回 権利論 第10回 平等について 第11回 市場メカニズムとリバタリアン 第12回 法解釈学方法論1 唯一の正しい答え(解釈)はあるか 第13回 法解釈学方法論2 立法者意思とは 第14回 法解釈学方法論3 比較考量論 第15回 まとめ
履修上の注意	法哲学は2000年以上の歴史を持つ西洋の哲学と西洋の法律の双方を学ぶものである。したがって、1) 勉強しすぎて狂ってもよいとの覚悟があるもの、2) 自分の現状と社会の現状に満足してはいないもの、のみに受講資格がある。哲学は狂人の学問であるから。毎回各自の報告を予定しているので予習が必須。
教科書	『法哲学』平野仁彦・亀本洋・服部高宏著、有斐閣(2002年)、ISBN 4-641-12148-6
参考書	参考書は授業のテーマとの関係でその都度紹介する予定
成績評価方法	成績評価は報告と試験結果で判定する。試験は記述式とする。 試験50% 講義への参加姿勢50%

科目名	国際法	単位数	2	期別	前期
科目コード	E0433	担当教員	下山 憲二	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	国際法の基本的事項である条約及び慣習法を国家関係の視点で学んでいきます。その過程で、国家間の経済問題やそれをめぐる紛争処理制度についても学んでいきます。
授業の進め方	講義形式で行います。適宜レジュメを配布し、それにそって講義を進めます。
達成目標	(1)国際法の基礎知識を理解できるようになる。 (2)国家実行及び判例を理解できるようになる。 (3)時事問題を国際法に基づいて分析できるようになる。
授業計画 (講義の具体的な内容)	第1回 国際法とは何か 役割 第2回 国際法とは何か 歴史 第3回 国家 成立要件 第4回 国家承認 第5回 国家免除 第6回 外交関係・領事関係 第7回 国際機関 (第1回小テスト) 第8回 国際法の法源 条約 第9回 国際法の法源 慣習法 その他 第10回 条約法 締結 第11回 条約法 効力、留保 第12回 国際法と国内法の関係 第13回 国家責任 国際違法行為 第14回 国家責任 違法性阻却事由・外交的保護 第15回 領土 (第2回小テスト)
履修上の注意	私語は厳に慎むように。
教科書	『国際法(第2版)』中谷和弘他著、有斐閣アルマ(2013年)、『ベーシック条約集(2014年版)』松井芳郎他編、東信堂(2014年)。
参考書	『国際法学講義』杉原高嶺著、有斐閣(2008年)、『講義国際法(第2版)』小寺彰他編、東京大学出版会(2010年)、『新版国際法』山本草二著、有斐閣(1994年)、『プラクティス国際法』柳原正治他著、信山社(2010年)、『国際法』中谷和他著、有斐閣アルマ(2006年)、『国際法(第5版)』松井芳郎他著、有斐閣sシリーズ(2007年)
成績評価方法	講義を補強する教材としては以下のものがよい。『国際関係法辞典』国際法学会編、三省堂(2005年)、『国際法判例百選』山本草二他編、有斐閣(2001年)、『判例国際法』松井芳郎他編、東信堂(2006年) 授業態度(30%)、小テスト(30%)、期末レポート(40%) で評価

科目名	国際法	単位数	2	期別	後期
科目コード	E0434	担当教員	下山 憲二	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	国際刑事、環境、経済といった国際法の個別分野について学んでいきます。また、戦争や平和の構築における国際法の役割についても学んでいきます。
授業の進め方	講義形式で行います。毎回レジメを配布し、それに沿って講義を進めます。
達成目標	(1)国際法の個別領域を理解できるようになる。 (2)国家実行及び判例を分析できるようになる。 (3)時事問題を国際法に基づき自分で分析できるようになる。
授業計画 (講義の具体的な内容)	第1回 海洋 第2回 海洋 第3回 空・宇宙 第4回 個人 個人の地位 第5回 個人 人権 第6回 国際刑事法 第7回 国際経済法 (第1回小テスト) 第8回 国際環境法 第9回 国際紛争の平和的処理 歴史的展開、解決手段 第10回 国際紛争の平和的処理 仲裁、司法 第11回 武力行使・経済制裁 第12回 武力紛争法 中立法 第13回 武力紛争法 ハーグ法 第14回 武力紛争法 ジュネーブ法 第15回 まとめ (第2回小テスト)
履修上の注意	私語は厳に慎むように。
教科書	『国際法第2版』中谷和弘他著、有斐閣アルマ(2013年)。条約集については必ず購入すること。以下の条約集が最も利用しやすい。『ベーシック条約集(2014年版)』松井芳郎他編、東信堂(2014年)。
参考書	『国際法学講義』杉原高嶺著、有斐閣(2008年)、『講義国際法(第2版)』小寺彰他編、東京大学出版会(2010年)、『新版国際法』山本草二著、有斐閣(1994年)、『プラクティス国際法』柳原正治他著、信山社(2010年)、『国際法』中谷和他著、有斐閣アルマ(2006年)、『国際法(第5版)』松井芳郎他著、有斐閣Sシリーズ(2007年)
成績評価方法	講義を補強する教材としては以下のものがよい。『国際関係法辞典』国際法学会編、三省堂(2005年)、『国際法判例百選』山本草二他編、有斐閣(2001年)、『判例国際法』松井芳郎他編、東信堂(2006年) 授業態度(30%)、小テスト(30%)、期末レポート(40%)で評価。

科目名	社会保障法	単位数	2	期別	前期
科目コード	E0440	担当教員	根岸 忠	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	社会保障は、現在、国民の大きな関心事となっており、これからも重要な法改正がなされていくであろうことは疑いようがない。本授業では、まず、社会保障の定義、その歴史や社会保障が形成されてきた文化的な背景を概観した上で、社会保険に焦点を当てて進めることとする（ただし、高齢者福祉と密接にかかわる介護保険は社会保障法 で扱うため、この授業では扱わない）。
授業の進め方	パワーポイントを用いながら授業を進めていく。
達成目標	(1) 社会保障法の理念を学ぶ。 (2) 社会保障を構成する各制度について理解を深める。 (3) 受給者や要保障事由について理解する。
授業計画 (講義の具体的な内容)	第1回 はじめに、社会保障とは何か 第2回 社会保障の歴史 第3回 医療保障(1) 保険関係 第4回 医療保障(2) 給付の種類 第5回 医療保障(3) 医療提供者 第6回 医療保障(4) 診療契約と保険診療 第7回 年金保険(1) 保険関係 第8回 年金保険(2) 老齢給付 第9回 年金保険(3) 障害給付 第10回 年金保険(4) 遺族給付 第11回 労災補償(1) 保険関係 第12回 労災補償(2) 給付の種類 第13回 労災補償(3) 労災民訴と労災保険の関係 第14回 雇用保険(1) 保険関係 第15回 雇用保険(2) 給付の種類
履修上の注意	社会保障法は応用法学であり、憲法、行政法、労働法といった他の法分野と密接にかかわる。そのため、これら科目をすでに履修しているか、本講義と並行して履修することが望ましい。また、できるだけ社会保障法 もつづけて履修してもらいたい。
教科書	『トピック社会保障法 第8版』本沢巳代子、新田秀樹編著、不磨書房(平成26年) 『社会保障法令便覧 2014』労働調査会出版局編、労働調査会(平成26年)
参考書	開講時に指示する。
成績評価方法	筆記試験及び受講態度で成績評価する。 試験(90%)、受講態度(10%)

科目名	社会保障法	単位数	2	期別	後期
科目コード	E0450	担当教員	根岸 忠	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	本講義では、社会保障が形成されてきた文化的な背景をふまえた上で、社会保障法の中でも社会保険以外の制度（社会福祉、社会手当及び公的扶助）に焦点を当てて授業を進めていくこととする（ただし、高齢者福祉と密接にかかわる介護保険はこの授業で扱う）。
授業の進め方	パワーポイントを用いながら授業を進めていく。
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> (1) 社会保障を構成する各制度について学ぶ。 (2) 受給者や要保障事由について理解する。 (3) 社会保障を支える当事者（利用者、サービス提供事業者、地方公共団体など）の関係を理解する。
授業計画 (講義の具体的な内容)	<ul style="list-style-type: none"> 第1回 はじめに、介護保険（1）保険関係 第2回 介護保険（2）給付の種類（1） 第3回 介護保険（3）給付の種類（2）、高齢者福祉 第4回 障害者福祉（1）障害者の定義と障害者総合支援法の給付（1） 第5回 障害者福祉（2）障害者総合支援法の給付（2） 第6回 障害者福祉（3）障害者福祉各法の概要（1） 第7回 障害者福祉（4）障害者福祉各法の概要（2） 第8回 児童福祉（1）保育所 第9回 児童福祉（2）児童虐待 第10回 単親家庭福祉、社会手当 第11回 生活保護（1）給付の種類 第12回 生活保護（2）申請手続と不服申立 第13回 社会福祉の基盤を支える法（1）社会福祉法と他の社会福祉サービス法との関係 第14回 社会福祉の基盤を支える法（2）社会福祉法人 第15回 社会福祉の実施体制
履修上の注意	社会保障法は応用法学であり、憲法、行政法、労働法といった他の法分野と密接にかかわる。そのため、これら科目をすでに履修しているか、本講義と並行して履修することが望ましい。また、本講義を履修するにあたっては社会保障法 を事前に履修してほしい。
教科書	<ul style="list-style-type: none"> 『トピック社会保障法 第8版』本沢巳代子、新田秀樹編著、不磨書房（平成26年） 『社会保障法令便覧 2014』労働調査会出版局編、労働調査会（平成26年）
参考書	開講時に指示する。
成績評価方法	筆記試験及び受講態度で評価する。 試験（90%）、受講態度（10%）

科目名	法学特殊講義（不動産法概論）	単位数	2	期別	後期
科目コード	E0460	担当教員	竹村 克彦	所属	竹村克彦事務所
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	不動産に関わる法律全般を受講者の学習進度に合わせ進め、土地家屋調査士、宅地建物取引業主任者等の資格試験に結びつく講義内容とする。
授業の進め方	不動産を取り巻く法律を実務レベルの視点から、希望する資格試験に対応する項目に可能な限り結び付けた講義を目指し、講師である私も受講生と共に学ぶ姿勢で進めたい。
達成目標	(1) 不動産（土地・建物）を取巻く法規について、実務の中でどのように作用しているかなどの概要を理解する。 (2) 特に不動産登記記録を調査する基礎的な知識を修得する。 (3) 土地利用に関して、用途の転用、権利の移転、また、単に建物を建築するなどの場合、不動産の法的、並びに、物理的な状況を把握する基礎知識を修得する。
授業計画 (講義の具体的な内容)	関係法令の重要条文の解説、並びに実務における条文の解釈に重点を置く。 第1回～第6回 不動産登記法（表示に関する登記） 立法趣旨（制度の役目・表示に関する登記の基本・手続き概要） 筆界に関する項目（概念・変遷・実務上の取扱・関係する制度） 測量に関する項目（測量技術の変遷・測量精度の考え方） 第7回～第8回 都市計画法（開発許可に関する内容・用途地域に関する内容） 第9回 農地法（農地の転用・農地の権利移転） 第10回 土地区画整理法（法的効果・登記法との関係） 第11回～第12回 建築基準法（基礎知識・実務における取扱） 第13回～第14回 事例研究 第15回 授業のまとめ なお、諸般の事情により授業内容の順序を変更する場合があります。
履修上の注意	民法第2編（物権）に関する知識がベースとなるので、予習をされていることが望ましい。 広範囲にわたる内容となるので復習を励行し、意欲的に受講していただきたい。
教科書	特になし。必要に応じてレジュメを配布する。
参考書	不動産登記法：農地法：建築基準法：宅地建物取引業法：都市計画法等が記載されている六法
成績評価方法	講義内容に関するレポート、並びに、授業態度による。 【レポート内容の評価、ならびに提出要領】 講義内容の理解度を評価する。終盤（第13回以降）の講義で提示するテーマでレポートの提出を求める。第15回講義終了後1週間以内に提出。（1200字以上）レポートの提出が無い者の成績は不可とする。 【授業態度】講義内での質問の内容、参加姿勢により評価する。【評価比率】レポート内容：60% 授業態度：40%

科目名	法学特殊講義	単位数	2	期別	後期
科目コード	E0470	担当教員	紫藤 秀久	所属	紫藤法律事務所
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	まず、訴訟を中心とした紛争解決手段やその登場人物について大づかみします。 その上で、実社会において日々発生する典型的な紛争・事件を題材として、その内容、法律や裁判例に基づく判断、解決方法などを学びます。
授業の進め方	講義形式を基本とします。
達成目標	1.身近に起こりうる典型的な紛争や事件を実務ではどのように処理しているか理解する。 2.民法、刑法、訴訟法などの条文と具体的な紛争や事件とを結び付けられるようにする。
授業計画 (講義の具体的な内容)	<p>第1回 オリエンテーション 第2回 裁判所について 第3回 法律家について 第4回 民事紛争の解決手段について(総論) 第5回 刑事事件の解決手段について(総論) 第6回 民事紛争類型 ~ 金銭関係(多重債務、金銭貸借等) 第7回 民事紛争類型 ~ 不法行為関係(交通事故、医療事故等) 第8回 民事紛争類型 ~ 近隣関係(境界紛争、通路使用問題等) 第9回 民事紛争類型 ~ 家事紛争(離婚、親権、養子縁組等) 第10回 民事紛争類型 ~ 家事紛争(遺言、相続、成年後見等) 第11回 民事紛争類型 ~ その他(行政事件等) 第12回 刑事事件類型 ~ 窃盗、詐欺、傷害等 第13回 刑事事件類型 ~ 薬物、交通犯罪等 第14回 刑事紛争類型 ~ 殺人等重大事件 第15回 まとめ</p> <p>講義は上記順序で行う予定ですが、第6回以降の類型の内容については、適宜変更、入れ替えを行う場合があります。</p>
履修上の注意	「六法」は必ず1冊準備してください(小型のもので結構です)。 憲法、民法、民事訴訟法、刑法、刑事訴訟法等と関連して学ぶとより理解が深まります。
教科書	特になし。 レジュメを配布する予定です。
参考書	講義の中で紹介します。
成績評価方法	期末の試験で評価します。 問題は論述式と小問形式を併用し、配点はほぼ同じ比重とします。

科目名	経済原論	単位数	2	期別	集中
科目コード	F0492	担当教員	頭川 博	所属	元高知大学人文学部教授
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	<p>テーマ 剰余価値と資本蓄積</p> <p>資本の本質的な機能は、労働者を雇って剰余価値を生産することです。剰余価値は資本家に帰属するため、その生産は、労働者にとって労働成果から剰余価値だけ取得分が落ちこむ貧困の形成を意味します。さらに、剰余価値の資本への再転化するなかで資本蓄積の過程では、資本そのものが増大するため、剰余価値は一層増大します。その結果、労働者のつくりだした労働成果のうち、かれには帰属しない落ちこみ分が増大し、貧困の蓄積が成り立ちます。そこで、この授業では、まず剰余価値生産のしくみから、資本家の富に対する労働者の貧困の形成をとき、次に、資本蓄積によって富の蓄積に対応して、労働者の側に貧困の蓄積が成り立つゆえんを導きます。全体として、マルクス『資本論』第一巻(1867年刊行)の基本的な流れを解説しますので、社会科学最大の古典といわれる『資本論』に触れてみたい人も受講していただきたい。日本社会の現状をより深く考えるきっかけになれば幸いです。</p>
授業の進め方	<p>初心者にも視線をあわせ、大切なところは板書し、適宜、テキストの該当箇所を参照し『資本論』の文章などを確認しながら、話を進めます。</p>
達成目標	<p>剰余価値生産のしくみの理解を土台にして、そこで形成される貧困が、資本蓄積においていっそう増大して、貧困の蓄積となるゆえんを会得すること。</p>
授業計画 (講義の具体的な内容)	<p>授業は、次のような順序で進めます。</p> <p>第1回 授業のテーマと計画の説明 第2回 商品の価値と価格(1) 第3回 商品の価値と価格(2) 第4回 貨幣の資本への転化 第5回 絶対的剰余価値の生産(1) 第6回 絶対的剰余価値の生産(2) 第7回 絶対的剰余価値の生産(3) 第8回 相対的剰余価値の生産(1) 第9回 相対的剰余価値の生産(2) 第10回 相対的剰余価値の生産(3) 第11回 資本蓄積と貧困の蓄積(1) 第12回 資本蓄積と貧困の蓄積(2) 第13回 資本蓄積と貧困の蓄積(3) 第14回 剰余労働消滅と個人的所有の再建 第15回 授業のまとめと試験発表 第16回 筆記試験</p>
履修上の注意	<p>経済学に関する予備知識は必要としません。きちんと授業に出席すれば理解できるように説明します。授業には欠かさず出席し、わからないところはそのつど質問するようにしてください。</p>
教科書	<p>テキスト 『資本と貧困』頭川博著、八朔社、2010年</p>
参考書	
成績評価方法	<p>授業での説明がどれだけきちんと理解されているかを、筆記試験によって評価します。</p>

科目名	経済学史	単位数	2	期別	後期
科目コード	F0492.5	担当教員	森 直人	所属	高知大学 人文学部
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	この授業の目的は、歴史上のさまざまな「経済思想」の内容に触れ、そこから現代の経済を考える上で意味のある見方・考え方を学ぶことにあります。 「経済」とは何か。それをどう考えればよいか。現代でも、その答えは一つにまとまっているとは言えません。そして歴史をさかのぼると、経済についての様々な考え方(=経済思想)に出会うことができます。その中には、現在の主流の経済学の元となった考え方もありますし、また現代の経済学とは全く異なる考え方もあります。現代の経済学の元となった考え方や、現代の経済学とは違う視点を学んでおくことは、現代の経済について考えるために、重要な意味があるのではないのでしょうか。こうした発想から、この授業では過去のさまざまな経済思想を学んでいきます。
授業の進め方	この授業では、過去およそ300年間にヨーロッパに現れた経済思想の中から、何人かの重要な思想家を取り上げます。そして、彼らから経済についてのどんな見方・捉え方を学ぶことが出来るか、解説します。授業は講義形式で行われますが、解説は重要なポイントに絞って行い、その他の点については配布資料の予習・復習で学んでもらう予定です。授業中には質問や対話の時間を取り、また質問票・コメント・シートへの記入も行ってもらいます。
達成目標	(1) 経済について様々な捉え方があることを理解できるようになる (2) 現代の主流の経済学の元となったいくつかの考え方を理解できるようになる (3) 現代の経済学とは違ったいくつかの視点や考え方を理解できるようになる (4) これらの考え方を活用して、現代の経済について独自に考察できるようになる
授業計画 (講義の具体的な内容)	この授業では、原則として一回に一人の思想家を取り上げます。事前に資料を配布して、その思想家について予習してもらった上で、授業では、経済についてのその思想家の考え方の特徴を解説します。また、その考え方から何が見えるか、その考え方にどういう意味があるかということについて、質問や対話の時間を取り、また簡単なテーマでコメント・シートに意見を記入してもらう予定です。より詳しい講義計画は以下の通りですが、取り上げる思想家については、学生の希望などにより変更する場合があります。 第1回 はじめに：授業の目的、内容、進め方、評価基準などの説明 第2回 18世紀の経済思想(1)：D.ヒューム 第3回 18世紀の経済思想(2)：D.ヒューム 第4回 18世紀の経済思想(3)：J.ステュアート 第5回 18世紀の経済思想(4)：A.スミス 第6回 18世紀の経済思想(5)：A.スミス 第7回 ここまでのまとめと小テスト 第8回 19世紀の経済思想(1)：リカードとマルサス 第9回 19世紀の経済思想(2)：J.S.ミル 第10回 19世紀の経済思想(3)：K.マルクス 第11回 ここまでのまとめと小テスト 第12回 20世紀/現代の経済思想(1)：M.ヴェーバー 第13回 20世紀/現代の経済思想(2)：J.M.ケインズ 第14回 20世紀/現代の経済思想(3)：A.セン 第15回 全体のまとめ 第16回 期末テスト
履修上の注意	
教科書	この授業は、以下の文献の内容に基づいて行われますが、関連資料と授業のレジュメを配布しますので、教科書の購入は必ずしも必要ありません。関心のある人のみ購入して下さい。『新版 経済思想史：社会認識の諸類型』大田一廣・鈴木信雄・高哲男・八木紀一郎編、名古屋大学出版会(2006年)
参考書	必要に応じて、授業の中で紹介します。
成績評価方法	この授業では、二回の小テストと期末試験により、質的評価・絶対評価にて成績評価を行います。得点の配分は以下の通り。 小テスト：30% (1回15%×2回) 期末テスト：70% テストの出題意図や採点基準については、二回の小テストの返却時に説明します。また優れた答案の例を配布して、論理的な文章の組み立て方についても若干の説明を行う予定です。

科目名	経済史	単位数	2	期別	前期
科目コード	F0493	担当教員	柳川 平太郎	所属	高知大学教育学部
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	近世・近代のヨーロッパとアメリカを対象に、経済史の基礎概念と方法論を系統的に学びます。特に、近代世界システム論などの新しい学説を紹介しながら、イギリス、オランダ、フランス、アメリカ合衆国等の近代化・工業化の過程を比較史的に考察し、あわせて南北問題の歴史的起源となる発展途上国の従属化過程を対比的に取り上げる予定です。
授業の進め方	主として、奥西考至他編著『西洋経済史』（有斐閣アルマ、2010年、部分的に扱うため購入の必要はありません）などの主要項目をとりあげ、統計や地図の資料プリントを配付しながら講義形式で授業を進めます。ここにちのグローバル資本主義に至る西洋経済史の流れを、できる限りビデオ等のビジュアル資料を活用しながら検討します。
達成目標	(1)経済史学にとって重要な諸概念(例えば重商主義・古典派経済学等)を理解できるようにする。 (2)欧米と日本を比較しながら比較経済史の分析手法を学ぶ。 (3)近世・近代の比較経済史に関わる代表的理論や経済学史上重要な学説の背景を知り、その特色を把握する。
授業計画 (講義の具体的な内容)	以下の事項を中心に、毎回配布の資料プリントを用いながら、検討を試みます。 第1回 はじめに（授業ガイダンスと問題提起：リーマンショックからユーロ危機へ） 第2回 序論（現状分析と理論的把握の必要性：二つの発展段階論の破綻） 第3回 理論的前提（発想の転換：堺憲一『あなたが歴史に出会うとき』を手がかりに） 第4回 「商業革命」（大航海時代の開始による貿易構造の大転換） 第5回 「近代世界システム」の成立とオランダのヘゲモニー（「覇権」）確立 第6回 二つの「重商主義」（イギリスを例に） 第7回 ブルジョワ革命の課題（フランスの場合） 第8回 イギリス産業革命の歴史的前提 第9回 イギリス産業革命とアメリカ合衆国 第10回 鉄道の成立と後発資本主義諸国の産業革命 第11回 「世界の工場」イギリスと「19世紀アジアの三角貿易」 第12回 特論：日本の「近代化」と鉄道業、土佐電気鉄道創業の意義 第13回 中南米・アフリカの「従属化」過程 第14回 まとめ 第15回 展望
履修上の注意	高等学校公民の政経もしくは現代社会、あるいは地歴世界史A程度の基礎知識を前提としますが、講義時に適宜紹介する入門的参考文献等を付属図書館等で参照していただければ未履修でも充分に対応可能です。
教科書	購入の必要はありませんが、奥西考至他編著『西洋経済史』（有斐閣アルマ、2010年）の一部を参考にしながら講義し、毎回統計地図資料などのプリントを配布の予定です。
参考書	『イギリス近代史講義』川北稔著、講談社現代新書（2010年）、『フランス革命とヨーロッパ』塚塚忠躬他編、同文館（1996年）第5章「プロイセン改革期の営業の自由政策の特質」（柳川平太郎）など
成績評価方法	各回出席時の応答や積極的参加姿勢と課題レポートを半々に評価します。

科目名	ミクロ経済学	単位数	2	期別	前期	
科目コード	F0494	担当教員	大井 方子	所属	高知短期大学	
連絡先	電話					088-873-2871(研究室)
	E-mail					oimasako@cc.u-kochi.ac.jp

授業概要 (テーマ等)	ミクロ経済学の思考方法をマスターしながら、現実の経済を見る目を養う。
授業の進め方	講義を中心に進めるが、理解を深めるため、問題演習も行う。
達成目標	(1) 政府が市場に介入しない方がいい場合と政府が市場に介入した方がいい場合について理解できるようになる。 (2) 政府が市場に介入した方がいい場合の一つとして、独占について考えることができるようになる。 (3) 政府が市場に介入した方がいい場合の一つとして、外部性がある場合や公共財について考えることができるようになる。
授業計画 (講義の具体的 内容)	第1回 はじめに 第2回 生産の費用 第3回 競争市場における企業1 第4回 競争市場における企業2 第5回 競争市場における企業3 第6回 弾力性と限界収入 第7回 独占1 第8回 独占2 第9回 独占3 第10回 外部性1 第11回 外部性2 第12回 外部性3 第13回 公共財1 第14回 公共財2 第15回 おわりに
履修上の注意	積極的に問題演習に取り組むこと。 「経済学」を履修済みか履修中、もしくはその知識を修得済みか修得しようとしていることが望ましい。
教科書	『マンキュー経済学 ミクロ編』マンキュー著、東洋経済新報社(2013年)
参考書	『ミクロ経済学 市場の失敗と政府の失敗への対策』八田達夫著、東洋経済新報社(2008年)
成績評価方法	学期末試験の成績を基本に(70%)、受講態度(30%)を加味して評価する。

科目名	マクロ経済学	単位数	2	期別	後期	
科目コード	F0495	担当教員	大井 方子	所属	高知短期大学	
連絡先	電話					088-873-2871(研究室)
	E-mail					oimasako@cc.u-kochi.ac.jp

授業概要 (テーマ等)	マクロ経済学の思考方法をマスターしながら、現実の経済を見る目を養う。
授業の進め方	講義を中心に進めるが、理解を深めるため、問題演習も行う。
達成目標	(1) 経済データの見方が分かるようになる。 (2) 経済成長について考えることができるようになる。 (3) 景気変動と財政・金融政策の効果を理解できるようになる。
授業計画 (講義の具体的な内容)	第1回はじめに 第2回国民所得の測定1 第3回国民所得の測定2 第4回生計費の測定 第5回生産と成長1 第6回生産と成長2 第7回投資と金融システム1 第8回貯蓄、投資と金融システム2 第9回貨幣システム 第10回貨幣量の成長とインフレーション 第11回総需要と総供給1 第12回総需要と総供給2 第13回総需要に対する金融・財政政策の影響1 第14回総需要に対する金融・財政政策の影響2 第15回おわりに
履修上の注意	2010年度以前の「国民所得論」を履修済の場合、この科目を履修することはできません。 「経済学」を履修済み、もしくはそれに相当する知識を修得していること。
教科書	『マンキュー経済学 マクロ編』マンキュー著、東洋経済新報社(2005年)
参考書	『グラフィック 経済学 第2版』浅子和美・石黒順子著、新世社(2013年)
成績評価方法	学期末試験の成績を基本に(70%)、受講態度(30%)を加味して評価する。

科目名	現代資本主義論	単位数	2	期別	前期
科目コード	F0496	担当教員	中西 三紀	所属	高知大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	1980年代以降、世界は大きく変わったといわれています。いわゆる「グローバル化の時代」の到来です。世界経済の面でこのグローバル化を牽引したのは「新自由主義」(ネオリベラリズム)と呼ばれる思想です。しかし、2008年の世界経済危機を契機として、新自由主義への過度の傾倒に対する批判が高まり、現在は「ポスト・新自由主義」と呼ばれる時代に入っています。 授業では、新自由主義の考え方を概観し、そのもとで生じた変化をいくつかの事例をもとに検討し、最後に新自由主義に対するオルタナティブを紹介したいと思います。
授業の進め方	毎回レジュメを配付し、それをもとに講義を進めていきます。 授業終了後に質疑応答の時間を設けます。
達成目標	(1)現代資本主義の成り立ち、思想的背景、そのもとで現実に生じている問題について理解できるようになる。 (2)現代社会に対して批判的に考察できるようになる。 (3)これからの社会について、主体的に考えられるようになる。
授業計画 (講義の具体的 内容)	授業計画は以下の通りです。ただし、授業計画は大体の目安であり、回数が若干前後する可能性があることをあらかじめお断りしておきます。 第1回 オリエンテーション 第2回 1970年代までの世界経済 第3回 米国経済の相対的地位低下 第4回 レーガノミクス 第5回 新自由主義について(1) 第6回 新自由主義について(2) 第7回 GATTウルグアイ・ラウンドからWTOへ(1) 第8回 GATTウルグアイ・ラウンドからWTOへ(2) 第9回 WTOからFTAへ(1) 第10回 WTOからFTAへ(2) 第11回 多国籍企業について 第12回 新興国について(1) 第13回 新興国について(2) 第14回 新自由主義へのオルタナティブ(1) 第15回 新自由主義へのオルタナティブ(2)
履修上の注意	
教科書	特に指定しない。
参考書	特に指定しない。 授業中に適宜紹介します。
成績評価方法	期末試験(80%)、講義への参加姿勢(20%)などから総合的に評価します。

科目名	国際経済論	単位数	2	期別	前期	
科目コード	F0497	担当教員	細居 俊明	所属	高知短期大学	
連絡先	電話					088-873-2867
	E-mail					hosoi@cc.u-kochi.ac.jp

授業概要 (テーマ等)	ヒト、モノ、カネの国境を越えた動きが活発になり、それが各国の国民の生活や制度を大きく変えるようになってきています。グローバル化とか、グローバリゼーションと呼ばれる事態です。「国際経済論」ではグローバル化がどのような影響を与えているのかを考えていきますが、「国際経済論」では、グローバル化の歴史と現段階を総括的に見た上で、おカネの動き、国際通貨問題に焦点をあて、グローバル化の意味を検討します。またそのために国際収支や為替相場など基礎的事項を学んでいきます。
授業の進め方	講義形式で進めますが、一方的な講義にならないように、受講生が積極的に意見や疑問を出してもらうようにします。適宜、ビデオなども利用します。
達成目標	(1) 国際的な取引の基本的性格、国際収支の基本的考え方について理解を得る (2) 為替市場と為替相場についての基本的な理解を得る (3) 戦後の国際通貨体制の特徴と現在の問題について基礎的な理解を得る (4) 国際通貨問題への関心を深める
授業計画 (講義の具体的な内容)	概ね次のように講義を進める予定ですが、第10回以後を重視し、第5回から第9回の部分は大きく削る可能性があります。受講生の状況やトピックスを取り上げる関係で、順序や内容が一部変更になる場合もあります。 第1回 オリエンテーション - グローバリゼーションとは 第2回 グローバリゼーションの起源と歴史 - 原動力 第3回 グローバリゼーションの起源と歴史 - その歩み 第4回 グローバリゼーションの現段階 第5回 国際取引と国際収支 - 国際取引とは何か？ 第6回 国際取引と国際収支 - 赤字と黒字どちらが得？ 第7回 国際収支と為替相場 - 為替とは何か？ 第8回 国際収支と為替相場 - 為替相場はどう決まる？ 第9回 国際収支と為替相場 - 円高・円安の影響は？ 第10回 戦後の国際通貨体制の成立と展開 - 戦前から戦後への大転換 第11回 戦後の国際通貨体制の成立と展開 - 戦後のIMF体制の基本特徴 第12回 戦後の国際通貨体制の成立と展開 - 固定相場制から変動相場制へ 第13回 戦後の国際通貨体制の成立と展開 - 資本移動の拡大とその影響 第14回 戦後の国際通貨体制の成立と展開 - 不安定化するドルと国際通貨協力 第15回 戦後の国際通貨体制の成立と展開 - 欧州通貨統合とアジアでの通貨協力 以上の講義を踏まえ、期末試験を行います。
履修上の注意	積極的に参加する姿勢が求められます。「国際経済論」と「国際経済論」はどちらを先に受講してもかまいませんし、どちらかだけの受講でもかまいません。
教科書	特に指定しません。
参考書	講義の中で適宜指示します。
成績評価方法	試験(60%)の成績を基本に、授業への参加姿勢(40%)を加味して総合的に評価します。

科目名	国際経済論	単位数	2	期別	後期	
科目コード	F0498	担当教員	細居 俊明	所属	高知短期大学	
連絡先	電話					088-873-2867
	E-mail					hosoi@cc.u-kochi.ac.jp

授業概要 (テーマ等)	ヒト、モノ、カネの国境を越えた動きが活発になり、それが各国の国民の生活や制度を大きく変えるようになってきています。グローバル化とか、グローバリゼーションと呼ばれる事態です。「国際経済論」ではグローバル化がどのような影響を与えているのかを考えていきますが、「国際経済論」では、モノの動き、国際貿易に焦点をあて、自由貿易を理念とする戦後の通商体制(GATT・WTO)とその下での貿易の拡大がどのような役割を果たしてきたか、特に地域経済への影響を意識して考えます。
授業の進め方	講義形式で進めますが、一方的な講義にならないように、受講生が積極的に意見や疑問を出してもらうようにします。適宜、ビデオなども利用します。
達成目標	(1) 戦後自由貿易理念が登場する背景を理解する (2) 戦後自由貿易を促進してきたGATT・WTOの基本的な仕組みとルールを理解する (3) GATT・WTOの役割や課題について考える (4) 自由貿易の利益と問題点について考える
授業計画 (講義の具体的な内容)	概ね次ように講義を進める予定ですが、内容を大きく圧縮し、私たちの暮らしや地域に関連するいくつかのテーマに絞り、受講生の間で議論することも考えます。また受講生の状況やトピックスを取り上げる関係で、順序や内容が一部変更になる場合もあります。 第1回 オリエンテーション - グローバル化はどこまで来たか？ 第2回 戦後世界とGATTの成立 第3回 GATT・WTOの貿易原則 第4回 GATT・WTOの貿易原則とその例外 第5回 GATTからWTOへ 第6回 WTO交渉の現状 第7回 GATT・WTOの理念と現実 - そのギャップ 第8回 GATT・WTOと南北問題 - 自由貿易の理論：比較生産費説とは？ 第9回 GATT・WTOと南北問題 - 一次産品問題と途上国の自由貿易への反発 第10回 GATT・WTOと南北問題 - 資源をもつ国は強いのか？ 第11回 GATT・WTOと南北問題 - アジア途上国の成長と自由貿易の受容 第12回 GATT・WTOと南北問題 - 自由貿易のメリットとデメリット 第13回 自由貿易と地域統合 - GATT・WTOと地域統合 第14回 自由貿易と地域統合 - 日本とアジアの地域統合の動き 第15回 自由貿易と現代：食糧問題、環境問題、労働問題
履修上の注意	積極的に参加する姿勢が求められます。「国際経済論」と「国際経済論」はどちらを先に受講してもかまいませんし、どちらからだけを受講してもかまいません。
教科書	特に指定しません。
参考書	講義の中で適宜指示します。
成績評価方法	レポート(60%)の成績を基本に、授業への参加姿勢(40%)を加味して総合的に評価します。

科目名	財政学	単位数	2	期別	前期
科目コード	F0499	担当教員	霜田 博史	所属	高知大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	<p>地方分権改革は、1990年代以降現在に至るまで、日本の大きな政策課題となっている。地方分権改革が地域の自立と維持可能な発展につながるのかということが重要なポイントとなるが、そのためには地方自治体の財政が安定的に運営されることが必要不可欠である。</p> <p>本講義では、現在の日本の地方財政のあり方を概観しながら、今後の地方財政の改革課題とその方向性について考えてみたい。</p>
授業の進め方	講義形式とする。
達成目標	<p>(1)現代日本の地方財政に関する基礎知識を習得する。</p> <p>(2)地方財政の現状と改革課題についてが理解できるようになる。</p> <p>(3)地方財政改革の方向性についての問題意識を持つことができるようになる。</p>
授業計画 (講義の具体的内容)	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 現代社会における地方財政の役割 地方財政の仕組み</p> <p>第3回 現代社会における地方財政の役割 地方財政の理論</p> <p>第4回 現代社会における地方財政の役割 現代経済と財政</p> <p>第5回 地方自治体の予算制度</p> <p>第6回 地方経費</p> <p>第7回 地方経費</p> <p>第8回 地方税と課税自主権</p> <p>第9回 地方税と課税自主権</p> <p>第10回 国庫支出金からみる国と地方の財政関係</p> <p>第11回 国庫支出金からみる国と地方の財政関係</p> <p>第12回 地方交付税の仕組みと役割</p> <p>第13回 地方交付税の仕組みと役割</p> <p>第14回 地方財政改革の方向性</p> <p>第15回 まとめ</p>
履修上の注意	内容の順序については、事情により変更することもある。
教科書	とくに指定しない。講義資料を配布する。
参考書	必要なものについて、授業中にそのつど推薦する。
成績評価方法	期末試験(100%)により評価する。

科目名	財政学	単位数	2	期別	集中
科目コード	F0500	担当教員	鈴木 啓之	所属	高知大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	国家財政を中心とした現代財政の諸問題を学習する。財政は、租税および公共サービスを通じて国民のすべてに関わっており、経済活動に対して様々な影響を及ぼしている。この影響がどのようなものであるか、また、財政政策がどのような政治的背景で成り立っているかを研究するのがこの講義の目的である。
授業の進め方	講義形式とする。
達成目標	(1) 財政の役割と課題を理解する。 (2) 日本財政の現状を認識する。 (3) 日本財政に対する課題意識を深める。
授業計画 (講義の具体的な内容)	第1回 オリエンテーション 第2回 財政の現状 財政赤字と現代財政 第3回 国の歳入・歳出予算の構造と日本財政の特徴 第4回 市場の失敗と政府の失敗 第5回 公共投資政策と公共事業予算の仕組み 第6回 公共投資・公共事業の効果 第7回 政策評価と予算管理 第8回 福祉・社会保障制度改革と「ポスト福祉国家論」1 社会保障の歴史と理論 第9回 福祉・社会保障制度改革と「ポスト福祉国家論」2 公的医療制度 第10回 福祉・社会保障制度改革と「ポスト福祉国家論」3 社会保障制度改革の論理 第11回 現代の租税体系 第12回 現代税制と税制改革の思想1 個人所得課税・消費課税 第13回 現代税制と税制改革の思想2 法人課税と租税の転嫁 第14回 現代税制と税制改革の思想3 税制改革と社会像 第15回 まとめ
履修上の注意	私語や携帯電話の使用など講義を妨げる行為を禁じる。
教科書	とくに指定しない。講義資料を配布する。
参考書	『Basic現代財政学』重森暁・鶴田廣巳・植田和弘編、有斐閣ブックス(2009) 『財政学』佐藤主光著、放送大学教育振興会(2010)
成績評価方法	期末試験(80%)と講義への参加姿勢(20%)により評価する。

科目名	金融論	単位数	2	期別	集中
科目コード	F0500.9	担当教員	近廣 昌志	所属	愛媛大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	この講義では、金融の世界を理解するために、金融用語や理論を身につけた上で、現実と理論の両面をバランス良く扱い、現実の金融問題が一般論によって説明できない事例を挙げながら、矛盾点を見つけ出し解説します。経済活動を下支えする金融は、決して投機等による「利益」を追求するただけに存在しているのではなく、歴史の中で社会的な要請が金融システムを構築して成立していることを理解します。折角勉強するので、単に知識を覚えるのではなく、社会との関わりや理論的整合性の検証についても興味を持てるようにします。 【講義のキーワード】銀行の歴史/決済システムの概要/金融機関の種別と機能/貨幣供給理論の考察/金融政策で可能なこと不可能なこと/証券価格と金利構造/円高は本当に悪いのか/金融商品の知識
授業の進め方	講義形式を基本としますが、プリント等を用いて学生さんみずから手を動かして考えることができるように進めます。
達成目標	金融用語が理解でき、金融商品の利回り・借入時の利息計算ができるようになること。金融に関わる新聞やニュース等の解説が、時に根拠を持たず、時にミスリーディングであることを理解し、自身で論理的に思考できるようにすること。 企業活動および家計と金融との関わりを理解することで、マクロ経済と金融との関係を捉えること。
授業計画 (講義の具体的な内容)	<p>第1回 いま金融の何が問題なのか 国内・国際両面における現代金融の課題（社会的要請が金融システムを創る）</p> <p>第2回 金融機関の種別と役割 銀行の歴史と機能（両替商・為替会社・近現代の銀行・国際ネットワーク）</p> <p>第3回 金融機関の種別と役割 証券会社・保険会社の機能（銀行との差異を中心に）</p> <p>第4回 決済システム 内国為替の仕組・証券決済システム・国際間決済システム・決済リスクへの対応</p> <p>第5回 金融機関のバランスシート 資産および負債から収益構造を捉える（貨幣供給の知られざる現実）</p> <p>第6回 銀行の貸出形態の変化 時代の変化に適応する金融機関（手形割引の激減と住宅ローン市場）</p> <p>第7回 新しい銀行ビジネスモデル セブン銀行と伝統的商業銀行との比較（経済の停滞と金融機関の収益構造）</p> <p>第8回 貨幣供給理論 現実を踏まえた信用創造機能とマネーストックの増加要因（銀行の特異性）</p> <p>第9回 金融政策の論点 経済成長期と成熟期の比較・マクロ経済に与える影響（機能と目的・手段の変遷）</p> <p>第10回 中小企業金融 地方銀行・信用金庫の役割と将来性（リレーションシップバンキング）</p> <p>第11回 証券市場・多様な金融商品 株式・投資信託・保険商品についての理解</p> <p>第12回 利回り・金利計算 金利構造・複利計算・証券価格（資産価格と金利との関係を含めて）・住宅ローンの選択</p> <p>第13回 外国為替取引 なぜ円高になるのでしょうか（相対的な日本の位置づけ）</p> <p>第14回 国際金融の論点整理 世界的なマネーの流れと金融規制の足並み</p> <p>第15回 金融論を学んで 金融システムは効率的な資源配分に役立っているのでしょうか（まとめ）</p>
履修上の注意	集中講義期間中はもちろんですが、年度内は必要があればその後も適切に対応します。
教科書	教科書を指定する予定ですが、後日お知らせさせていただきます。
参考書	『金融入門（第7版）』日本経済新聞社編、日本経済新聞出版社（2011年）。
成績評価方法	講義内の取り組み姿勢・提出物（50%）、試験〔テキスト・ノートの持ち込み可能〕（50%）により評価します。

科目名	金融論	単位数	2	期別	後期
科目コード	F0501	担当教員	海野 晋悟	所属	高知大学人文学部
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	金融の理論・制度は、金融の世界の参加者が、これを守れば混乱はおきないことを保証するものです。しかし、実際には、しばしばトンデモナイ混乱が起きています。日本のバブル崩壊や、リーマンショックも然り。この講義では、金融論という平穏な経済の運営の仕方の教科書と日本が経験したバブル経済の発生と崩壊という現実の教科書とを照らし合わせて、理論・制度と現実の違いを痛感し、将来自分が世の中の中心に入っていった、このような現象に出くわしたときに、取り乱すことなく冷静に判断し、対処できるようになればゴールです。
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> *基本的に海野が話す講義スタイルですが、頻繁に学生に簡単なクイズを出します。それを受けて議論を深める講義スタイルです *講義内のクイズに対する発言は、正解を求めています *純粋に考えたことを思ったままに発言すればいいのです
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> (1) 金融の理論・制度と実際を理解する (2) 自分の考えていることを述べる・説明する
授業計画 (講義の具体的内容)	第1回 ガイダンス 第2回 イントロ：何を学ぶのか 第3回 企業の資金調達：理論 第4回 企業の資金調達：バブル経済 第5回 金融機関の役割：理論 第6回 金融機関の役割：理論 第7回 金融機関の役割：バブル経済 第8回 金融機関の役割：バブル経済 第9回 金融規制 第10回 金融規制 第11回 中間試験 第12回 映画鑑賞会 第13回 金融市場：金利 第14回 金融市場：株価 第15回 質問会
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> *金融に関して勉強意欲のある学生を望みます。 *事前の知識は必要ありません。 *真剣に勉強する学生に海野は最大限のサポートをします。 *講義への参加姿勢で20点が配点されているので、成績上位を考えている学生は積極的な講義参加が必要です
教科書	『グラフィック金融論』細野薫・渡辺和孝・石原秀彦著、新世社（2009年）
参考書	
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> *講義への参加姿勢で20点が配点されているので、成績上位を考えている学生は積極的な講義参加が必要です *講義内の発言は、正解を求めています *純粋に考えたことを思ったままに発言すればいいのです 中間試験（40点） 期末試験（40点） 講義への参加姿勢（20点）

科目名	農業経済論	単位数	2	期別	前期
科目コード	F0502	担当教員	岩佐 和幸	所属	高知大学人文学部
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	<p>スーパーやファーストフードに象徴されるように、私たちの「食」は、日本のみならず世界各地の「農」と結びついています。しかし、こうした「食」と「農」のグローバル化は、安全性問題や産地間競争の激化をもたらすとともに、地産地消のようなローカルな動きを再活性化させています。また、最近は食料高騰やバイオ燃料の登場、ランドラッシュの進行に伴って世界的な食料危機の兆しも表れており、食と農がますます切実な問題になってきています。</p> <p>本講義では、グローバル化時代の「食」と「農」について、アグリビジネス論の視点から紹介し、今後の展望について一緒に考えてみたいと思います。</p>
授業の進め方	<p>基本的にはオーソドックスな講義形式を予定していますが、一部ワークショップ方式など、双方向型授業を適宜取り入れたいと考えています。</p>
達成目標	<p>(1) 農業・食料生産の歴史と現状について、グローバルかつローカルな視点から理解できるようになる。 (2) 農業と食料の今後について、当事者の視点から関心を持ち、自らの主張を持てるようになる。 (3) 日常生活や地域において、持続可能な農業・食料に関心を持ち、実践に挑戦できるようになる。</p>
授業計画 (講義の具体的な内容)	<p>第1回 オリエンテーション 第2回 農業・食料問題をみる視角 第3回 食生活の変貌とその影響 第4回 食の外部化とフードビジネス 第5回 映像で見るアグリビジネスと農業・食料 第6回 国際化と日本農業・農政の展開 第7回 農産物自由化・食料輸入大国化とアグリビジネス 第8回 日本と世界を結ぶモノ：バナナ 第9回 日本と世界を結ぶモノ：ヤシ 第10回 日本と世界を結ぶモノ：コーヒー 第11回 日本と世界を結ぶモノ：水産物 第12回 グローバル化と農業・食料：途上国における輸出指向型農業と産地の変貌 第13回 グローバル化と農業・食料：回転寿司と地域 第14回 グローバル化時代の農業・食料問題：課題と展望 第15回 グローバル化時代の農業・食料問題：課題と展望</p> <p>基本的には、以上の順で行います。 毎回レジュメを配布する他、講義と関連する内容のビデオもお見せする予定です。</p>
履修上の注意	なし
教科書	なし
参考書	<p>『現代の食とアグリビジネス』大塚茂・松原豊彦編、有斐閣（2004年）『利潤への渴望：農業経営者・食料・環境に対するアグリビジネスの脅威』F・マクドナルド編、大月書店（2004年）『燃料か食料か：ハイオテクノロジーの真実』坂内久・大江徹男編、日本経済評論社（2008年）『家族農業が世界の未来を拓く - 食料保障のための小規模農業への投資 - 』国連世界食料保障委員会専門家ハイレベルパネル（家族経営研究会・農林中金総合研究所訳）農文協（2014年）</p>
成績評価方法	<p>期末レポート試験（10割）に加えて、小レポート等の提出もプラスアルファ（10～20点）として、評価に加味したいと思います。</p>

科目名	経済政策論	単位数	2	期別	前期
科目コード	F0505	担当教員	石筒 寛	所属	高知大学人文学部
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	日本の経済発展に経済政策がどのような役割を果たしてきたかを考える。
授業の進め方	サブテーマを設け講義を行うとともに、各テーマにおいてグループディスカッションを行います。
達成目標	(1) 経済政策がなぜ行われる必要があるのかを理解できる。 (2) 経済における市場と政府の役割の違いを理解できる。 (3) 経済政策の現代的課題について理解できる。
授業計画 (講義の具体的な内容)	<p>第1回 インTRODクシヨN ~経済政策の必要性~</p> <p>第2回 経済政策論の基礎 1 政府と企業 第3回 経済政策論の基礎 2 市場経済における政府の役割 第4回 経済政策論の基礎 3 大きな政府と小さな政府 第5回 経済政策論の基礎 4 グループディスカッション 第6回 経済政策論の基礎 5 ディスカッションの振り返り</p> <p>第7回 日本の経済発展と経済政策 1 幕末と明治初期の経済的背景 第8回 日本の経済発展と経済政策 2 戦後復興と高度経済成長 第9回 日本の経済発展と経済政策 3 グループディスカッション 第10回 日本の経済発展と経済政策 4 ディスカッションの振り返り</p> <p>第11回 経済政策の現場から 1 景気対策 第12回 経済政策の現場から 2 経済成長のための政策 第13回 経済政策の現場から 3 グループディスカッション 第14回 経済政策の現場から 4 ディスカッションの振り返り 第15回 まとめ</p>
履修上の注意	グループディスカッションでは、3名から5名が1つのグループになり、共通のテーマについて議論します。ディスカッションが行われる日は、ディスカッション振り返りペーパーを実施しますので、欠席しないように注意してください。なお、日程については、講義初日に確認をします。
教科書	適宜指示する。
参考書	適宜指示する。
成績評価方法	期末試験(60%)、ディスカッション振り返りペーパー(30%)、授業中に実施するレポート(10%)を成績評価の対象とします。全体で60%以上のポイントを獲得した受講生に単位を認定します。

科目名	地域経済論	単位数	2	期別	集中
科目コード	F0505.9	担当教員	宇都宮 千穂	所属	愛媛大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	近年、経済のグローバル化の影響を受けて、地域経済は大きく変化しています。そして、地域は、様々な課題を抱えています。 本講義では、まず、どのように地域経済が形成されるのかを明らかにし、それをもとに地域問題の要因をさぐります。そして、その分析結果から、地域問題の解決方法について考えていきたいと思えます。それぞれについて、具体的な地域を事例に、解説していきます。
授業の進め方	基本は、講義形式で行いますが、グループディスカッション（回数未定）も行います。
達成目標	(1) 地域経済の分析視角（とらえかた）を理解する (2) 地域問題を意識し、その発生メカニズムを理解する (3) 自らが生活する地域に興味を持ち、何が問題なのかを考えることができるようになる
授業計画 (講義の具体的な内容)	第1回 オリエンテーション (授業の進め方、試験について、地域経済の分析方法について、等) 第2～4回 都市はどのようにつくられるのか（新居浜市） 第5～8回 産業と地域経済 産業集積と都市（京都市） 企業誘致と地域経済（美濃加茂市） 第9～13回 生活と地域経済 公害問題と地域経済（四日市市） 内発的発展（南木曾町） 内部循環型経済と地域内再投資力（由布市湯布院、長野県栄村） 第14～15回 地域問題の分析方法（高知市旭）
履修上の注意	なし
教科書	なし
参考書	『国際化時代の地域経済学（第3版）』岡田知弘 川瀬光義 鈴木誠 富樫幸一、有斐閣（2007） 『京都経済の探究』岡田知弘編著、高菅出版（2006） 『地域再生学』湯浅良雄、崔英靖編著、晃洋書房（2011）
成績評価方法	グループディスカッションの参加（100%）なお評価は、以下の3点を重視します。 議論に積極的に参加する グループでの結論を出す 検討内容を規定の用紙に記入して提出する

科目名	地域経済論	単位数	2	期別	前期
科目コード	F0506	担当教員	佐藤 暢	所属	高知工科大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	わが国は少子高齢化の時代を迎え、地域がそれぞれの特性に合わせた社会システムを形成することが求められています。本講義では、わが国の地域経済の現状や課題について包括的に学習したのち、全国各地での事例を通じて、地域経済の活性化させる手法について学びます。そして、地域での持続可能な地域社会をいかに形成するかを検討します。
授業の進め方	講義形式で進めます。
達成目標	(1)地域経済の課題を把握する。 (2)地域経済の活性化策の考え方を理解する。 (3)受講生が考える「地域」の地域経済活性化をイメージする力を醸成する。
授業計画 (講義の具体的な内容)	第1回 オリエンテーション 第2回 地域経済と地域活性化 第3回 地域経営の方針：自治体の総合計画 第4回 地域産学官連携による地域経済の活性化 第5回 草の根イノベーションによる地域経済の活性化 第6回 地域経営と産業振興：エコノミックガーデニング 第7回 科学技術と地場産業 第8回 産業集積と地域政策 第9回 地域おこしとまちづくり 第10回 社会的企業の存在：ソーシャルビジネス 第11回 地域雇用の場：中小企業 第12回 場とネットワーク：産学官民コミュニティ 第13回 地域のデザイン 構想力 第14回 地域のデザイン マネジメントとリーダーシップ 第15回 まとめ
履修上の注意	日頃から、身近な地域の出来事やニュースについて関心を持つよう、心掛けてください。 私語や携帯電話の使用など、講義を妨げる行為を禁じます。
教科書	とくに指定しません。講義資料を配布します。
参考書	『地方都市の公共経営 ―課題解決先進県「高知」を目指して―』梅村仁・編著、南の風社（2014） ほか、講義の中で随時紹介します。
成績評価方法	期末レポート（60%）、講義への参加姿勢（40%）より総合的に評価します。「講義への参加姿勢」の中には、数回実施予定の小レポートの評価を含みます。

科目名	経済学特殊講義（流通経済論）	単位数	2	期別	集中
科目コード	F0510	担当教員	熊野 正樹	所属	崇城大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	本講義では、マーケティングの意義や役割について確認するとともに、マーケティングの基本理論を学習する。そのうえで、講義の後半は、現代のビジネスを大きく変化させているインターネット・IT技術を通じたマーケティングやビジネスモデルについて、豊富な事例を通して学習する。
授業の進め方	各講義の前半は講義形式で行い、後半はグループワークとディスカッションを中心に進める。また、第13回、第14回では、受講生により、実際のマーケティングの事例について、プレゼンテーションを行ってもらう予定である。
達成目標	1. マーケティングの意義や役割を理解する。 2. マーケティングの基礎理論を習得する。 3. 現代のビジネスにおける最先端のマーケティング事例に触れる。
授業計画 (講義の具体的な内容)	第1回 オリエンテーション（授業の進め方や成績評価基準など） 第2回 マーケティングの意義と役割 第3回 マーケティングの基礎理論1（市場機会の発見） 第4回 マーケティングの基礎理論2（セグメンテーション・ターゲティング） 第5回 マーケティングの基礎理論3（ポジショニング戦略） 第6回 マーケティングの基礎理論4（マーケティング・ミックス） 第7回 ブランド・マネジメント 第8回 マーケティングとマネジメント 第9回 マーケティングの事例研究1（ライフスタイル企業） 第10回 マーケティングの事例研究2（エンターテインメントビジネス） 第11回 マーケティングの事例研究3（観光業） 第12回 マーケティングの事例研究4（製造業） 第13回 事例研究発表1 第14回 事例研究発表2 第15回 まとめ
履修上の注意	特になし
教科書	
参考書	参考になる図書を講義時間内に紹介する。
成績評価方法	期末レポート（60%）、講義への参加姿勢（40%）で総合的に評価する。

科目名	経済学特殊講義	単位数	2	期別	後期
科目コード	F0512	担当教員	池谷江理子	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	現実の経済活動は一点で完結せず空間的広がりを持っています。また、都市・農村、中心・辺境と言った格差を内包しています。こうした経済活動の空間的広がり・地域差を対象とする経済地理学の理論を学び、現実の展開事例を見ていきます。
授業の進め方	レジュメと資料を配布し、一部DVD、ビデオ等を利用し主に講義形式で進めます。但し、トピックにより双方向の授業を行い学生による発表も計画しています。
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> (1) 農業立地論を理解する。 (2) 輸送圏芸や都市内農業について考える。 (3) 工業立地論と輸送費について理解する。 (4) グローバル化と産業空洞化について考える。 (5) 都市の立地について理解する。 (6) 地域産業の存立条件について理解する。 (7) 地域産業活性化の方策について考え、議論できる。
授業計画 (講義の具体的な内容)	<p>概ね、以下の内容で行う予定です。ただし、受講生の希望、社会情勢の動向等により順序や内容を一部変更する可能性もあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> 第1回 オリエンテーション 第2回 農業立地の理論 第3回 現代の農業立地と輸送圏芸 第4回 都市農業と定期市(ストール) 第4回 工業立地の理論 第5回 輸送費フリーとカントリーリスク 第6回 ナイキモデルと産業空洞化 第7回 都市の立地論 第8回 都市の分布とプライメイト・シティ 第9回 B・NB分析 第10回 プロダクト・サイクル論 第11回 マクドナルド化とガラパゴス化 第12回 大規模工業化と地域(四日市の場合) 第13回 地場産業と地域(伊賀組紐の場合) 第14回 地場産業と地域(土佐打刃物の場合) 第15回 地域経済活性化について(討論)
履修上の注意	特に前提となる講義はありません。
教科書	レジュメと資料を配布する予定です。
参考書	講義中に適宜紹介します。
成績評価方法	学年末試験(40%)とレポート(40%)、プレゼンテーション(20%)で評価します。

科目名	労働経済論	単位数	2	期別	後期	
科目コード	F0550	担当教員	大井 方子	所属	高知短期大学	
連絡先	電話					088-873-2871(研究室)
	E-mail					oimasako@cc.u-kochi.ac.jp

授業概要 (テーマ等)	働くということについて、経済学的に考える力を養う。
授業の進め方	講義を中心に進める。
達成目標	(1) 効率化と格差是正について、考えることができるようになる。 (2) 労働を、経済学的にはどう考えればいいのかを、理解できるようになる。 (3) 賃金の違いの原因を考えることができるようになる。
授業計画 (講義の具体的 内容)	第1回はじめに 第2回労働市場とデータ 第3回失業：需要不足失業とミスマッチ失業 第4回労働市場と労働需要1:賃金と生産性の関係 第5回労働市場と労働需要2:派生需要、技術進歩、資本との代替 第6回労働市場と労働需要3:外国との競争 第7回労働市場と労働供給：非勤労所得と女性、若者、高齢者 第8回労働市場の余剰分析：所得税と最低賃金 第9回勤労所得と差別 第10回効率化と格差是正1:社会的厚生 第11回効率化と格差是正2:効率化政策 第12回効率化と格差是正3:格差是正政策(1) 第13回効率化と格差是正4:格差是正政策(2) 第14回効率化と格差是正5:効率化政策と格差是正政策の両立 第15回おわりに
履修上の注意	「経済学」を履修済みであれば望ましい。
教科書	『ミクロ経済学 効率化と格差是正』八田達夫著、東洋経済新報社(2008年)
参考書	『マンキュー経済学 ミクロ編』マンキュー著、東洋経済新報社(2013年) 『キャリアのみかた』阿部正浩・松繁寿和編、有斐閣(2010年) 『労働経済』松繁寿和著、放送大学教育振興会(2008年)
成績評価方法	学期末試験の成績を基本に(70%)、受講態度(30%)を加味して評価する。

科目名	経営学	単位数	2	期別	前期
科目コード	F0670	担当教員	桂 信太郎	所属	高知工科大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	この講義では、現代企業の組織や行動を経営学の観点から理解することを目的としています。講義の半分は理論的な説明についやします。理論というと難しく聞こえるかもしれませんが、丁寧に考えれば必ず理解できるものです。 まず、なぜ大規模な組織が存在するのかということを理論的に説明することからはじめます。そして、経営学の主な対象である株式会社の基本的な仕組みや問題点について考察を進めます。次に、財閥や企業集団といった企業間の連帯の構造や機能について解説をします。そして最後に、企業の戦略について論じます。
授業の進め方	通常の講義形式で授業を進めていきます。必要に応じて資料を配布します。
達成目標	(1) 経営学説についての把握を促進すること。 (2) 企業組織の構造についての把握を促進すること。 (3) 日本の企業間関係についての把握を促進すること。
授業計画 (講義の具体的内容)	第一部 経営学とは何か 第1回 経営学説史：科学的管理法 第2回 経営学説史：人間関係学派 第3回 経営学説史：経営行動 第4回 コンティジェンシー理論から経営戦略論 第二部 企業の形態と所有 第5回 企業の形態 第6回 所有と経営の分離 第7回 組織の構造 第8回 コーポレートガバナンス 第三部 企業間関係と企業の境界 第9回 日本的経営 第10回 日本的経営 第11回 企業の境界の変化：自動車産業 第12回 企業の境界の変化：化学産業と紙パルプ産業 第13回 企業の境界の変化：鉄鋼産業 第14回 IT化と経営システム 第15回 地域から創造するマネジメントを考える
履修上の注意	
教科書	特になし。
参考書	個別の論点にそくして、授業時間内に参考になる図書を紹介します。
成績評価方法	学期末試験（70％）、授業中に行う小テスト（30％）等で成績評価を行う。

科目名	経営学	単位数	2	期別	後期
科目コード	F0680	担当教員	青木 宏之	所属	香川大学経済学部
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	この講義では、現代日本企業の人材マネジメントについて学びます。その特徴を明らかにするために、日本企業における人事労務管理制度の歴史の変遷を検討し、さらに国際比較（とくにアメリカ）を行います。また、モチベーション、職務満足、組織へのコミットメントなどの産業組織心理学の基礎理論を学びます。
授業の進め方	通常の講義形式で授業を進めてきます。必要に応じて資料を配付します。
達成目標	(1) 日本企業の人事労務管理の制度的特徴を説明ができるようになること。 (2) 日本企業の人事労務管理とアメリカ企業のそれとの違いが理解できるようになること。 (3) 産業組織心理学の基礎理論を修得すること。
授業計画 (講義の具体的 内容)	第1回 インTRODクシヨN 第2回 賃金の上がり方 第3回 賃金の決め方 第4回 昇進管理 第5回 人事制度 第6回 人事評価 第7回 能力開発と配置管理 第8回 採用管理 第9回 労働時間 第10回 雇用調整 第11回 雇用ポートフォリオ 第12回 労働組合の組織と機能 第13回 職場の能率問題 第14回 産業組織心理学の基礎理論 第15回 講義のまとめ
履修上の注意	経営学 と の両方を受講することが望ましい。 この授業は日本企業の人材マネジメントについての理解を深めることを通じて、受講者の職業的自立を支援することを目的の一つとしています。
教科書	特になし
参考書	個別の論点にそくして、授業時間内に参考になる図書を紹介します。
成績評価方法	期末試験（70%）および授業への参加姿勢（30%）で評価をします。

科目名	企業分析論	単位数	2	期別	前期	
科目コード	F0691	担当教員	梶原 太一	所属	高知短期大学	
連絡先	電話					088-873-2901
	E-mail					kajiwara@cc.u-kochi.ac.jp

授業概要 (テーマ等)	<p>企業が公表している財務諸表(決算書)を様々な角度から眺めて、企業の過去・現在・未来の状況を分析する方法について学びます。</p> <p>現代では、株式会社を代表とする営利企業だけではなく、病院や学校、協同組合といった非営利組織、あるいは自治体などの政府組織でも、営利企業と同じ方法で財務諸表が作成され、公表されるようになっています。これらの組織の活動の役割や意義を理解しようとする際にも、財務諸表分析の考え方が役立つでしょう。</p>
授業の進め方	<p>まず、損益計算書、貸借対照表、キャッシュ・フロー計算書といった財務諸表が、企業の活動をどのように表現したものであるのかを解説します。次に、財務諸表の数値を利用して、企業の「安全性」「収益性」「活動性」「成長性」などの側面を分析する財務指標の計算方法と、その意味を解説します。また、企業の実力の総合的な判定を簡単に行うために開発された「企業力指数」の考え方を紹介し、その意義と使いみちを解説します。</p> <p>毎回、様々な企業をとりあげ、各種財務指標の解説を行い、その後、実際に計算してもらいますので、学びつつ実践することで、理解を深めてください。</p>
達成目標	<p>(1) 財務諸表に表れた数値が企業の経営においてどういう意義をもち、どのように活用されているかを理解すること。</p> <p>(2) 企業の「安全性」「収益性」「活動性」「成長性」などを分析する手法を身に付けること。</p> <p>(3) 「損益分岐点」の意味を理解し、計算ができるようになること。</p> <p>(4) 「企業力指数」の意味を理解し、企業の総合力を判定できるようになること。</p> <p>(5) この授業の内容を理解しようとするのをきっかけとして、企業の経営状況を読み解くことのできる能力を身に付け、ひいては将来の職業生活へと役立てられることを期待します。</p>
授業計画 (講義の具体的な内容)	<p>第1回 講義の内容解説</p> <p>第2回 企業内容開示制度</p> <p>第3回 貸借対照表のしくみ</p> <p>第4回 損益計算書のしくみ</p> <p>第5回 キャッシュ・フロー計算書のしくみ</p> <p>第6回 安全性分析</p> <p>第7回 収益性分析</p> <p>第8回 活動性分析</p> <p>第9回 成長性分析</p> <p>第10回 業界分析</p> <p>第11回 損益分岐点分析</p> <p>第12回 会計方針と粉飾決算の分析</p> <p>第13回 企業力指数(1):入門</p> <p>第14回 企業力指数(2):応用</p> <p>第15回 まとめ</p>
履修上の注意	<p>前提となる知識は必要ありません。財務諸表分析の極意は、各種数値の比率分析(割り算)にあります。したがって、電卓などの計算機を持参すると大変便利です。</p>
教科書	<p>『財務諸表分析入門 Excelでわかる企業力』松村勝弘・松本敏史・篠田朝也著、BKC(2009年)。</p>
参考書	<p>『Financial Statement Analysis(11th ed.)』Subramanyam and Wild著、McGraw-Hill(2013年)。</p> <p>『財務諸表分析[第5版]』桜井久勝著、中央経済社(2012年)。</p> <p>『京都企業の分析』徳賀芳弘監、中央経済社(2011年)。</p>
成績評価方法	<p>毎回の授業内容の要約課題(20%)、期末試験(80%)。</p>

科目名	企業分析論	単位数	2	期別	後期	
科目コード	F0692	担当教員	梶原 太一	所属	高知短期大学	
連絡先	電話					088-873-2901
	E-mail					kajiwara@cc.u-kochi.ac.jp

授業概要 (テーマ等)	<p>「企業価値」を評価していくための手法を学びます。これらの手法は「企業分析論」で取り扱った財務諸表分析とは別に、「Valuation」（企業価値評価）と呼ばれる一つの独立した分野となっています。企業価値評価の具体的な手法の多くは、株式市場における企業の理論上の株価を算定するために考え出されたものです。たとえば、理論株価としての企業価値を算定することができると、それを現実の株価と比べて、割安か割高かの判断を行うことが可能になります。</p> <p>企業買収や合併のように企業を売買する場面に限らず、世の中に存在する何かしらの価値を持つ「モノ」を評価する場面においても、Valuationの考え方は役立つものとなるでしょう。</p>
授業の進め方	<p>まず、株式時価総額やPBR、PERなど「株価指標」と呼ばれる数値について解説します。次に、企業価値評価における最重要用語である「現在価値」と「資本コスト」の考え方について説明します。その後、3つの代表的な企業価値評価モデルについて解説します。</p> <p>企業価値評価を行うには、証券市場が社会の中でどのような機能をもつ制度であるのかということと、そこに参加する投資家がどのような心理のもとで行動しているのかということを理解しておくことが有益ですので、併せて取り上げます。</p>
達成目標	<p>(1) PBRやPERなどの株価指標の意味を理解し、計算ができるようになること。 (2) 「現在価値」と「資本コスト」の意味を理解し、説明ができるようになること。 (3) 代表的な企業価値評価モデルの考え方を理解し、算定ができるようになること。 (4) 残余利益の考え方を理解し、それを経営指標として応用したEVA（経済付加価値）の計算ができるようになること。 (5) 証券市場が世の中で果たす役割と投資家の心理が理解できるようになること。 (6) この授業の内容を理解しようとするのをきっかけとして、企業の経営状況と経済状況を読み解くことのできる能力をみがき、ひいては将来の職業生活へと役立てられることを期待します。</p>
授業計画 (講義の具体的な内容)	<p>第1回 講義の内容解説 第2回 株価指標(1)：株式時価総額 第3回 株価指標(2)：株価簿価倍率(PBR)と株価利益倍率(PER) 第4回 株価指標(3)：株価倍率モデルによる企業価値評価 第5回 現在価値(1)：現在価値と将来価値 第6回 現代価値(2)：現在価値と割引率 第7回 資本コスト(1)：期待投資利益率と資本コスト 第8回 資本コスト(2)：株主資本コストと資本資産価格モデル(CAPM) 第9回 資本コスト(3)：負債コストと加重平均資本コスト(WACC) 第10回 企業価値評価モデル(1)：割引キャッシュ・フローモデル 第11回 企業価値評価モデル(2)：割引配当モデル 第12回 企業価値評価モデル(3)：割引残余利益モデル 第13回 EVA（経済付加価値） 第14回 投資家の心理と行動ファイナンス 第15回 まとめ</p>
履修上の注意	<p>前提となる知識は必要ありません。「企業分析論」と教科書は共通ですが、内容は独立していますので「企業分析論」を履修していなくてもかまいません。企業価値評価の極意は、複利計算(べき乗)にあります。したがって、電卓などの計算機を持参すると大変便利です。</p>
教科書	<p>『財務諸表分析入門 Excelでわかる企業力』松村勝弘・松本敏史・篠田朝也著、BKC(2009年)。</p>
参考書	<p>『Financial Statement Analysis(11th ed.)』Subramanyam and Wild著、McGraw-Hill(2013年)『証券アナリストのための企業分析[第4版]』日本証券アナリスト協会編、東洋経済新報社(2013年)『セミナー企業価値評価』伊藤邦雄著、日本経済新聞出版社(2007年)『企業分析入門(第2版)』Palepu他著(斎藤静樹監訳)、東京大学出版会(2001年)『ウォール街のランタム・ウォーカー[第10版]』Malkiel著(井手正介訳)、日本経済新聞出版社(2011年)『「市場」ではなく「企業」を買う株式投資』川北英隆編、きんざい(2013年)</p>
成績評価方法	<p>毎回の授業内容の要約課題(20%)、期末試験(80%)。</p>

科目名	会計学	単位数	2	期別	前期	
科目コード	F0700	担当教員	梶原 太一	所属	高知短期大学	
連絡先	電話					088-873-2901
	E-mail					kajiwara@cc.u-kochi.ac.jp

授業概要 (テーマ等)	<p>会計の基礎的な考え方と、社会における会計の役割を解説します。会計は、企業が行った経済活動を独自の言葉で描き直し、それを関係者に報告する行為です。世の中の資源を効率的に活用し、透明性を高めていくための仕組みとして、会計は現代の社会において重要な役割を与えられています。</p> <p>この講義では、企業が社会からお金を調達し、その使いみちを社会に向けて報告する場面で行われる「財務会計」(financial accounting)の考え方を解説していきます。</p>
授業の進め方	<p>この授業では、まず、世の中における会計のはたらきを学びます。加えて、会計で用いられている独特の言葉である「資産」「負債」「資本」「収益」「費用」「利益」が、いったい何を表そうとしているのかを学びます。</p> <p>次いで、会計を行う上での考え方をまとめた「企業会計原則」について解説します。「企業会計原則」は、「発生主義」「取得原価」「費用配分」といった独特の発想に基づく会計処理ルールですが、これらは、経済活動を分かりやすく表現しようとする場合に必要となる「理論的なしかけ」としての役割を果たしています。</p> <p>今日では会計基準の改廃と新設が相次いでおり、また政府や自治体などの公的部門や非営利組織にも財務会計の考え方が導入されてきています。会計の仕組みを学ぶことでそれらの変化が持つ意味も理解できるでしょう。</p>
達成目標	<p>(1) 「発生主義」(accrual basis)の考え方を理解すること。</p> <p>(2) ある出来事が起こったとき、その出来事が会計ではどのように表現されるのかを想像できるようになること。</p> <p>(3) 会計学は企業活動を対象としているため、会計学の基礎を理解しようと努めることで、経営全般の基礎知識についても自然と習得することができます。</p> <p>(4) この授業の内容を理解しようとするのをきっかけとして、各種検定試験の合格につなげ、ひいては将来の職業生活へと役立てられることを期待します。</p>
授業計画 (講義の具体的内容)	<p>第1回 講義の内容解説</p> <p>第2回 会計の機能</p> <p>第3回 会計の構造</p> <p>第4回 発生主義会計と現金主義会計</p> <p>第5回 動態論と静態論</p> <p>第6回 繰延資産と引当金</p> <p>第7回 企業会計原則(1)一般原則</p> <p>第8回 企業会計原則(2)損益計算書原則、貸借対照表原則</p> <p>第9回 複式簿記の原理</p> <p>第10回 決算整理と財務諸表の作成</p> <p>第11回 連結財務諸表</p> <p>第12回 粉飾決算と利益管理</p> <p>第13回 財務諸表の監査</p> <p>第14回 国際財務報告基準(IFRS)</p> <p>第15回 まとめ</p>
履修上の注意	<p>前提となる知識は必要ありません。簿記の知識があると会計の理解はあっさり深まりますが、講義の中で、複式簿記の仕組みについても解説します。会計は経済活動の数量的な把握という性格をもっているため、しばしば計算が必要となります。したがって、電卓などの計算機を持参すると便利です。</p>
教科書	『会計学講義[第4版第3刷]』醍醐聰著、東京大学出版会(2011年)。
参考書	『Financial Accounting: An Integrated Statements Approach [2nd ed.]』Duchac, Reeve and Warren著、Thomson社(2007年)。『財務会計の理論と実証』William R. Scott著(太田康広・椎葉淳・西谷順平訳)、中央経済社(2008年)。『会計学原理』友岡賛著、税務経理協会(2012年)。
成績評価方法	毎回の授業内容の要約課題(20%)、期末試験(80%)。

科目名	会計学	単位数	2	期別	後期	
科目コード	F0710	担当教員	梶原 太一	所属	高知短期大学	
連絡先	電話					088-873-2901
	E-mail					kajiwara@cc.u-kochi.ac.jp

授業概要 (テーマ等)	<p>現代における様々な会計基準の内容について解説します。会計の世界では、1990年代後半から現在にかけて、新しい会計基準が次々と設定されてきています。そのような大きな変化の背景には、「損益計算のための会計」から「実態開示のための会計」へ、という大きな思想の転換があります。たとえば、資産の評価に「時価」が用いられるということも、実態開示を優先する考え方から導き出されたものです。</p> <p>この授業では、1990年代以降に新しく登場してきた個々の会計基準の内容を解説し、現代社会において会計が担っている役割について考えていきます。</p>
授業の進め方	<p>1990年代から公表されてきた新しい会計基準を1つずつ取り上げて、それぞれが、 どういう出来事を、 どういう実態としてみなして、 財務諸表にどう表現しようとするのか、 の3点について解説します。</p>
達成目標	<p>(1) 個々の会計基準について、その目的と意味を理解できるようになること。 (2) 「経済的実態」という言葉の意味を説明できるようになること。 (3) 次々と設定されている新しい会計基準は、その利用者として地球規模で活動する巨大な多国籍企業が想定されています。これらの会計基準の考え方を理解しようと努めることで、大企業や多国籍企業の経営全般の知識についても自然と習得することができるでしょう。 (4) この授業の内容を理解しようとするのをきっかけとして、各種検定試験の合格につなげ、ひいては将来の職業生活へと役立てられることを期待します。</p>
授業計画 (講義の具体的な内容)	<p>第1回 講義の内容解説 第2回 財務会計の概念フレームワーク 第3回 事業活動と金融活動の区分 第4回 棚卸資産の会計基準 第5回 固定資産の減損の会計基準 第6回 リース取引の会計基準 第7回 研究開発活動の会計基準 第8回 金融商品の会計基準 第9回 金融派生商品の会計基準 第10回 資産除去債務の会計基準 第11回 退職給付債務の会計基準 第12回 自己株式の会計基準 第13回 税効果の会計基準 第14回 企業結合の会計基準 第15回 まとめ</p>
履修上の注意	<p>前提となる知識は必要ありません。教科書は「会計学」と共通ですが、内容は独立していますので「会計学」を履修していなくてもかまいません。。各会計基準は文書として公表されているので、それらが掲載された法規集を手許に置いておくと、学習の際に有益です。また、電卓などの計算機を持参すると便利です。</p>
教科書	<p>『会計学講義[第4版第3刷]』醍醐聰著、東京大学出版会（2011年）。</p>
参考書	<p>『新板会計法規集』中央経済社編（順次改定されているので、その時点で手に入る最新版が望ましい）。 『エッセンシャルIFRS[第2版]』秋葉賢一著、中央経済社（2012年）。 『会計基準の研究[増補改訂版]』斎藤静樹著、中央経済社（2013年）。</p>
成績評価方法	<p>毎回の授業内容の要約課題（20%）、期末試験（80%）。</p>

科目名	簿記学	単位数	2	期別	前期
科目コード	F0721	担当教員	柳井 正持	所属	高知大学非常勤講師
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	複式簿記の学習を通して、複式簿記の記帳方法とシステムを理解し、貸借対照表・損益計算書等の作成やその役割を理解をする。
授業の進め方	講義と演習の繰り返しで進める。
達成目標	(1) 計数的合理的処理能力を養う。 (2) 複式簿記の基礎的な処理方法を理解する。 (3) 複式簿記の基礎的なシステムを理解する。 (4) 基礎的な個人商店の貸借対照表・損益計算書の作成ができる。
授業計画 (講義の具体的 内容)	第1回 オリエンテーション 第2回 貸借対照表・損益計算書 第3回 勘定科目・・・資産・負債・純財産(資本) 第4回 勘定科目・・・収益・費用 第5回 取引の処理・・・仕訳 転記 仕訳帳 総勘定元帳 第6回 演習 第7回 演習 第8回 ? 演習補助簿について? 第9回 演習 第10回 帳簿の締め切り・演習 第11回 決算手続き 6桁精算表 第12回 演習 第13回 貸借対照表 損益計算書 第14回 演習 第15回 演習 まとめ
履修上の注意	積み重ねの学習なので、初めて簿記を学ぶ人は、休むと理解できなくなる。
教科書	そのつどプリントを配布する。
参考書	必要に応じて紹介する。
成績評価方法	試験(90%)、演習(10%)として評価する。

科目名	簿記学	単位数	2	期別	後期
科目コード	F0722	担当教員	柳井 正持	所属	高知大学非常勤講師
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	実務に対する応用力を身につけ、財務諸表等の理解を深める。 日本商工会議所簿記検定3級程度の力をつける。
授業の進め方	講義と演習の繰り返しで進める。
達成目標	(1) 記帳能力を高め、複式簿記が理解できるようになる。 (2) 財務諸表等を理解することができる。 (3) 企業の財務内容を理解することができる。
授業計画 (講義の具体的 内容)	第1回 簿記手続きの一巡 資産 負債 資本 収益 費用 第2回 演習 第3回 補助簿への記帳 第4回 主要簿と補助簿 第5回 演習 第6回 試算表 第7回 貸倒償却 減価償却他 決算整理事項 第8回 決算整理仕訳 決算仕訳 第9回 演習 第10回 8桁精算表 第11回 演習 第12回 伝票会計 第13回 貸借対照表 損益計算書 第14回 演習 第15回 演習 まとめ
履修上の注意	できるだけ休まないこと。 簿記 ・ は、内容的に連続しているので、 を履修していることが望ましい。
教科書	そのつどプリントを配布する。
参考書	必要に応じて紹介する。
成績評価方法	試験(90%)、演習内容(10%)として評価する。

科目名	現代産業論	単位数	2	期別	前期
科目コード	F0723	担当教員	中道 一心	所属	高知大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	<p>この授業では、次の2つの視点から日本の産業について学びます。</p> <p>戦略分析：経営戦略は産業構造に規定されることがあります。どのような産業で収益が上がるのかという問題を産業構造に着目して明らかにします。</p> <p>産業・業界分析：産業や業界で企業は激しく競争を展開しています。しかし、やみくもに競争しているわけではなく、競争の焦点が存在します。そして、競争の焦点に見合った製品・サービスを生み出すために各企業は経営資源を蓄積し、事業の仕組みを構築しています。この講義ではそれらの関係性を明らかにします。</p>
授業の進め方	<p>通常の講義形式で授業を進めていきます。必要に応じて資料を配布します。</p> <p>授業時間内に質問を投げかけますので、積極的に答えてください。</p>
達成目標	<p>(1) 経営戦略についての理論的枠組みを理解することができるようになる。</p> <p>(2) 企業間競争についての理解することができるようになる。</p> <p>(3) 産業・業界間の競争のありようの違いを理解できるようになる。</p>
授業計画 (講義の具体的内容)	<p>第1部 経営戦略論</p> <p>第1回 経営戦略の基礎理論</p> <p>第2回 ポジショニングアプローチの経営戦略論(1)</p> <p>第3回 ポジショニングアプローチの経営戦略論(2)</p> <p>第4回 資源アプローチの経営戦略論(1)</p> <p>第5回 資源アプローチの経営戦略論(2)</p> <p>第2部 産業・業界分析</p> <p>第6回 競争の焦点</p> <p>第7回 経営資源の蓄積</p> <p>第8回 事業システム的设计</p> <p>第9回 デジタルカメラ産業(1)</p> <p>第10回 デジタルカメラ産業(2)</p> <p>第11回 デジタル家電(1)</p> <p>第12回 デジタル家電(2)</p> <p>第13回 日用品(1)</p> <p>第14回 日用品(2)</p> <p>第15回 まとめ</p>
履修上の注意	特になし
教科書	特になし
参考書	個別の論点にそくして、授業時間内に参考になる図書を紹介します。
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中間テスト(30%) ・ 学期末試験(70%) ・ 任意レポート(最大30点加点) ・ 授業への貢献(加点)

科目名	現代産業論	単位数	2	期別	集中
科目コード	F0724	担当教員	梅村 仁	所属	文教大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	本講義では、現代産業の基盤となる中小企業とはどのようなものか、中小企業の経営環境はどうなっているのか、今、中小企業には何が起きているのかなどについて考察する。特に、中小企業の過去、現在、経済のグローバル化に伴う中小企業の課題、地域経済の担い手としての中小企業への支援策などを主要な論点として、理解を深めたい。
授業の進め方	通常の講義形式で授業を進めていきます。必要に応じて資料を配布します。
達成目標	(1)現在の日本経済における中小企業の役割と中小企業の持つ多様性・多面性を理解するとともに、その可能性を学ぶ。 (2)身近な存在として中小企業が存立し、厳しい経営環境のもと、地域経済の源泉として活動していることの意義を考え理解する。
授業計画 (講義の具体的な内容)	第1回 オリエンテーション 第2回 中小企業とは何か 第3回 日本経済の発展と中小企業 第4回 中小企業政策の展開 第5回 中小企業と下請システム 第6回 地域中小企業と自治体産業政策 第7回 産業集積と中小企業 第8回 経済のグローバル化と中小企業 第9回 高知県の地場産業 第10回 高知県の地場産業 第11回 住工混在問題 第12回 ネットワークと中小企業 第13回 産業クラスターと中核・中小企業 第14回 ベンチャー企業とアントレプレナー 第15回 まとめ
履修上の注意	日頃から新聞の経済面やTVの報道番組を見るよう心がけて欲しい。
教科書	特になし。講義資料を配布する。
参考書	『地域産業政策』植田浩史他編、創風社(2012) 『地方都市の公共経営』梅村仁著、南の風社(2013)
成績評価方法	試験(80%)及び講義への参加姿勢(20%)から成績評価を行う。

科目名	統計学	単位数	2	期別	後期
科目コード	F0760	担当教員	谷本 真二	所属	元高知県立大学教授
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	統計学の基礎を学び、その考え方を修得する。
授業の進め方	配布するプリントをもとに講義形式で進める。
達成目標	(1) 確率と統計学の関係を理解する。 (2) 平均, 分散の計算とその意味を理解する。 (3) 統計データから推定と検定を行う。
授業計画 (講義の具体的 内容)	第1回 統計学とは何か 第2回 統計データ 第3回 平均と分散 第4回 データの分類 第5回 標本平均と標本分散の計算法 第6回 確率 第7回 組合せの数と二項分布 第8回 二項分布の平均と分散 第9回 正規分布と確率の計算 第10回 二項分布の正規近似 第11回 推定値 第12回 標本平均の分布 第13回 t分布 第14回 平均と割合の推定 第15回 平均と割合の検定
履修上の注意	2010年度以前の「経営情報システム論」を履修済の場合、この科目を履修することはできません。 課題の提出をおろそかにしないこと。
教科書	25ページ程度のプリントを配布する。
参考書	
成績評価方法	学期末試験の成績(50%)および課題提出と授業における積極的参加で評価(50%)

科目名	経済学特殊講義（工業簿記）	単位数	2	期別	前期
科目コード	F0769	担当教員	中野 慶伸	所属	土佐コンピュータ学院非常勤教員
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	日商簿記2級を学習します。
授業の進め方	講義、質疑応答、演習等
達成目標	(1) 企業で用いられる簿記を学習し、職業会計人としての基礎を築く。 (2) 日商簿記2級合格が一つの目標の目安になる。
授業計画 (講義の具体的 内容)	第1回 工業簿記の基礎 第2回 工業簿記の勘定連絡 第3回 材料費() 第4回 材料費() 第5回 労務費() 第6回 労務費() 第7回 経費 第8回 個別原価計算() 第9回 個別原価計算() 第10回 部門別個別原価計算() 第11回 部門別個別原価計算() 第12回 総合原価計算() 第13回 総合原価計算() 第14回 総合原価計算() 第15回 総合原価計算()
履修上の注意	日商検定は知名度も高く、企業の人事担当者にも知られている資格の一つです。 簿記2級取得を目指す科目ですので、主な受講対象者は、すでに簿記実務経験のある人または簿記3級の実力のある人となります。
教科書	日商簿記2級工業簿記合格テキスト TAC出版
参考書	講義の中で紹介します。
成績評価方法	講義への参加姿勢(60%)、期末試験(40%)などから総合的に評価します。

科目名	政治学	単位数	2	期別	前期	
科目コード	G0770	担当教員	清水 直樹	所属	高知短期大学	
連絡先	電話					088-873-2908(研究室)
	E-mail					shiminao@cc.u-kochi.ac.jp

授業概要 (テーマ等)	民主主義諸国間の比較を通じて、政治制度の違いがどのようにして政策の違いをもたらすのか、について講義します。
授業の進め方	レジュメを配布し、それにもとづいて講義形式で進めます。また、理解度確認のため、数回小テストを実施します。
達成目標	(1) 論理と根拠を持って現在の政治を理解し、説明できるようになる。 (2) 他国との比較を通じて、日本の政治制度の仕組みを理解する。 (3) 政治制度の違いがどのようにして政策の違いをもたらすのかを理解する。
授業計画 (講義の具体的 内容)	第1回から第6回までは、政治学の基本的な部分、すなわち、政治に関わる代表的なアクター(政治家、官僚、利益団体などの行為者)について学びます。そして、第7回から第15回までは、選挙制度、執政制度など政治制度について学びます。 第1回 オリエンテーション 第2回 組織された集団 第3回 多元主義とエリート主義 第4回 大企業と政治 第5回 官僚と政治家(1) 第6回 官僚と政治家(2) 第7回 多数決型民主主義とコンセンサス型民主主義 第8回 選挙制度 第9回 執政制度 第10回 政党制度 第11回 議会制度 第12回 官僚制 第13回 中央・地方関係制度 第14回 制度のパフォーマンス 第15回 まとめ 第16回 試験
履修上の注意	政治学 と政治学 は、両方受講する必要はなく、片方だけの受講でもかまいません。また、参考書については、それにもとづいて講義を進めるわけではないので、受講生すべてが準備しておく必要はありません。講義の補足が必要な場合、各自の判断で使用してください。加えて、地方の民主主義や政治については、この講義では扱いません。この部分に関心のある学生は、地方自治論 を受講してください。
教科書	使用しません。
参考書	『はじめて出会う政治学：構造改革の向こうに』北山俊哉・真淵勝・久米郁男著、有斐閣(2009年)、『比較政治制度論』建林正彦・曾我謙悟・待鳥聡史著、有斐閣(2008年)、『民主主義対民主主義：多数決型とコンセンサス型の36ヶ国比較研究』アレンド・レイブハルト著、粕谷祐子翻訳、勁草書房(2005年)。
成績評価方法	最終試験によって評価します(100%)。ただし、授業中に他の受講生の迷惑となる行為や試験の不正など、問題のある行為があった場合は、その時点で0点としますので、注意してください。

科目名	政治学	単位数	2	期別	集中
科目コード	G0771	担当教員	鶴谷 将彦	所属	立命館大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	この講義では、政党と選挙の説明を通じて、現代民主政治の仕組みについて講義します。
授業の進め方	レジュメを配布し、それに基づいて講義形式で進めます。
達成目標	(1) 論理と根拠を持って政治現象を理解し、説明できるようになる。 (2) 政党と選挙の仕組みを理解する。 (3) 現代民主政治の仕組みを理解する。
授業計画 (講義の具体的な内容)	第1回 オリエンテーション：講義の進め方と評価方法 第2回 政党の目的と形成(1) 第3回 政党の目的と形成(2) 第4回 政党組織 第5回 議会と政党 第6回 政党システム 第7回 選挙制度と政党システム(1回目課題配布) 第8回 日本の政党間競争と選挙(1) 第9回 日本の政党間競争と選挙(2)(1回目課題提出) 第10回 選挙民の中の政党 第11回 投票行動と政党(1) 第12回 投票行動と政党(2)(2回目課題配布) 第13回 日本の政党システム 第14回 政党と政権(2回目課題提出) 第15回 まとめ
履修上の注意	政治学 と政治学 は、両方受講する必要はなく、片方だけの受講でもかまいません。また、参考書については、それにもとづいて講義を進めるわけではないので、受講生すべてが準備しておく必要はありません。講義の補足が必要な場合、各自の判断で使用してください。
教科書	使用しません。
参考書	『現代の政党と選挙【新版】』川人貞史、平野浩、吉野孝、加藤淳子著、有斐閣(2011年)；『選挙と民主主義』岩崎正洋 編著、吉田書店(2013年)
成績評価方法	成績は、平常点(20%)、中間テスト(20%)最終試験(60%)によって評価します。平常点は、授業に関する感想や疑問点などを配布した用紙に記入してもらおうこととします。中間テストは、15回の中で第9回目を予定していますが、授業の進捗状況によっては、前後の授業回に変わる場合があります。なお中間テストは、講義の中で日程を指定しますので、注意しておいてください。

科目名	政治史	単位数	2	期別	後期	
科目コード	G0781	担当教員	清水 直樹	所属	高知短期大学	
連絡先	電話					088-873-2908(研究室)
	E-mail					shiminao@cc.u-kochi.ac.jp

授業概要 (テーマ等)	近代国家の形成、発展、崩壊を中心に、戦前・戦中の日本政治史について講義します。
授業の進め方	レジュメを配布し、それにもとづいて講義形式で進めます。また、理解度確認のため、数回小テストを実施します。
達成目標	(1) 論理と根拠を持って政治史を理解し、説明できるようになる。 (2) 戦前・戦中の日本政治史を理解する。 (3) 現在の政治状況を考える上で必要な政治史の知識を習得する。
授業計画 (講義の具体的な内容)	第1回 オリエンテーション 第2回 西洋の衝撃と倒幕(1) 第3回 西洋の衝撃と倒幕(1) 第4回 明治国家の形成(1) 第5回 明治国家の形成(2) 第6回 明治国家の形成(3) 第7回 政府と議会(1)、日清戦争 第8回 政府と議会(2)、日露戦争 第9回 政党と軍部、第1次世界大戦 第10回 政党政治の確立、第1次世界大戦後の内政と外交 第11回 政党政治の衰退と軍部の台頭(1) 第12回 政党政治の衰退と軍部の台頭(2) 第13回 政党政治の衰退と軍部の台頭(3) 第14回 日中戦争と第2次世界大戦 第15回 まとめ 第16回 試験
履修上の注意	政治史 と政治史 は、両方受講する必要はなく、片方だけの受講でもかまいません。また、参考書については、それにもとづいて講義を進めるわけではないので、受講生すべてが準備しておく必要はありません。講義の補足が必要な場合、各自の判断で使用してください。
教科書	使用しません。
参考書	『日本政治史：外交と権力』北岡伸一著、有斐閣(2011年)、『政党から軍部へ：1924～1941』北岡伸一著、中央公論新社(1999年)。
成績評価方法	最終試験によって評価します(100%)。ただし、授業中に他の受講生の迷惑となる行為や試験の不正など、問題のある行為があった場合は、その時点で0点としますので、注意してください。

科目名	政治史	単位数	2	期別	集中
科目コード	G0782	担当教員	鶴谷 将彦	所属	立命館大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	この講義では、1945年(昭和20年)以降の日本政治史について説明します。特に内閣総理大臣(首相)と政党(自由民主党)を中心に説明します。
授業の進め方	レジュメを配布し、それにもとづいて講義形式で進めます。
達成目標	(1) 論理と根拠を持って政治史を理解し、説明できるようになる。 (2) 戦後の日本政治史を理解する。 (3) 現在の政治状況を考える上で必要な政治史の知識を習得する。
授業計画 (講義の具体的 内容)	第1回 オリエンテーション：講義の進め方と評価方法 第2回 終戦直後の日本政治と占領政策 第3回 吉田茂とサンフランシスコ講和条約 第4回 鳩山一郎と1955年体制の成立 第5回 岸信介と日米安全保障条約 第6回 高度経済成長期の日本政治(1964年の東京オリンピックと沖縄返還) 第7回 田中角栄と高度経済成長の終焉 第8回 ロッキード事件と派閥政治：「三角大福中」(中間テスト実施予定) 第9回 中曽根康弘と小さな政府 第10回 消費税とリクルート事件 第11回 冷戦崩壊と湾岸戦争における日本 第12回 1955年体制の崩壊と1993年の政権交代 第13回 連立政権の時代と行政改革 第14回 小泉純一郎の登場と日本政治 第15回 まとめ
履修上の注意	政治史 と政治史 は、両方受講する必要はなく、片方だけの受講でもかまいません。また、参考書については、それにもとづいて講義を進めるわけではないので、受講生すべてが準備しておく必要はありません。講義の補足が必要な場合、各自の判断で使用してください。
教科書	使用しません。
参考書	『日本政治の転換点【第3版】』小野耕二著、青木書店(2006年)；『自民党 政権党の38年』北岡伸一著、読売新聞社(1995年)
成績評価方法	成績は、平常点(20%)、中間テスト(20%)最終試験(60%)によって評価します。平常点は、授業に関する感想や疑問点などを配布した用紙に記入してもらおうこととします。中間テストは、15回の中で第8回目を予定していますが、授業の進捗状況によっては、前後の授業回に変わる場合があります。なお中間テストは、講義の中で日程を指定しますので、注意しておいてください。

科目名	国際関係論	単位数	2	期別	後期
科目コード	G0789	担当教員	下山 憲二	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	国際関係論の基本的事項を学んでいきます。さらに、近年特に注目される国際開発、地域主義や環境問題についても言及していく。
授業の進め方	講義形式で行います。毎回レジメを配布し、それに沿って講義を進めます。
達成目標	(1)理論を理解できるようになる。 (2)国際実行を分析できるようになる。 (3)実際の時事問題に理論を当てはめて考えられるようになる。
授業計画 (講義の具体的な内容)	第1回 はじめに 国際関係論とは何か 第2回 国際関係論とは何か 第3回 国際関係の主体 国家 第4回 国際関係の主体の多様化 第5回 国際関係理論 リアリズム、リベラリズム 第6回 国際関係理論 コンストラクティヴィズム、その他 第7回 国際関係史 古代、中世、近代 (第1回 小テスト) 第8回 国際関係史 現代 第9回 冷戦の勃発と終結 第10回 核抑止論 第11回 ポスト冷戦の世界 低強度紛争、テロリズム 第12回 ポスト冷戦の世界 安全保障、国際機構 第13回 グローバリズム 第14回 地域主義の台頭 第15回 まとめ (第2回 小テスト)
履修上の注意	私語は厳に慎むように。
教科書	特に指定しない。
参考書	ジョセフ・ナイ『国際紛争』(有斐閣 2003年)。
成績評価方法	授業態度(30%)、小テスト(30%)、期末レポート(40%)で評価。

科目名	国際関係論	単位数	2	期別	後期
科目コード	G0790	担当教員	中西 三紀	所属	高知大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	<p>米国とメキシコ以南のラテンアメリカ諸国の間には、その距離の近接性にもかかわらず、対立と従属の長い歴史があります。本講義では、その歴史を紐解きながら、先進国・米国と途上国・ラテンアメリカの関係が形成されていく過程とその内実、現状を明らかにしていきます。</p> <p>南北アメリカ関係を理解することは、単にこの地域の実情を理解することにとどまらず、いまだ世界に厳然と存在する先進国と途上国間の格差（南北問題）を理解する一助となるはずで、受講生の皆さんの世界観を広げられるような講義になればと思います。</p>
授業の進め方	<p>毎回レジュメを配付し、それをもとに講義を進めていきます。</p> <p>授業終了後に質疑応答の時間を設けます。</p>
達成目標	<p>(1)南北アメリカ関係を米国およびラテンアメリカの二つの異なる視座から考え理解することができるようになる</p> <p>(2)グローバル化が進展するなかで変化していく南北アメリカ間の関係を理解することができるようになる</p> <p>(3)先進国からのみではない視点に立った世界理解に興味・関心をもつことができようになり、複眼的視点が求められる現代世界において社会的自覚を高めること</p>
授業計画 (講義の具体的な内容)	<p>歴史を知ることは今日の問題の理解につながることをと思っています。そこで本講義では、南北アメリカ間の歴史を、概略的にはありますが振り返ったうえで、グローバル化の進展と南北アメリカ関係について検討していきたいと思っています。授業計画は以下の通りです。なお、授業計画は大体の目安であり、回数が若干前後する可能性があることをあらかじめお断りしておきます。</p> <p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 南北アメリカ関係のはじまり（19世紀後半以降）</p> <p>第3回 南北アメリカ関係のはじまり（19世紀後半以降）</p> <p>第4回 南北アメリカ関係のはじまり（19世紀後半以降）</p> <p>第5回 世界大恐慌から1970年代までの南北アメリカ関係</p> <p>第6回 世界大恐慌から1970年代までの南北アメリカ関係</p> <p>第7回 世界大恐慌から1970年代までの南北アメリカ関係</p> <p>第8回 世界大恐慌から1970年代までの南北アメリカ関係</p> <p>第9回 グローバリゼーション下の南北アメリカ関係</p> <p>第10回 グローバリゼーション下の南北アメリカ関係</p> <p>第11回 グローバリゼーション下の南北アメリカ関係</p> <p>第12回 グローバリゼーション下の南北アメリカ関係</p> <p>第13回 グローバリゼーション下の南北アメリカ関係</p> <p>第14回 グローバリゼーション下の南北アメリカ関係</p> <p>第15回 グローバリゼーション下の南北アメリカ関係</p>
履修上の注意	<p>国際関係論 と併せて受講すると理解が深まると思います。</p>
教科書	なし。
参考書	特に指定しませんが、必要に応じて随時参考文献を紹介します。
成績評価方法	<p>期末試験（80％）と、講義への参加姿勢（20％）などから総合的に評価します。</p>

科目名	歴史学	単位数	2	期別	集中
科目コード	G0800	担当教員	江口 布由子	所属	高知工業高等専門学校
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	本講義では東中欧ヨーロッパのナショナリズムに焦点をあて20世紀前半の歴史を考察する。 また今日における二つの世界大戦についての歴史認識も、東アジアとの比較や連動を念頭において扱う予定である。
授業の進め方	基本的には講義形式となるが、ミニッツペーパーや講義中の発言を通して双方向的な意思疎通を図りたい。 そのため、受講生には積極的に自ら考え、意見を述べる姿勢を期待する。
達成目標	(1) 20世紀前半の歴史を理解する (2) 今日の「歴史問題」についての基礎知識を理解し、複数の見解を比較検討する視座を持つ (3) 歴史全般への関心を持ち、理解できるようになる
授業計画 (講義の具体的な内容)	第1回 オリエンテーション 第2回 東中欧の帝国 第3回 オーストリア・ハンガリー帝国のナショナリズム(1) 第4回 オーストリア・ハンガリー帝国のナショナリズム(2) 第5回 第一次世界大戦と帝国の解体(1) 第5回 第一次世界大戦と帝国の解体(2) 第6回 東中欧の新しい国家とマイノリティ問題(1) 第6回 東中欧の新しい国家とマイノリティ問題(2) 第7回 東中欧の新しい国家とマイノリティ問題(3) 第8回 ヒトラーの「新秩序」(1) 第9回 ヒトラーの「新秩序」(2) 第10回 ヒトラーの「新秩序」(3) 第11回 戦後の再建 第12回 20世紀前半をめぐる歴史認識(1) 第13回 20世紀前半をめぐる歴史認識(2) 第14回 20世紀前半をめぐる歴史認識(3) 第15回 総論
履修上の注意	ミニッツ・レポートを毎授業ごとに提出する。
教科書	適宜、プリントや参考資料を配付する。
参考書	Mark Mazower(2000), Dark Continent: Europe's Twentieth Century, Vintage. 南塚信吾(編)(1999)『ドナウ・ヨーロッパ史』(山川出版社)。
成績評価方法	ミニッツ・レポート(30%)、期末試験(50%)、授業への参加姿勢(20%)から総合的に評価する。

科目名	社会保障・福祉論	単位数	2	期別	前期	
科目コード	G0810	担当教員	田中 きよむ	所属	高知県立大学社会福祉学部	
連絡先	電話					088-847-8741(研究室)
	E-mail					kiyopy@cc.u-kochi.ac.jp

授業概要 (テーマ等)	社会保障各制度の基本的な内容や行財政構造の理解をふまえ、近年の政策的特徴を明らかにする。では、少子・高齢化の社会状況をふまえ、高齢者介護と児童福祉の制度内容を理解するとともに、施策の構造的特徴を明らかにする。
授業の進め方	基本的には、テキスト・板書とプリントによって講義を進める。 講義中の質問や意見は歓迎する。
達成目標	(1) 社会保障の基本概念と体系、経済・財政との関係が理解できるようになる。 (2) 介護保険制度の導入背景と基本構造、制度改革の特徴について理解できるようになる。 (3) 少子化の背景と対応の基本的方向を学ぶ。 (4) 保育・児童虐待対策等の具体的な児童福祉制度の基本的構造と制度改革の特徴を理解する。
授業計画 (講義の具体的内容)	第1回 福祉・社会保障の基本概念 第2回 社会保障と経済・財政の基本的関係 第3回 社会保障の制度体系 第4回 高齢化をめぐる社会状況と介護問題 第5回 措置制度と介護保険 第6回 介護保険制度の基礎構造 第7回 近年の介護保険制度改革の動向 第8回 少子化をめぐる社会状況と要因 第9回 少子化対応への基本的方向 第10回 保育所制度の沿革と行財政構造 第11回 近年の保育所制度の動向 第12回 児童虐待の状況と要因 第13回 児童虐待をめぐる政策動向 第14回 児童諸手当の内容と改正動向 第15回 育児休業制度の内容と改正動向
履修上の注意	下記の教科書を授業で使用するので、毎回、必携すること。なお、「社会保障・福祉論」との両方を受講することが望ましい。
教科書	『改訂版 少子高齢社会の社会保障論』田中きよむ著、中央法規出版(2014年4～5月刊行予定)；改訂版の方であるので注意すること
参考書	講義のなかで、各テーマごとに紹介する。
成績評価方法	学期末試験(80%)および出席状況・受講態度(20%)によって総合評価する。

科目名	社会保障・福祉論	単位数	2	期別	後期	
科目コード	G0820	担当教員	田中 きよむ	所属	高知県立大学社会福祉学部	
連絡先	電話					088-847-8741(研究室)
	E-mail					kiyopy@cc.u-kochi.ac.jp

授業概要 (テーマ等)	社会保障各制度の基本的な内容や行財政構造の理解をふまえ、近年の政策的特徴を明らかにする。では、年金・医療・障害者福祉の各分野に焦点を当て、その制度内容と構造的特徴を明らかにする。
授業の進め方	基本的には、テキストと板書によって講義を進める。 講義中の質問や意見は歓迎する。
達成目標	(1) 年金制度の構造と制度改革の内容を理解できる。 (2) 医療制度の構造と制度改革の内容を理解できる。 (3) 障害者福祉制度の構造と制度改革の内容を理解できる。
授業計画 (講義の具体的 内容)	第1回 年金保険制度の基本的しくみ1 第2回 年金保険制度の基本的しくみ2 第3回 年金制度改革の背景 第4回 年金制度改革の特徴 第5回 年金制度をめぐる今後の方向 第6回 医療保険制度の基本的しくみ1 第7回 医療保険制度の基本的しくみ2 第8回 医療制度改革の背景 第9回 医療制度改革の特徴 第10回 医療制度をめぐる今後の方向 第11回 障害の概念と障害者福祉の理念 第12回 社会福祉基礎構造改革の特徴 第13回 措置制度と支援費制度 第14回 障害者自立(総合)支援法の構造 第15回 障害者自立(総合)支援法の動向と今後の方向
履修上の注意	下記の教科書を授業で使用するので、毎回、必携すること。なお、「社会保障・福祉論」との両方を受講することが望ましい。
教科書	『改訂版 少子高齢社会の福祉経済論』田中きよむ著、中央法規出版(2014年4~5月刊行予定);改訂版の方であるので注意すること
参考書	講義のなかで、各テーマごとに紹介する。
成績評価方法	学期末試験(80%)および出席状況・受講態度(20%)によって総合評価する。

科目名	地方自治論	単位数	2	期別	後期
科目コード	G0840	担当教員	清水 直樹	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	地方制度と地方自治体の説明を通じて、地方自治の仕組みについて講義します。
授業の進め方	レジュメを配布し、それにもとづいて講義形式で進めます。また、理解度確認のため、数回小テストを実施します。
達成目標	(1) 論理と根拠を持って地方自治を理解し、説明できるようになる。 (2) 地方制度と地方自治体の活動を理解する。 (3) 地方自治の仕組みを理解する。
授業計画 (講義の具体的 内容)	第1回 オリエンテーション 第2回 日本の地方自治(1) 第3回 日本の地方自治(2) 第4回 各国の地方自治(1) 第5回 各国の地方自治(2) 第6回 地方自治体の統治システム(1) 第7回 地方自治体の統治システム(2) 第8回 地方税財政 第9回 地方自治体の組織と地方公務員(1) 第10回 地方自治体の組織と地方公務員(2) 第11回 ガバナンスと地方自治 第12回 市町村合併と広域連携 第13回 教育政策 第14回 福祉政策 第15回 まとめ 第16回 試験
履修上の注意	参考書については、それにもとづいて講義を進めるわけではないので、受講生すべてが準備しておく必要はありません。講義の補足が必要な場合、各自の判断で使用してください。また、地方自治論の民主主義とその基本装置(首長、地方議会、選挙)に関係する部分は政治学、そして、行政に関係する部分は行政学が基礎的な内容になります。地方自治論を受講するためには必須とは言いませんが、それらを受講すると理解がより深まります。
教科書	使用しません。
参考書	『テキストブック地方自治 第2版』村松岐夫編、東洋経済新報社(2010年)、『地方自治入門』稲継裕昭著、有斐閣(2011年)、『地方自治論入門』柴田直子・松井望編著、ミネルヴァ書房(2012年)、『ホンブック地方自治 改訂版』磯崎初仁・金井利之・伊藤正次著、北樹出版(2011年)。
成績評価方法	最終試験によって評価します(100%)。ただし、授業中に他の受講生の迷惑となる行為や試験の不正など、問題のある行為があった場合は、その時点で0点としますので、注意してください。

科目名	行政学	単位数	2	期別	前期
科目コード	G0861	担当教員	清水 直樹	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	民主政治下における行政の役割と活動の説明を通じて、行政の仕組みについて講義します。
授業の進め方	レジュメを配布し、それにもとづいて講義形式で進めます。また、理解度確認のため、数回小テストを実施します。
達成目標	(1) 論理と根拠を持って現代の行政を理解し、説明できるようになる。 (2) 民主政治下における行政の役割と活動を理解する。 (3) 行政の仕組みを理解する。
授業計画 (講義の具体的 内容)	第1回 オリエンテーション 第2回 政治と行政の関係 第3回 日本の政治と行政 第4回 政治と行政の関係の効果 第5回 国家公務員の採用 第6回 国会公務員の昇進 第7回 国家公務員の退職と天下り 第8回 内閣制度 第9回 中央省庁 第10回 行政管理と行政改革 第11回 財政制度と予算(1) 第12回 財政制度と予算(2) 第13回 ガバナンスと行政(1) 第14回 ガバナンスと行政(2) 第15回 まとめ 第16回 試験
履修上の注意	参考書については、それにもとづいて講義を進めるわけではないので、受講生すべてが準備しておく必要はありません。講義の補足が必要な場合、各自の判断で使用してください。また、民主政治の基本的な仕組みについては、政治学を受講すると理解がより深まります。加えて、地方の行政、中央と地方の関係については、この講義では扱いません。この部分に関心のある学生は、地方自治論を受講してください。
教科書	使用しません。
参考書	『行政学』真淵勝著、有斐閣(2009年)、『行政学』曾我謙悟著、有斐閣(2013年)、『よくわかる行政学』村上弘・佐藤満編著、ミネルヴァ書房(2011年)。
成績評価方法	最終試験によって評価します(100%)。ただし、授業中に他の受講生の迷惑となる行為や試験の不正など、問題のある行為があった場合は、その時点で0点としますので、注意してください。

科目名	社会学	単位数	2	期別	前期
科目コード	G0879	担当教員	遠山 茂樹	所属	高知大学人文学部
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	「社会」を把握するためには、社会現象や背景にある因果関係などを「言葉」や「記号」にして表現する必要がある。「社会」を捉えて考えるためにも、社会学における基本的な「概念」を理解すると同時に、(各種)社会学が何を対象に、どのように「社会」を見てきたのかを学び、現代社会への理解を促進することを目的とする。
授業の進め方	授業は講義形式で行い、毎回こちらで準備したレジメを配布する。 授業中にも簡単な課題を与えることもある。 期末試験を実施する。
達成目標	(1) 社会学における基礎概念を理解する。 (2) 現代社会を批判的に見つめられるようになる。 (3) 社会的概念を応用して身の回りの「社会」を理解できるようになる。
授業計画 (講義の具体的 内容)	社会学は「社会」を研究する学問である。しかし「社会」という言葉には何でも含まれてしまうため、理解しにくい。そこで前半は、社会全体について把握するための理論社会学の基本的概念を学習することで曖昧で捉えにくい「社会」を掴まえ、社会現象や社会の仕組み、集団や人間関係などについて理解を深めていく。 後半は、多くの専門領域をもつ社会学の中から私たちの生活に身近であろう家族、ジェンダー、福祉、都市、消費、メディア・情報などを取り上げ、各々の特定領域の社会研究において何を問題としているかを理解することで、現代社会を社会学の視点から考察できるよう学んでゆく。 授業計画としては以下の内容を予定している。 第1回 オリエンテーション<社会学とは> 第2回 行為論 第3回 相互作用論 第4回 集団論 第5回 社会の構造 第6回 全体社会 第7回 国家、エスニシティ、グローバル化 第8回 社会変動 第9回 家族社会学 第10回 ジェンダーの社会学 第11回 福祉の社会学 第12回 都市社会学 第13回 消費社会論 第14回 メディアと情報化社会 第15回 まとめ
履修上の注意	社会学 を履修していなくてもよい。
教科書	特になし (こちらで用意した資料を配布する)
参考書	『社会学小辞典 新版増補版』濱嶋朗ほか編、有斐閣(2005年) 『社会学がわかる事典』森下伸也著、日本実業出版社(2000年)
成績評価方法	2/3以上の出席を期末試験受験資格とする。 成績評価は、期末試験(70%)および講義中の課題(30%)などから総合的に評価する。

科目名	ジェンダー論	単位数	2	期別	前期
科目コード	G0890	担当教員	池谷 江理子	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	「ジェンダー」とは何か、なぜ、今、「男女共同参画」が謳われるのか、ということについて論じます。歴史を垣間見、現代の労働現場に立ち入り、「ジェンダー」の意味と含蓄を明らかにしながら、偏見や先入観にとらわれない社会の在り方を一緒に考えたいと思います。少子化や貧困の問題についても取り上げます。本講義は現代社会において欠落しがちな重要な視角を学ぶことを通し、受講者の社会的及び職業的自立を支援することを目指します。
授業の進め方	プリント等配布資料や画像を使い、主として講義形式で授業を行います。折にふれ、小テーマで意見交換やグループ討議を行います。小さなコメント用紙を配布しますので、意見や疑問等に利用してください。
達成目標	(1) ジェンダーの意味内容を理解できるようになる。 (2) 人類史とジェンダー概念の変容の概略を知る。 (3) 就業や社会保障におけるジェンダー・ギャップの実態を知る。 (4) 文化・教育におけるジェンダー・バイアスを知る。 (5) セクシャル・ハラスメントやドメスティック・バイオレンスの実態と背景を知り、その予防や防止につなげることができるようになる。 (6) ジェンダーの視点を身につけ、社会人、職業人としての基礎的教養とする。
授業計画 (講義の具体的な内容)	第1回 ジェンダーとは？(オリエンテーション) 第2回 歴史にみるジェンダー 日本と西洋におけるジェンダー 第3回 同上 西洋の場合 第4回 同上 日本の場合 第5回 仕事、就業とジェンダー 就業にみる男女格差 第6回 同上 男女賃金格差の実態と背景 第7回 同上 間接差別、ガラスの天井等 第8回 社会保障とジェンダー 制度におけるジェンダー・バイアス 第9回 同上 年金とジェンダー 第10回 育児とジェンダー 少子化を考える・合計特殊出生率の推移と背景 第11回 同上 国際比較からみた育児とジェンダー、育児休業と子育て支援 第12回 教育、メディア、文化とジェンダー 学校とジェンダー、メディアに登場するジェンダー 第13回 同上 文化とジェンダー 第14回 セクシャルハラスメント、ドメスティック・バイオレンスとジェンダー - 実態と背景、課題 第15回 私たちのつくる今後の社会とジェンダー(授業のまとめ)
履修上の注意	日常生活や日頃の意識と密接に関わるテーマです。批判的に聴講し、積極的に意見を発表し、自由に議論をたたかかせてほしいと希望します。
教科書	授業時にはプリントを用意するほか、適宜、文献・資料を紹介し、プロジェクターにより画像や写真等を映し出し理解を深めるようにします。
参考書	『岩波女性学事典』井上輝子他編著、岩波書店(2002年、4800円)、『男女共同参画統計データブック2012』独立行政法人国立女性教育会館著、ぎょうせい(2012年、2800円)、『女性のデータブック(第4版)』井上輝子他編著、有斐閣(2005年、3200円)他、適宜紹介。
成績評価方法	レポート評価を主とします(90%程度)が、講義や討論への参加状況、各種提出物等を加味(10%程度)し、総合的に評価します。

科目名	生涯教育論	単位数	2	期別	集中
科目コード	G0894	担当教員	山本 珠美	所属	香川大学 生涯学習教育研究センター
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	<p>わずか30年ほど前に生まれたばかりの「生涯学習」という言葉は、現在では日本を含め世界各地で教育施策の重要な柱となっています。</p> <p>本授業では、「生涯学習」概念の国際的展開を踏まえつつ、日本の現状と課題について考察します。</p>
授業の進め方	<p>本授業は講義（VTR鑑賞を含む）を中心としつつ、小グループ（6人程度）のグループワークも交えて進めます。グループワークでは全員発言することが必須となります。</p> <p>なお、8回目と9回目の授業の間に宿題を課す予定です。9回目以降の授業は、宿題を完了した上で出席して下さい。（授業日程次第で宿題の時期は変更になる場合があります。）</p>
達成目標	<p>(1) 「生涯学習」の概念について理解できるようになる。</p> <p>(2) とくに、日本の生涯学習の現状と課題について、理解できるようになる。</p> <p>(3) 日本の生涯学習の現状と課題について、自分の意見を構築し、グループワークの場で発表することができる。</p>
授業計画 (講義の具体的内容)	<p>第1回：イントロダクション</p> <p>第2回：「生涯学習」とは何か</p> <p>第3回：日本における生涯学習の法と制度</p> <p>第4回：子どもの学び、大人の学び</p> <p>第5回：人はどこで生涯学習をしているのか(公民館)</p> <p>第6回：人はどこで生涯学習をしているのか(図書館)</p> <p>第7回：人はどこで生涯学習をしているのか(博物館)</p> <p>第8回：人はどこで生涯学習をしているのか(大学、その他)</p> <p>第9回：人は何を生涯学習で学んでいるのか(1)</p> <p>第10回：人は何を生涯学習で学んでいるのか(2)</p> <p>第11回：生涯学習の国際的動向(1)</p> <p>第12回：生涯学習の国際的動向(2)</p> <p>第13回：職業能力開発と生涯学習(1)</p> <p>第14回：職業能力開発と生涯学習(2)</p> <p>第15回：総括</p>
履修上の注意	
教科書	特になし。授業中にプリントを配布します。
参考書	授業中に適宜紹介します。
成績評価方法	期末試験（50%）、授業への参加姿勢（50%）などから総合的に評価します。

科目名	歴史学特殊講義（地域史）	単位数	2	期別	後期
科目コード	G0900	担当教員	公文 豪	所属	高知近代史研究会、土佐史学会、高知市立自由民権記念館学芸資料整理課
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	講義テーマ：「植木枝盛の思想と生涯」 自由民権運動の理論的指導者・植木枝盛は、近代日本が生んだ最高の政治思想家として高い評価を得ている。彼は平易な文体で民主主義の神髄を当時の民衆に解き明かすことを心がけ、おびたしい論文、著作を残して33年の短い生涯を閉じた。幅広い読書と深い思索から紡ぎ出された独自の思想を素材に、現在、私たちが直面する民主主義の根本問題を考察する。
授業の進め方	毎回、レジュメと教科書に基づいて講義する。
達成目標	(1) 植木枝盛の自由民権思想とその生涯を理解する。 (2) 人類が到達した自由と人権思想の本質をつかむ。 (3) 日本における憲法と議会政治の成り立ちを理解する。 (4) 高知県の歴史について関心を高め、高知の歴史風土への愛着と誇りをつちかう。
授業計画 (講義の具体的 内容)	第1回 植木枝盛の生涯 第2回 植木枝盛の自由民権論 第3回 植木枝盛の地方自治論 第4回 植木枝盛の自由教育論 第5回 平和思想の系譜(1) 第6回 平和思想の系譜(2) 第7回 植木枝盛と女性参政権 第8回 植木枝盛の憲法構想 第9回 植木枝盛憲法草案と日本国憲法 第10回 実践家としての植木枝盛(酒屋会議など) 第11回 植木枝盛の社会改良論 第12回 植木枝盛の女権論(1) 第13回 植木枝盛の女権論(2) 第14回 植木枝盛と女たち 第15回 帝国憲法発布と植木枝盛
履修上の注意	2013年度以前の「地域史」を履修済の場合、この科目を履修することはできません。 出席をとります。教科書・参考書通読のこと。
教科書	プリント配付
参考書	『植木枝盛選集』家永三郎編、岩波文庫(2007年) 『史跡ガイド・土佐の自由民権』公文豪著、高知新聞社(2013年)
成績評価方法	レポート提出。評価は、レポート90%、講義への参加姿勢10%。

科目名	政治学特殊講義 (平和学)	単位数	2	期別	集中
科目コード	G0960	担当教員	谷川 昌幸	所属	元長崎大学教授
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	「平和」は、「健康」と同様、身近な日常的なものでありながら、多義的であり、実現方法も多岐にわたる。その意味で「平和」は難しいと言えるが、しかし、いかに難しくても、「健康」と同様、「平和」は私たちにとって無くてはならないものであり、それについて考えることを避けて通ることはできない。では、グローバル化の現代において、私たちは、どのような「平和」を、どのような「手段」で追求していくべきであろうか？ この講義では、現代の「積極的平和」を近代の「消極的平和」と対比しつつ分析し、この課題について考えていくことにしたい。
授業の進め方	関係資料やスライド、ビデオなどを使用し講義をする。受講生の皆さんには、議論の各段階ごとに意見をまとめ、発表・討論し、理解を深めていただく。
達成目標	(1)平和を自分自身の問題として引き受け、良き市民として行動するための基礎能力の獲得。 (2)それぞれの職場において、平和貢献に直接的または間接的に関わる業務を遂行するための基礎能力の獲得。
授業計画 (講義の具体的 内容)	第1回 平和学の学び方 第2回 平和の諸類型 第3回 近代国家と国際社会 第4回 近代国際社会と消極的平和 第5回 現代国家と世界社会 第6回 現代世界社会と「新しい戦争」 第7回 消極的平和から積極的平和へ 第8回 「人間の安全保障」(1) 第9回 「人間の安全保障」(2) 第10回 「人間の安全保障」(3) 第11回 日本国憲法の前文と第9条 第12回 日本の平和貢献(1) 第13回 日本の平和貢献(2) 第14回 日本の平和貢献(3) 第15回 平和的手段による平和実現に向けて
履修上の注意	インターネットは、出所明記のうえ批判的に使用すれば、平和情報の宝庫。参考書に加えネット情報も最大限活用して下さい。
教科書	プリント使用
参考書	『職業としての政治』ヴェーバー著、岩波文庫 『平和の政治学』石田雄著、岩波新書 『いま平和とは』最上敏樹著、岩波新書 『平和研究講義』高島通敏著、岩波書店 『平和構築入門』篠田英朗著、ちくま新書 『近現代世界の平和思想』田畑忍編著、ミネルヴァ書房
成績評価方法	『永遠平和のために』カント著、集英社 『わたしの非暴力1・2』ガンジー著、みすず書房 『構造的暴力と平和』ガルトゥング著、中央大学出版会 期末試験(70%)、レポート(30%)

科目名	歴史学特殊講義 (西洋近現代史)	単位数	2	期別	前期
科目コード	G0970	担当教員	柳川 平太郎	所属	高知大学教育学部
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	近代史編として、「17世紀の危機の時期」にあたるイギリス・ピューリタン革命以降のブルジョワ革命の時代を概観します。その際イギリスの著名な歴史家ホブズボームの「二重革命論」を手がかりに19世紀中葉までのイギリス、ドイツ、ポーランド等を比較史的に考察します。
授業の進め方	主として、ミネルヴァ書房刊『西洋の歴史・近現代史編』（増補版、1998年）の代表的項目を選びながら、毎回配布の資料プリントに基づいて講義形式の授業を行います。その際、出来る限りビデオ映像資料を活用する方針です。
達成目標	(1)近代法の理解にとって重要な概念（自由権・所有権等）を理解できるようにする。 (2)イギリス・フランス・ドイツなど西欧各国の比較を通して、各国の特質を把握する。 (3)現代デモクラシーの理解に関わる西欧社会の特色を東欧との比較から学ぶ。
授業計画 (講義の具体的な内容)	今年度は近代史編として以下の諸項目を中心に18・19世紀史の検討を行います。出来る限り映像資料を用いながら授業をすすめる予定です。 第1回 西洋近代史の対象と時代区分 第2回 序論 ホブズボームの「二重革命の時代」論とその意義 第3回 17世紀の危機 第4回 ピューリタン革命から名誉革命へ 第5回 フランス・ブルボン絶対王政 第6回 アメリカ独立革命 第7回 アメリカ合衆国の成立 第8回 フランス革命 第9回 大フランス革命とナポレオン 第10回 ハイチ革命 第11回 イギリス産業革命の歴史的前提 第12回 イギリス産業革命の展開 第13回 後発国の近代化と産業革命の課題 第14回 世界の工場イギリスとヨーロッパ諸国 第15回 展望 - 1848年
履修上の注意	2012年度以前「西洋近現代史」を履修済の場合この科目を履修することはできません。 高等学校地歴必修世界史（世界史A程度で可）の基礎知識を前提としますが、毎回当該領域の高校教科書プリントを配布しますので、未履修でも可能です。
教科書	購入の必要はありませんが、『西洋の歴史・近現代編』増補版、ミネルヴァ書房（1998年）の一部を参考にする予定です。
参考書	『市民革命と産業革命』エリック・ホブズボーム著、岩波書店、『産業と帝国』同著、未来社など。
成績評価方法	各回出席時の応答や積極的参加姿勢と課題レポートを半々に評価します。

科目名	現代社会特殊講義（環境論）	単位数	2	期別	後期
科目コード	G0980	担当教員	北條正司・藤原憲一郎	所属	高知大学理学部(北條) 高知高専名譽教授(藤原)
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	<p>環境汚染、特に水質汚染の実態や仕組み、エネルギー争奪戦の実情を理解し、その中からどのような新しい仕組みが生まれ、世界的な温暖化規制を打ち出せるのだろうか。現状を分析しながら、世界的な環境問題解決を目指す模索を自然科学、および社会科学の視点から考える。</p> <p>平成23年3月の東日本大震災や福島原発事故を契機にして日本の電力発電供給システムのあり方や今後の日本のエネルギー確保のあり方が大きな問題となり、それは単に電力の問題にとどまらず国民生活や政治のあり方にまで大きな影響をあたえようとしている。政権の交代にともなうエネルギー政策の変更や事態の進行を振り返りながら、現実の問題点と進められようとしている今後の対策を分析する。</p>
授業の進め方	<p>半期（15週）の講義であるが、前半を北條が担当し、後半を藤原が担当する。北條は教科書を使い、藤原はスライド等（資料配布）を使った講義になる。</p>
達成目標	<p>(1) 現在の大きな環境問題である温暖化防止や水質汚染問題に深い関心を持つ。</p> <p>(2) 社会活動とエネルギー・環境問題や原発問題に関する最近の動向を理解する。</p>
授業計画 (講義の具体的な内容)	<p>前半（北條担当）は、自然科学の立場から水質汚染および地球環境問題について講義する。 後半（藤原担当）は、自然科学の立場から、福島原発事故の実態と廃炉をめざす現状、日本や世界各国の新エネルギー政策、また地球温暖化への取り組みの現状について講義する。</p> <p>前半 第1回 バイオエネルギー（アルコール発酵）の重要性 第2回 地球と水 第3回 水の循環と利用 第4回 産業排水による水質汚染 第5回 生活排水による水質汚染 第6回 水道水と健康について 第7回 地球温暖化のメカニズム</p> <p>後半 第8回 電力供給計画の推移と原子力発電 第9回 福島第一原発事故の原因と対応 第10回 福島第一原発事故の社会的影響と安全対策 第11回 燃料サイクル問題と核廃棄物処理問題 第12回 エネルギー問題に対する政府の取り組み 第13回 代替エネルギーとしての再生可能エネルギーと課題 第14回 エネルギー資源と省エネルギー対策 第15回 世界のエネルギー事情と地球環境問題</p>
履修上の注意	<p>2012年度以前の「環境論」を履修済の場合、この科目を履修することはできません。出席をとります。</p>
教科書	<p>前半：『酒と熟成の化学～響きあう水とアルコール』北條正司・能勢晶共著、光琳（2100円）</p>
参考書	<p>授業時にそれぞれ紹介します。</p>
成績評価方法	<p>成績評価は、前半と後半の平均点を基にします。 前半は受講態度（40%）、レポート（50%）と小テスト（10%）などを評価します。 後半は受講態度（50%）とレポート（50%）にもとづいて総合的に評価します。</p>

科目名	現代社会論	単位数	2	期別	集中
科目コード	G1000	担当教員	久保 隆光	所属	明治大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	暮らしの片隅で起きている問題を一緒に考えてみませんか? 大学を出ても就職が厳しいのはなぜ?ニートが登場し社会問題化したのはなぜ?なぜ、非正規労働がこんなに拡大した?そもそも何で働く場がない?少子高齢化は分かっていたはず!?なのになぜ年金制度が不安定?モノと情報があふれる現代で、なぜ生活保護は戦後最大なの?そんななぜ?の解決を探ることをみなさんとともに考えていきます。生きていくこと、働くことに関わる諸問題とその解決の糸口となる動向・事例を多面的に見ていく授業を目指します。日常生活で起きている社会問題について、労働政策と社会保障の両面(社会政策)から議論します。そして、そのヒントを欧米の社会政策から考察していきます。なじみのあるアメリカ、フランスだけでなく、日本の教育制度に導入されているフィンランド・メル・ネット、パートタイム、アルバイトが正規雇用であるオランダ、デンマークのフレキシキュリティーなど、知っているようで知らない国々・世界の事例、動向を見ていきます。自分の職・生活とこれから・未来(老後)を社会政策から考えていく講義です。「高知から世界へ。そして世界から高知を!」探ってみませんか?
授業の進め方	1.授業は、毎回配布するレジュメと資料により講義形式で行います。 2.動画、映像!使用します。 3.授業内でコメント作成を行います。 4.質疑はいつでも!!
達成目標	1.日常の社会問題に関し、自分の日常生活と密接に関連することを理解できるようになる。 2.その問題点とその要因・背景を説明できるようになる。 3.欧米各国の政策の特徴から、日本への示唆、ヒントを得ることができるようになる。 4.これからの日本の社会政策について自分なりの意見をまとめることができるようになる。 5.本講義を通じて、働くことの意義、社会参加の重要性を自分なりに検討することを目指すようになる。
授業計画 (講義の具体的な内容)	第1回 概要説明:今、新しい働き方、生き方が問われている時代 第2回 資本主義経済のリスク:この世の中!働くことが商品として扱われる時代!?(市場、労働商品) 第3回 リスクに対するセーフティー・ネット:社会的弱者とセーフティネット 第4回 社会保障の機能・役割:所得再配分、年金、社会保障と経済の安定 第5回 日本企業のグローバル化のインパクト!働き方を変えた!?雇用環境の変化(産業の空洞化、水平分業、非正規労働) 第6回 非正規労働の拡大とネットカフェ難民(労働者派遣法、就職氷河期、ニート) 第7回 日本的経営の崩壊(終身雇用、年功序列、企業別労働組合) 第8回 「ジンザイ」はどっち?「人材」それとも「人財」?(人的資源管理の登場) 第9回 解決の糸口を世界から探る(北欧モデル、大陸モデル、自由主義モデル) 第10回 スウェーデン・デンマーク:老後を恐れない!豊かな老後!(高福祉・高負担) 第11回 フィンランド:教育こそが世界を変える!?世界が注目するフィンランド方式 第12回 オランダ:新しい働き方!パートでも正規雇用!? フレキシキュリティー社会(パート夫婦でも子供が大学進学できる社会、ワークライフバランス) 第13回 フランス:生き方上手!?市民社会の国 第14回 アメリカ:GDP No.1でも社会格差もNo.1!?(自由主義モデル) 第15回 全体総括:今、新しい働き方、生き方が問われている時代 あなたならどうしますか?「高知から世界へ 世界から高知へ」
履修上の注意	履修上の注意はありませんが、折に触れて新聞、ニュース、経済・ビジネス雑誌(東洋経済、日経ビジネス等)を通じて時事問題、社会問題に関心を寄せることを期待しています。
教科書	教科書は使用しません。 毎回、レジュメ、資料を配布します。
参考書	『よくわかる社会政策』石畑良太郎、牧野富夫編著、ミネルヴァ書房(2013年) 『よくわかる社会保障』坂口正之、岡田忠克編著、ミネルヴァ書房(2012年) その他の参考書・参考資料は配付できる物は配布し、その都度授業で紹介します。
成績評価方法	試験(70%)、講義への参加姿勢(コメント作成も含む)(30%)などから総合的に評価します。

科目名	高知学Ⅳ	単位数	2	期別	集中
科目コード		担当教員	今城 逸雄	所属	高知大学
連絡先	電話				
	E-mail				
授業概要 (テーマ等)	全国的に知名度が高い四万十川のある西部エリアに比べ観光開発が遅れている、高知県東部エリア(室戸市、安芸市、東洋町、奈半利町、田野町、安田町、北川村、馬路村、芸西村)における観光面の諸問題と地域政策を、自然体験観光プログラムなどを通して考える。				
授業の進め方	授業は、学内での講義及び、東部エリアでのフィールドワークを組み合わせで行います。 授業を通して得た成果をもとに、自然体験観光プログラムのブラッシュアップ策や、高知県東部エリアの観光振興策についてグループと個人でプレゼンテーションし、各自でレポートにまとめてもらいます。				
達成目標	(1)高知県の観光振興及び地域社会における問題を説明することができる。 (2)実体験と調査から課題を見つけことができる。 (3)地域政策を考え、行動を起す力を身に着けることができる。				
授業計画 (講義の具体的内容)	<p>2015年開催予定の「高知家・まるごと東部博」に向け自然体験観光プログラムのブラッシュアップ策と東部エリアの観光振興策を考えます。</p> <p>東部エリア観光の現状と計画を概観した後、現地でのフィールドワークを行います。</p> <p>第2日目と第3日目に、東部エリアの公共交通・地域資源を活かした観光プログラム・民泊を体験し、その結果をフィードバックします。併せて旅行者へのヒアリング調査を実施し、東部エリア観光が抱える問題点や改善点を考察します。</p> <p>第4日目に、観光プログラムのブラッシュアップ策と東部エリア観光振興への提言を発表します。グループと個人で取りまとめた後、「高知家・まるごと東部博」関係者に対してプレゼンテーションを行っていただきます。</p> <p>後期の土・日を利用した、4日間の集中講義となります。</p> <p>第2日目と3日目は、宿泊を伴うフィールドワークになります。</p> <p>○第1日目 第1～2回 10月18日(土)9:00～12:10 短大2階会議室 全体のガイダンス及び高知県東部地域の観光の現状と高知家・まるごと東部博の概要説明、振り返りミニレポート提出 (グループ分けを行います。2日目・3日目の自然体験プログラムと民泊での注意事項、グループワークとヒアリング調査の説明をします)</p> <p>○第2日目 第3～7回 10月25日(土)高知駅7:20集合 ごめん・なはり線で移動 フィールドワーク 9:00～17:50(現地泊)公共交通機関による移動体験、自然体験観光プログラム・民泊モニター、現地関係者との意見交換、振り返りミニレポート提出 ※民泊は3～4人に分かれて1家庭に宿泊予定</p> <p>○第3日目 第8～12回 10月26日(日)9:00～17:50 高知駅18:30着予定 観光客を対象とするヒアリング調査、体験及び調査結果の考察、公共交通機関による移動、振り返りミニレポート提出</p> <p>○第4日目 第13～15回 11月16日(日)9:00～14:40 短大2階会議室 成果取りまとめ、グループ・個人成果プレゼンテーション、総括、振り返りミニレポート提出</p> <p>この授業は、課題に対して学生自らが考え行動し、積極的に意見交換することで、問題の本質は何かを見つけ出す授業です。</p>				
履修上の注意	<p>第2日目と第3日目は1泊2日で宿泊を伴うフィールドワークになります。</p> <p>自然体験観光プログラム参加費と宿泊費は「高知家・まるごと東部博」のモニターとして、高知県東部地域博覧会推進協議会が負担していただきます。</p> <p>但し2日目と3日目の昼食及び、高知駅から安芸駅までの移動費2340円(JR、ごめん・なはり線料金1170円×2)は各自負担になります。</p> <p>学外でのフィールドワークとなりますので、学生教育研究災害傷害保険に必ず加入してから履修してください。</p> <p>自然体験観光プログラムは、グループごとに分かれて参加する場合があります。詳細は初回授業で説明します。</p> <p>民泊体験では学生を家族の一員として迎えていただきます。各家庭で一緒に生活することで、田舎の暮らし体験を行っていただきますので、食事作り、後片付け、布団敷きなどは受入家庭と一緒にいきます。</p> <p><準備物>長袖・長ズボン・運動靴で汚れても構わない服装、寝間着、歯ブラシ、タオル、筆記用具 ※その他、必要な物や注意点は初回授業で説明します。</p> <p>第4日目の成果プレゼンテーションは、「高知家・まるごと東部博」関係者に参加していただき、東部博の企画実施に活かします。プレゼンテーションの準備は基本的に授業時間外で行いますので、グループで調整するようにしてください。</p> <p>この講義の受講定員は15名です。</p>				
教科書	特定の教科書は使用しません。				
参考書	授業中に適宜紹介します。				
成績評価方法	ミニレポート(10%)、レポート(30%)、成果プレゼンテーション(30%)、授業への参加姿勢・プロセスの評価(30%)から総合的に評価します。				

科目名	外書講読	単位数	2	期別	前期
科目コード	H0990	担当教員	團野 哲也	所属	高知県立大学地域教育研究センター
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	<p>一般向けに書かれた社会科学の本を読みます。 文章の逐語訳ではなく、著者の主張点、社会での実情との比較ができるように、丁寧に読み解いていきます。 4年制大学の3年次編入試験に対応した英語力を身につけることを目指します。 授業は2回を1ユニットとして、7つのテーマについて、A4版2～4ページ程度の文書1～3本を読んでいきます。 各テーマの最初に、関連した最近のビデオ教材を視聴して、分野の概略を理解します。その後、文書を会読します。</p>
授業の進め方	<p>受講生主体に授業を進めます。 会読システムとします。 予習を主体に進めます。</p>
達成目標	<p>(1) 日常英語の語彙を増やす。 (2) 文章だけではなく、本文中の図表の意味が分かるようになる。 (3) 経済問題だけではなく、国際関係、先端科学、文化など広い領域について、英語で理解できるようになる。</p>
授業計画 (講義の具体的な内容)	<p>第1回：オリエンテーション、授業の進め方、評価の方法、この授業に期待すること 第2,3回：西部邁ゼミナール、アベノミクスのMIXぶり 第4,5回：サイエンスゼロ、ヒッグス粒子!素粒子の不思議ワールドへの招待 第6,7回：密着エネルギー争奪戦 シェールガス 第8回：公開講座（公開講座への出席を振り替えます） 第9,10回：戦場に咲いた小さな花 山本美香という生き方 第11,12回：マララさんは希望の星 教育機会願う少女たち 第13,14回：Steve Jobs, Stay hungry, stay foolish. 第15回：和食 千年の味のミステリー、レポート課題 アナウンス</p>
履修上の注意	<p>各テーマで講読する英文は、すべてWWWから無料でダウンロードできます。 辞書（紙媒体、電子辞書）を持参してください。 テーマは、授業開催時の国際情勢などによって、変更することがあります。 シラバスは2014年1月時点で書いています。</p>
教科書	
参考書	
成績評価方法	<p>授業への積極的な取り組み(70%) とくに会読への参加が重要です。 最終レポート(30%) などから総合的に評価します。</p>

科目名	外書講読	単位数	2	期別	後期
科目コード	H0990	担当教員	池谷 江理子	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	4年制大学への編入に対応した英語力をつけることを目的とした授業です。社会科学分野の英文に親しむことを目的とし、日本においても話題となっている内容に関する文章を読むことで、自信をつけながら次第に難度を上げていくようにしていきます。
授業の進め方	受講生がテキストを予習し、授業時に訳します。教員は解説を加え、内容等について受講生全体で議論します。
達成目標	(1) 社会科学英語の基本的語彙を増やす。 (2) 社会科学の文章に慣れ、図表等の読みとりができるようになる。 (3) 海外の社会科学上の諸問題に触れ、社会科学への問題意識を高める。 (4) 音読を通じ、海外での学問分野での交流・意見発表への準備とする。
授業計画 (講義の具体的 内容)	概ね以下のような内容を予定していますが、受講生の志望、社会情勢の変動等により、内容や順序が変更される可能性があります。 第1～2回 ジェンダーと教育 第3～4回 子供の貧困 第5～6回 ワーキング・プアと非正規雇用の拡大 第7～8回 貧困の連鎖 第9～10回 社会保障の歴史 第11～12回 社会保障とジェンダー 第13～14回 家族の変容と少子化 第15回 地球温暖化とその対策
履修上の注意	予習をして授業に向かうこと。普段から辞書を引き、授業時にも持ち込み利用すること(電子辞書でも可)。
教科書	プリントを用意する(適切な本があれば購入する場合があります)。
参考書	英和辞書
成績評価方法	授業での演習(50%)、試験(50%)で評価します。

科目名	外書講読	単位数	2	期別	後期
科目コード	H1000	担当教員	松吉 明子	所属	高知大学非常勤講師
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	イギリスとアメリカの風物や文化について書かれたエッセイを読み進めることによって、基本的な英文の読解力を養います。毎回4～5段落の長さの文章を読み、それに関連した問題を解きながら、文法の復習を行います。さらに、CDつきのテキストを使用することで、読み終わって意味をよく理解した上で、音読を繰り返し練習して、知識の定着を図ります。
授業の進め方	授業はテキストに沿って進めます。予習として、前もって読んできた文章を、二人一組で交互に訳して内容の確認をします。その後、訳例を紹介し解説を加え、文法問題に取り組みます。仕上げに意味を考えながら音読練習をするという形式で行います。
達成目標	(1) まず比較的簡単な英語の文章の概要がつかめるようになる。 (2) 次に読解を通じて文法の復習をすることで細部まで、正確に読めるようになる。 (3) 英文読解を通じて語彙力を強化する (4) 音読を利用して、英語のリズムを体得し、学んだことを定着させる。
授業計画 (講義の具体的な内容)	第1回 オリエンテーション 第2回 Lesson1 Terror in the City 第3回 Lesson 3 British History 第4回 Lesson 5 American History 第5回 Lesson 9 Universities in the UK 第6回 Lesson 10 Glamour and Glitz 第7回 Lesson 11 Baths 第8回 前半の復習とまとめ 第9回 Lesson 14 Old Houses 第10回 Lesson 17 UK Pride 第11回 Lesson 18 Trends and Swings 第12回 Lesson 20 Looking Big or Looking Back? 第13回 Lesson 21 Animals are Forever 第14回 Lesson 23 Youth 第15回 後半復習とまとめ
履修上の注意	(1) 外書講読 との連携はありません。 (2) 対象者は主として編入希望者となりますが、必ずしもそれに限定しません。英文を読むことに関心のある人も積極的に受講してください。
教科書	『The UK and the USA』 Terry O'Brien、三原 京 他著 2010年発行 南雲堂
参考書	なし
成績評価方法	授業への積極的参加と課題に対する取り組み、音読タスク(20%) 文法と英文内容理解の試験(80%)

科目名	キャリアデザイン	単位数	2	期別	後期
科目コード	H1010	担当教員	柳井 正持	所属	高知大学非常勤講師
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	グローバル社会における産業構造・職業構造に触れながら、現状の職業についての知識・情報の大切さを知り、自分の生き方・働き甲斐と職業との関係について学ぶ。
授業の進め方	プリントと新聞記事等を資料とし、質疑意見等含めて進める。
達成目標	(1) 働くことの意味を理解する。 (2) 職業や経済社会について理解する。 (3) 自己理解を深め職業と自己実現・生きがいについて理解する。
授業計画 (講義の具体的な内容)	第1回 オリエンテーション アンケート 第2回 キャリア・デザインとは 第3回 職業とは・・・とらえ方 職業観の移り変わり 第4回 職業と社会・・・今なぜキャリア・デザインか 第5回 働くとは・・・職業的規範 職業に対する意識 第6回 個人と職業・・・レディネス 規制するものは何か 第7回 自己と職業のかかわり 第8回 自己理解の意味・方法 第9回 人との出会い・・・チャンスのアンテナ 第10回 学生期のキャリア・ビジョン 第11回 職業選択と自己理解 第12回 働き甲斐 第13回 職業意識・・・労働の人間化 第14回 自己実現と職業・生き方・生きがい 第15回 職業をめぐる今日的な課題
履修上の注意	新聞をはじめ多くの情報を常に得ていることが望ましい。
教科書	そのつどプリント等を配布する。
参考書	必要に応じて紹介する。
成績評価方法	試験(80%)・レポート・発表等(20%)を考慮しながら総合的に評価する。

科目名	社会人基礎力養成講座	単位数	2	期別	前期
科目コード	H1011	担当教員	坂本 ひとみ	所属	高知県立大学 地域教育研究センター 特任講師
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	様々な角度からの自己分析をとおり、自分の価値観を知り、「強み」「弱み」を知る。また、社会の状況を知り、「求められている人材とは？」について考え、自分とのGAPを分析する。そこから、将来や職業観について考えていく。
授業の進め方	ワークシート、グループディスカッションを含めた授業の展開
達成目標	(1)自らの将来を考える機会を提供し、キャリア設計力を高める。 (2)「自分らしい就職・進学」のための戦略を考える。 (3)職業観の形成を支援し、基礎力の向上を図る。
授業計画 (講義の具体的 内容)	第1回 オリエンテーション キャリアとは？ 第2回 ワークキャリアとライフキャリア 第3回 価値観発見 自分らしさを知る 第4回 自己分析 第5回 コミュニティとコミュニケーション 第6回 現代社会とキャリア 第7回 社会を知る 今求められている能力 第8回 世界、日本、高知を知る 第9回 業界、職種、組織を知る 第10回 職場の環境と職場の現象 第11回 人材マネジメントの戦略 第12回 キャリア開発と自己PR 第13回 履歴書と自己PR 第14回 ビジネスマナー 第15回 まとめ 自分らしい生き方・働き方
履修上の注意	この授業では、より良い職業的自立のために必要な知識を講義します。
教科書	プリント等の配布
参考書	必要に応じて紹介する
成績評価方法	レポート(70%)・発表(30%)等を総合的に評価する

科目名	消費生活論	単位数	2	期別	集中
科目コード	H1012	担当教員	菊池 直人	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	消費生活に関する基礎知識を提供するとともに、「自立した消費者」として行動するのに必要な法律・経済・環境問題等の知識を体系的に講義します。
授業の進め方	講義レジュメに基づき、講義方式で行います。この科目は複数の講師によるオムニバス方式を採用します。
達成目標	(1) 消費生活に関する基礎知識を身につけ、消費にかかわる情報を自ら収集・選択できる「自立した消費者」として行動できる力を養成すること。 (2) 消費生活専門相談員の資格を獲得するための基礎的力量を身につけること。 (3) 消費にかかわる経済問題と法律問題、さらには環境問題等を関連付けて理解すること。
授業計画 (講義の具体的な内容)	講義はオムニバス形式で、各回毎に独立したテーマが講義されます。講師はテーマ毎に、その分野の専門家が担当します。 第1回 消費者問題概論(ガイダンス含む) 第2回 消費生活に必要な民法の知識 第3回 消費生活に必要な消費者契約法の知識 第4回 生活に必要な特定商取引法・割賦販売法の知識 第5回 若者と高齢者被害の救済事例 第6回 公正な競争の確保のために～独占禁止法等～ 第7回 経済の仕組みと消費生活～税金・物価・社会保障・保険～ 第8回 調停・訴訟等に関する知識 第9回 消費者教育の意義 第10回 食品表示の基礎知識 第11回 食品表示の基礎知識 第12回 消費生活とお金に関する基礎知識 第13回 金融商品に関する基礎知識 第14回 情報通信サービスに関する基礎知識 第15回 環境問題に関する基礎知識 講義の順序に変更がある場合もあります。
履修上の注意	公開講義ですので、在学生だけでなく、一般の方も受講できます。また、科目等履修生として受講することもできます。
教科書	毎回、講義レジュメを配布します。
参考書	講義のなかで紹介します。
成績評価方法	毎回の講義終了後、10分程度で感想を書いていただきます。また、単位認定希望者には、これとは別に2000字程度のレポートを提出していただく予定です。成績評価は、これらの提出物を総合して評価します。評価の基準は、感想文50%、レポート評価50%とします。

科目名	社会科学演習	単位数	2	期別	後期
科目コード	H1020	担当教員	専任教員複数名	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	この授業は各教員がその専門性を活かして開講する演習形式の授業である。 授業内容、受講申請方法についてはゼミ掲示板に掲示される。
授業の進め方	10名程度の少人数で双方向的に進める。
達成目標	
授業計画 (講義の具体的 内容)	開講時に担当教員が説明する。
履修上の注意	授業内容、受講申請方法についてはゼミ掲示板に掲示する。
教科書	演習で適宜指示する。
参考書	演習で適宜指示する。
成績評価方法	各担当教員から説明がある。

科目名	社会科学演習	単位数	2	期別	後期
科目コード	H1022	担当教員	専任教員複数名	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	この授業は各教員がその専門性を活かして開講する演習形式の授業である。 授業内容、受講申請方法についてはゼミ掲示板に掲示される。
授業の進め方	10名程度の少人数で双方向的に進める。
達成目標	
授業計画 (講義の具体的 内容)	開講時に担当教員が説明する。
履修上の注意	授業内容、受講申請方法についてはゼミ掲示板に掲示する。
教科書	演習で適宜指示する。
参考書	演習で適宜指示する。
成績評価方法	各担当教員から説明がある。

科目名	社会科学演習 (1年後期進路ゼミ)	単位数	2	期別	後期
科目コード	H1030	担当教員	坂本 ひとみ	所属	高知県立大学 地域教育研究センター 特任講師
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	現代社会がどのような問題を抱え、その中でどう生きるかを考えていく基礎的な力として、ディスカッションを通してコミュニケーションスキルの向上と基礎的な知識の習得を図り、就職につながる力を養成する。具体的には情報収集力を身につけ就職活動への活かし方を学ぶ。就職活動の現状を知り、自らの課題を見つめ、解決に向けた取り組みを考える。
授業の進め方	演習形式で進めます。円滑な就職活動に向けて、就職活動に必要な知識を提供するとともに、ワークシート、グループディスカッションを利用して展開します。
達成目標	(1) 読解、作文、プレゼンテーションなどの能力、現代社会を考える上での基礎的な知識など、就職に必要な基礎能力の向上を図る (2) 自分の将来展望を深く考察し、社会的自立に向けた素地を形成する。 (3) 就職活動をデザインし、キャリア設計力を高める。
授業計画 (講義の具体的な内容)	第1回 オリエンテーション 就職活動とは 第2回 就職活動の流れ 第3回 自己分析・自己理解 第4回 エントリーシート・履歴書について 第5回 希望する業界・職種・企業について 第6回 希望する業界・職種・企業について 第7回 免許や資格を知る 第8回 就職活動の現状 第9回 情報収集と活用 第10回 ビジネスマナー 第11回 ビジネスマナー 第12回 適性試験について 第13回 面接対応 第14回 面接対応 第15回 まとめ 就職活動に向けて
履修上の注意	主に就職希望者を対象としています。社会科学演習は、ウェブ上の「キャンパス支援システム」を利用した受講登録ができません。この就職対応の社会科学演習(坂本ゼミ)の受講希望者は第1、2回目の授業に出席し、受講希望を伝えてください。
教科書	プリント等の配布
参考書	必要に応じて紹介する
成績評価方法	レポート(70%) 発表(30%)等を総合的に評価する

科目名	社会科学演習 (1年後期進路ゼミ)	単位数	2	期別	後期
科目コード	H1030	担当教員	専任教員複数名	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	現代社会がどのような問題を抱え、その中でどう生きるかを考えていく基礎的な力として、文章を正しく理解し、基礎的な知識を身につけながら、論理的な文章を書く能力、的確なコミュニケーションを行う能力を育成する。これは短大における学びをより深いものとし、卒業後の四年制大学への編入や就職につながる力を養成するものとしても位置づけられる。
授業の進め方	受講希望者は複数のゼミに分かれ、それぞれ1人の教員の下で演習形式の学習を進める。受講生が自らを読み、書き、話し、聞く作業を通じて、実践的に能力を高める形となる。教員は適宜解説を行い、添削等の指導を行う
達成目標	(1) 読解力の養成を基礎に、小論文・レポートなどの比較的短い文章を論理的に書ける ようになること (2) プレゼンテーション能力を高めること (3) 現代社会の問題を考える上での基礎的な知識を身につけ、基本的用語を適切に使える ようになること (4) 自分の将来展望を深く考察し、他人に表現できる力を伸ばすこと (5) 四年制大学編入学試験や就職試験にも対応できる力を育てること
授業計画 (講義の具体的な内容)	演習は概ね次の4つの要素で構成される。 学生による小論文作成と教員による添削・講評、 文章の書き方講座、 現代社会の基礎知識理解、 自己の将来展望について考察し表現するための指導。 がこの演習の基本となる。教員が社説の要約などの課題を提示し、学生がそれに関して小論文を作成し、教員がその添削、講評を行う。多くの場合、小論文作成は授業時間外の宿題となるので、学生にとってはハードな作業が続くことになるが、それだけ力をつける絶好の機会となる。 では原稿用紙の使い方、句読点、段落の意味など、文章作成の基本的な知識を必要に応じて解説し、では「TPP」、「格差問題」、「裁判員制度」など、現代社会を読み解くためのキーワードを的確にとらえるようにしていく。 では、自分自身を見つめ、表現するために、自分の好きな言葉、学びの意味、将来の目標などをテーマに文章表現能力・コミュニケーション能力を高める。 この4つの要素をどのように組み合わせ、15回の演習を進めるかは、各教員が最初の授業で説明する。
履修上の注意	募集についてはゼミ掲示板に掲示する。
教科書	演習で適宜指示する。
参考書	演習で適宜指示する。
成績評価方法	各担当教員から説明がある。

科目名	社会科学演習（2年前期進路ゼミ）	単位数	2	期別	前期
科目コード	H1040	担当教員	清水直樹	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	現代社会がどのような問題を抱え、その中でどう生きるかを考えていく力を養うために、文章を正しく理解し、基礎的な知識を身につけながら、論理的な文章を書く能力、的確なコミュニケーションを行う能力を育成する。これは短大における学びをより深いものとし、卒業後の四年制大学への編入や就職につながる力を養成するものとしても位置づけられる。以上の目標に対して、社会科学演習よりも実践的に取り組むことを目的としている。
授業の進め方	受講希望者は複数のゼミに分かれ、それぞれ1人の教員の下で演習形式の学習を進める。受講生が自らを読み、書き、話し、聞く作業を通じて、実践的に能力を高める形となる。教員は適宜解説を行い、添削等の指導を行う。
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> (1) 小論文・レポートなどの比較的短い文章を論理的に書けるようになること (2) プレゼンテーション能力を高めること (3) 現代社会の問題を考える上での基礎的な知識を身につけ、基本的用語を適切に使えるようになること (4) 自分の将来展望を深く考察し、他人に表現できる力を伸ばすこと (5) 四年制大学編入学試験や就職試験にも対応できる力を育てること
授業計画 (講義の具体的な内容)	<p>演習は概ね次の4つの要素で構成される。学生による小論文作成と教員による添削・講評、文章の書き方講座、現代社会の基礎知識理解、自己の将来展望について考察し表現するための指導。</p> <p>がこの演習の基本となる。教員が社説の要約などの課題を提示し、学生がそれに関して小論文を作成し、教員がその添削、講評を行う。多くの場合、小論文作成は授業時間外の宿題となるので、学生にとってはハードな作業が続くことになるが、それだけ力をつける絶好の機会となる。</p> <p>では原稿用紙の使い方、句読点、段落の意味など、文章作成の基本的な知識を必要に応じて解説し、では「TPP」、「格差問題」、「裁判員制度」など、現代社会を読み解くためのキーワードを的確にとらえるようにしていく。</p> <p>では、自分自身を見つめ、表現するために、自分の好きな言葉、学びの意味、将来の目標などをテーマに文章表現能力・コミュニケーション能力を高める。</p> <p>この4つの要素をどのように組み合わせ、15回の演習を進めるかは、各教員が最初の授業で説明する。</p>
履修上の注意	募集についてはゼミ掲示板に掲示する。
教科書	演習で適宜指示する。
参考書	演習で適宜指示する。
成績評価方法	各担当教員から説明がある。

科目名	社会科学演習（2年前期進路ゼミ）	単位数	2	期別	前期
科目コード	H1040	担当教員	池谷江理子	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	現代社会がどのような問題を抱え、その中でどう生きるかを考えていく力を養うために、文章を正しく理解し、基礎的な知識を身につけながら、論理的な文章を書く能力、的確なコミュニケーションを行う能力を育成する。これは短大における学びをより深いものとし、卒業後の四年制大学への編入や就職につながる力を養成するものとしても位置づけられる。以上の目標に対して、社会科学演習よりも実践的に取り組むことを目的としている。
授業の進め方	受講希望者は複数のゼミに分かれ、それぞれ1人の教員の下で演習形式の学習を進める。受講生が自らを読み、書き、話し、聞く作業を通じて、実践的に能力を高める形となる。教員は適宜解説を行い、添削等の指導を行う。
達成目標	(1) 小論文・レポートなどの比較的短い文章を論理的に書けるようになること (2) プレゼンテーション能力を高めること (3) 現代社会の問題を考える上での基礎的な知識を身につけ、基本的用語を適切に使えるようになること (4) 自分の将来展望を深く考察し、他人に表現できる力を伸ばすこと (5) 四年制大学編入学試験や就職試験にも対応できる力を育てること
授業計画 (講義の具体的な内容)	演習は概ね次の4つの要素で構成される。学生による小論文作成と教員による添削・講評、文章の書き方講座、現代社会の基礎知識理解、自己の将来展望について考察し表現するための指導。 がこの演習の基本となる。教員が社説の要約などの課題を提示し、学生がそれに関して小論文を作成し、教員がその添削、講評を行う。多くの場合、小論文作成は授業時間外の宿題となるので、学生にとってはハードな作業が続くことになるが、それだけ力をつける絶好の機会となる。 では原稿用紙の使い方、句読点、段落の意味など、文章作成の基本的な知識を必要に応じて解説し、では「TPP」、「格差問題」、「裁判員制度」など、現代社会を読み解くためのキーワードを的確にとらえるようにしていく。 では、自分自身を見つめ、表現するために、自分の好きな言葉、学びの意味、将来の目標などをテーマに文章表現能力・コミュニケーション能力を高める。 この4つの要素をどのように組み合わせ、15回の演習を進めるかは、各教員が最初の授業で説明する。
履修上の注意	募集についてはゼミ掲示板に掲示する。
教科書	演習で適宜指示する。
参考書	演習で適宜指示する。
成績評価方法	各担当教員から説明がある。

科目名	社会科学演習（2年前期進路ゼミ）	単位数	2	期別	前期
科目コード	H1040	担当教員	菊池直人	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	現代社会がどのような問題を抱え、その中でどう生きるかを考えていく力を養うために、文章を正しく理解し、基礎的な知識を身につけながら、論理的な文章を書く能力、的確なコミュニケーションを行う能力を育成する。これは短大における学びをより深いものとし、卒業後の四年制大学への編入や就職につながる力を養成するものとしても位置づけられる。以上の目標に対して、社会科学演習よりも実践的に取り組むことを目的としている。
授業の進め方	受講希望者は複数のゼミに分かれ、それぞれ1人の教員の下で演習形式の学習を進める。受講生が自らを読み、書き、話し、聞く作業を通じて、実践的に能力を高める形となる。教員は適宜解説を行い、添削等の指導を行う。
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> (1) 小論文・レポートなどの比較的短い文章を論理的に書けるようになること (2) プレゼンテーション能力を高めること (3) 現代社会の問題を考える上での基礎的な知識を身につけ、基本的用語を適切に使えるようになること (4) 自分の将来展望を深く考察し、他人に表現できる力を伸ばすこと (5) 四年制大学編入学試験や就職試験にも対応できる力を育てること
授業計画 (講義の具体的な内容)	<p>演習は概ね次の4つの要素で構成される。学生による小論文作成と教員による添削・講評、文章の書き方講座、現代社会の基礎知識理解、自己の将来展望について考察し表現するための指導。</p> <p>がこの演習の基本となる。教員が社説の要約などの課題を提示し、学生がそれに関して小論文を作成し、教員がその添削、講評を行う。多くの場合、小論文作成は授業時間外の宿題となるので、学生にとってはハードな作業が続くことになるが、それだけ力をつける絶好の機会となる。</p> <p>では原稿用紙の使い方、句読点、段落の意味など、文章作成の基本的な知識を必要に応じて解説し、では「TPP」、「格差問題」、「裁判員制度」など、現代社会を読み解くためのキーワードを的確にとらえるようにしていく。</p> <p>では、自分自身を見つめ、表現するために、自分の好きな言葉、学びの意味、将来の目標などをテーマに文章表現能力・コミュニケーション能力を高める。</p> <p>この4つの要素をどのように組み合わせ、15回の演習を進めるかは、各教員が最初の授業で説明する。</p>
履修上の注意	募集についてはゼミ掲示板に掲示する。
教科書	演習で適宜指示する。
参考書	演習で適宜指示する。
成績評価方法	各担当教員から説明がある。

科目名	社会科学演習（2年前期進路ゼミ）	単位数	2	期別	前期
科目コード	H1040	担当教員	大井方子	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	現代社会がどのような問題を抱え、その中でどう生きるかを考えていく力を養うために、文章を正しく理解し、基礎的な知識を身につけながら、論理的な文章を書く能力、的確なコミュニケーションを行う能力を育成する。これは短大における学びをより深いものとし、卒業後の四年制大学への編入や就職につながる力を養成するものとしても位置づけられる。以上の目標に対して、社会科学演習よりも実践的に取り組むことを目的としている。
授業の進め方	受講希望者は複数のゼミに分かれ、それぞれ1人の教員の下で演習形式の学習を進める。受講生が自らを読み、書き、話し、聞く作業を通じて、実践的に能力を高める形となる。教員は適宜解説を行い、添削等の指導を行う。
達成目標	(1) 小論文・レポートなどの比較的短い文章を論理的に書けるようになること (2) プレゼンテーション能力を高めること (3) 現代社会の問題を考える上での基礎的な知識を身につけ、基本的用語を適切に使えるようになること (4) 自分の将来展望を深く考察し、他人に表現できる力を伸ばすこと (5) 四年制大学編入学試験や就職試験にも対応できる力を育てること
授業計画 (講義の具体的な内容)	演習は概ね次の4つの要素で構成される。学生による小論文作成と教員による添削・講評、文章の書き方講座、現代社会の基礎知識理解、自己の将来展望について考察し表現するための指導。 がこの演習の基本となる。教員が社説の要約などの課題を提示し、学生がそれに関して小論文を作成し、教員がその添削、講評を行う。多くの場合、小論文作成は授業時間外の宿題となるので、学生にとってはハードな作業が続くことになるが、それだけ力をつける絶好の機会となる。 では原稿用紙の使い方、句読点、段落の意味など、文章作成の基本的な知識を必要に応じて解説し、では「TPP」、「格差問題」、「裁判員制度」など、現代社会を読み解くためのキーワードを的確にとらえるようにしていく。 では、自分自身を見つめ、表現するために、自分の好きな言葉、学びの意味、将来の目標などをテーマに文章表現能力・コミュニケーション能力を高める。 この4つの要素をどのように組み合わせ、15回の演習を進めるかは、各教員が最初の授業で説明する。
履修上の注意	募集についてはゼミ掲示板に掲示する。
教科書	演習で適宜指示する。
参考書	演習で適宜指示する。
成績評価方法	各担当教員から説明がある。

科目名	社会科学演習（2年前期進路ゼミ）	単位数	2	期別	前期
科目コード	H1040	担当教員	田中康代	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	現代社会がどのような問題を抱え、その中でどう生きるかを考えていく力を養うために、文章を正しく理解し、基礎的な知識を身につけながら、論理的な文章を書く能力、的確なコミュニケーションを行う能力を育成する。これは短大における学びをより深いものとし、卒業後の四年制大学への編入や就職につながる力を養成するものとしても位置づけられる。以上の目標に対して、社会科学演習よりも実践的に取り組むことを目的としている。
授業の進め方	受講希望者は複数のゼミに分かれ、それぞれ1人の教員の下で演習形式の学習を進める。受講生が自らを読み、書き、話し、聞く作業を通じて、実践的に能力を高める形となる。教員は適宜解説を行い、添削等の指導を行う。
達成目標	(1) 小論文・レポートなどの比較的短い文章を論理的に書けるようになること (2) プレゼンテーション能力を高めること (3) 現代社会の問題を考える上での基礎的な知識を身につけ、基本的用語を適切に使えるようになること (4) 自分の将来展望を深く考察し、他人に表現できる力を伸ばすこと (5) 四年制大学編入学試験や就職試験にも対応できる力を育てること
授業計画 (講義の具体的な内容)	演習は概ね次の4つの要素で構成される。学生による小論文作成と教員による添削・講評、文章の書き方講座、現代社会の基礎知識理解、自己の将来展望について考察し表現するための指導。 がこの演習の基本となる。教員が社説の要約などの課題を提示し、学生がそれに関して小論文を作成し、教員がその添削、講評を行う。多くの場合、小論文作成は授業時間外の宿題となるので、学生にとってはハードな作業が続くことになるが、それだけ力をつける絶好の機会となる。 では原稿用紙の使い方、句読点、段落の意味など、文章作成の基本的な知識を必要に応じて解説し、では「TPP」、「格差問題」、「裁判員制度」など、現代社会を読み解くためのキーワードを的確にとらえるようにしていく。 では、自分自身を見つめ、表現するために、自分の好きな言葉、学びの意味、将来の目標などをテーマに文章表現能力・コミュニケーション能力を高める。 この4つの要素をどのように組み合わせ、15回の演習を進めるかは、各教員が最初の授業で説明する。
履修上の注意	募集についてはゼミ掲示板に掲示する。
教科書	演習で適宜指示する。
参考書	演習で適宜指示する。
成績評価方法	各担当教員から説明がある。

科目名	社会科学演習（2年前期進路ゼミ）	単位数	2	期別	前期
科目コード	H1041	担当教員	坂本 ひとみ	所属	高知県立大学 地域教育研究センター 特任講師
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	現代社会がどのような問題を抱え、その中でどう生きるかを考えていく力を養うために、的確なコミュニケーションを行う能力と基礎的知識の習得を図り、就職につながる力を養成する。社会科学演習よりも実践的に取り組むことを目的としている。具体的には、企業から求められる能力を理解し、対人スキルの向上を図る。自らの課題を明確にし、解決に向けた戦略を考える。社会人としての基礎力を身につける方法を学ぶ。
授業の進め方	演習形式で進めます。就職活動のための情報を提供し、個々人の就職を取り巻く課題の解決に向けて必要な知識を提供するとともに、ワークシート、グループディスカッションを利用して展開します。
達成目標	(1) 読解、作文、プレゼンテーションなどの能力、現代社会を考える上での基礎知識を養い、社会人としての基礎力の向上を図る (2) 自分の将来展望を深く考察し、主体的にキャリア形成する力を育てる (3) 職業生活の設計を行うための機会を提供し、就職力を高める。
授業計画 (講義の具体的な内容)	第1回 オリエンテーション キャリア設計 第2回 企業が求める人材とは 第3回 就職基礎能力について 第4回 自己理解とコミュニケーション 第5回 志望動機・自己PR 第6回 ビジネスマナー 第7回 適性試験 第8回 面接対応 第9回 面接対応 第10回 採用と選考 第11回 ストレスマネジメント 第12回 就職の基礎知識（法律・制度） 第13回 仕事の評価 第14回 働くことの意味 第15回 まとめ
履修上の注意	主に就職希望者を対象としています。社会科学演習は、ウェブ上の「キャンパス支援システム」を利用した受講登録ができません。この就職対応の社会科学演習（坂本ゼミ）の受講希望者は第1、2回目の授業に出席し、受講希望を伝えてください。
教科書	プリント等の配布
参考書	必要に応じて紹介する
成績評価方法	レポート（70%）・発表（30%）等を総合的に評価する

科目名	地域政策演習	単位数	4	期別	通年	
科目コード	SA011	担当教員	梶原 太一	所属	高知短期大学	
連絡先	電話					088-873-2901
	E-mail					kajiwara@cc.u-kochi.ac.jp

授業概要 (テーマ等)	<p>テーマ「高知県における非営利組織」</p> <p>非営利組織（Not-for-Profit Organization、NPO）は、政府や営利企業では実施することが難しい事業を担う存在として、社会から重要な役割を期待されるようになってきました。この演習では、高知に密着して医療や福祉、芸術、金融、教育、環境、中間支援などの様々な事業活動を行っている非営利組織の活動を調査し、諸外国における先進的な事例も参考にしながら、課題と展望を明らかにしていきます。</p>
授業の進め方	演習及びフィールドワークを実施します。
達成目標	<p>明らかにしたい目標を設定し、その解決のために調査する能力を身につける。</p> <p>調査を通して入手した情報を吟味する能力を身につける。</p> <p>情報や文献の内容を論理的に整理し、論文としてまとめる能力を身につける。</p> <p>この演習を通して、非営利組織に関する基礎的な知識を習得し、将来において非営利の活動に参画したり、支援したりする場面が訪れた際に力を発揮されることを期待します。</p>
授業計画 (講義の具体的な内容)	<p>第1回～第10回 非営利組織についての基礎を学び、調査の目標と計画を立案します。</p> <p>(1) 非営利組織の役割 (2) 非営利組織に関する法律および制度 (3) 非営利組織の起業・設立 (4) 非営利組織の使命と運営規則の制定 (5) 非営利組織の経営管理 (6) 他組織との協働・連携 (7) 非営利組織の資金調達 (8) 非営利組織の財務報告 (9) 非営利組織の活動評価 (10) 非営利組織の将来</p> <p>第11回～第15回 フィールドワークを実施します。</p> <p>(1) 高知県内で活動する非営利組織の調査（医療・福祉事業など） (2) 高知県内で活動する非営利組織の調査（金融・中間支援事業など） (3) 高知県内で活動する非営利組織の調査（教育・環境・芸術事業など） (4) 非営利組織に対する行政の支援および監督の調査 フィールドワークの調査地は、受講生と相談して決定します。</p> <p>第16回～第20回 フィールドワークで得た情報の整理と吟味を行います。</p> <p>第21回～第30回 調査結果を論文にまとめます。論文の途中経過の報告会も行います。</p>
履修上の注意	<p>前提となる知識は必要ありません。</p> <p>会計学特講と併せて履修すると、非営利組織のお金の流れに関する理解が一層深まるでしょう。</p>
教科書	田尾雅夫・吉田忠彦『非営利組織論』有斐閣アルマ、2009年。
参考書	藤井良広『金融NPO 新しいお金の流れをつくる』岩波新書、2007年。NPO法人会計基準協議会専門委員会監『NPO法人会計基準ハンドブック』2012年。Drucker, Peter F. 『Managing the Nonprofit Organization』1990年（上田惇生訳『非営利組織の経営』）。馬頭忠治・藤原隆信編『NPOと社会的企業の経営学 新たな公共デザインと社会創造』ミネルヴァ書房、2009年 適宜、参考文献を紹介します。
成績評価方法	レポート（50%）と参加姿勢（50%）により評価します。

科目名	地域政策特講	単位数	2	期別	集中
科目コード	SA020	担当教員	専任教員複数名	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	高知県をはじめとする地域の課題とその解決策について、法律、経済、政治などの多様な角度から学びます。
授業の進め方	複数の教員によるオムニバス形式
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・高知県の抱える現状の課題を理解すること。 ・それに対する解決策についての考えを持てるようになること。
授業計画 (講義の具体的な内容)	<p>授業スケジュールとテーマは以下のとおりです。</p> <p>7月29日(火) 18:00~19:00、8月5日(火) 18:00~19:30 テーマ:介護保険制度における市町村の役割(講義及び学生による報告) 担当:根岸</p> <p>9月3日(水) 18:00~21:10 テーマ:地域再投資と地域開発金融機関(講義と討論) 担当:梶原</p> <p>9月4日(木) 18:00~21:10 テーマ:地域の統治システムと憲法(講義と討論) 担当:小林</p> <p>9月5日(金) 18:00~21:10 テーマ:地域社会における商取引と法規制について(講義と討論) 担当:菊池</p> <p>9月6日(土)、7日(日) 10:00~18:00(集合時間場所は改めて連絡します) テーマ:地域政策事例研究「旧土佐山村の地域づくり」(講義とフィールドワーク) 担当:細居、なお、両日とも複数の外部講師(地元の方)を予定</p> <p>9月7日(月) 18:00~21:10 テーマ:地域における政党の役割(講義と討論) 担当:清水</p>
履修上の注意	フィールドワークを行いますので、受講生は全員「学生教育研究災害傷害保険」「同付帯賠償責任保険」(計440円)に加入すること。
教科書	なし
参考書	地域政策事例研究参考文献:『高知短期大学学生論集』(創刊号、1999年) その他の参考書は、適宜指示します。
成績評価方法	レポートにより成績評価を行う。レポートの形式や期限は別途指示します。

科目名	地域政策特講	単位数	2	期別	後期
科目コード	SA021	担当教員	池谷江理子	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	日本では少子化の進行が深刻な社会問題となっています。この背景や対策について、世界の国々と比較して考えていきます。また、日本国内における少子化進行の差異についても検討し背景と対策を考えていきます。
授業の進め方	レジュメと資料プリント等を使い説明していきますが、個々の論点については研究論文・著書・報告等を輪読し演習形式で進めていきます。受講者の希望や関心に応じ発表する機会等も設けます。
達成目標	(1) 日本の少子化に関する基礎知識と議論を理解する。 (2) 世界諸国の出生率の動向と大まかな背景を理解する。 (3) 少子化とその背景に関する議論を整理できる。 (4) 少子化の対策に関し問題意識を持つことができるようになる。
授業計画 (講義の具体的 内容)	第1回 特殊講義の内容解説 第2回 日本の少子化と時代背景 第3回 世界の少子化と諸類型 第4回 エスピン・アンデルセン等の福祉国家類型と少子化 第5回 北欧の少子化動向と背景 第6回 西欧の少子化動向と背景 第7回 南欧の少子化と背景 第8回 東欧の少子化と背景 第9回 東アジアの少子化と背景 第10回 日本における少子化動向の地域差 第11回 女性の就業と少子化 第12回 子育て支援と少子化 第13回 教育と少子化 第14回 国家財政支出と少子化 第15回 少子化改善の方策 概ね、上記内容を考えていますが、受講生の希望等により内容や順序等に変更が加えられる可能性もあります。また、第5回～10回には受講生による発表等を取り入れる予定です。
履修上の注意	できればジェンダー論を受講しておいてほしい。ただし、受講していなくても本講義を受講することは可能である。
教科書	教科書は指定しない。レジュメと資料を配布する。また、適宜、映像資料を使用する。
参考書	授業中に紹介する。
成績評価方法	レポート(70%)、発表(30%)等を総合的に評価します。

科目名	地域経済論特講	単位数	2	期別	前期
科目コード	SA030	担当教員	石筒 寛	所属	高知大学人文学部
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	地域経済が抱える問題について、その原因や背景を分析した上で、それを取り巻く様々な見方について検討します。
授業の進め方	演習形式で行います。地域経済に関連する文献を使用し、その論点や課題について、報告を交えながら議論します。
達成目標	(1) 政策的な観点から地域の経済問題を考えることができるようになる。 (2) 自分と異なる意見や見方、立場についても考えることができるようになる。 (3) 時間軸と空間軸の双方で経済的な事柄をとらえることができるようになる。
授業計画 (講義の具体的な内容)	第 1 回 オリエンテーション 第 2 回 地域経済を取り巻く諸問題 1 第 3 回 地域経済を取り巻く諸問題 2 第 4 回 地域経済を取り巻く諸問題 3 第 5 回 地域経済を取り巻く諸問題 4 第 6 回 地域経済を取り巻く諸問題 5 第 7 回 空間的視点から経済を考える 1 第 8 回 空間的視点から経済を考える 2 第 9 回 空間的視点から経済を考える 3 第 10 回 空間的視点から経済を考える 4 第 11 回 空間的視点から経済を考える 5 第 12 回 地域経済を取り巻く自分の経験 1 第 13 回 地域経済を取り巻く自分の経験 2 第 14 回 地域経済を取り巻く自分の経験 3 第 15 回 まとめ
履修上の注意	文献は難しいものを使用することはありません。授業で使用する文献は第 1 回の授業の際に受講生と相談して決定します。
教科書	授業中に指示します。
参考書	授業中に指示します。
成績評価方法	授業参加 (40%)、ディスカッションの内容 (40%)、報告内容 (20%)

科目名	地域財政論	単位数	2	期別	後期
科目コード	SA040	担当教員	霜田 博史	所属	高知大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	地方財政を考える上では、地域経済、地域社会とのかかわりのなかで見なければならぬ。そこで本講義では、地方財政の持続可能性を考えるうえで必要な条件について考察していくことを目的とする。
授業の進め方	講義形式とする。
達成目標	(1)現代日本の地方財政に関する基礎知識を習得する。 (2)地方財政の現状に関する歴史的背景を理解する。 (3)地方財政改革の方向性についての問題意識を持つことができるようになる。
授業計画 (講義の具体的 内容)	第1回 オリエンテーション 第2回 地方財政と地域社会 第3回 「地域経営」という考え方 第4回 地方自治体の現状をめぐる歴史的背景 第5回 地方自治体の現状をめぐる歴史的背景 第6回 地方財政と地域政策 第7回 地方財政と地域経済 第8回 地方税と課税自主権 第9回 地方財政を分析するために 第10回 地方財政を分析する 決算 第11回 地方財政を分析する 歳入と地方税 第12回 地方財政を分析する 目的別歳出 第13回 地方財政を分析する 性質別歳出と経常収支比率 第14回 地方財政を分析する 決算関連諸指標 第15回 まとめ
履修上の注意	内容の順序については、事情により変更することもある。
教科書	特になし。レジュメおよび資料を配布する。
参考書	必要なものについて、授業中にそのつど推薦する。
成績評価方法	期末試験(100%)により評価する。

科目名	貿易論特講	単位数	2	期別	前期	
科目コード	SA060	担当教員	細居 俊明	所属	高知短期大学	
連絡先	電話					088-873-2867
	E-mail					hosoi@cc.u-kochi.ac.jp

授業概要 (テーマ等)	貿易論特講は、地域経済にとって、地域外との交易（地域間交易）の意味を検討します。地域間交易には、その地域と外国との交易（貿易）を含むだけでなく、その地域と同じ国内の、他の地域（都道府県など）との取引を含みます。地域間交易の視点から、グローバル化の中での、地域経済再生の条件を考えていきます。 今年度はTPP（環太平洋経済連携協定）に焦点をあて、日本と地域経済にとってどのような意味をもつかをじっくりと考えていくことにします。
授業の進め方	演習形式で行います。主に受講生からの報告を中心に、議論しながら学習を進めます。
達成目標	(1) WTOルールと地域貿易協定との関連を整理してとらえる。 (2) TPP（環太平洋経済連携協定）について基本的理解を深める。 (3) 地域経済にとってTPPがどのような意味をもつのか、検討すべき問題を理解する。
授業計画 (講義の具体的内容)	概ね、次のような項目を取り上げて問題を深めていくことを候補の1つとします。しかし、内容的には地域とつながりの深いところを重視して進めます。また受講生と相談して学習内容を確定していきます。学ぶ方法としては、関連文献を取り上げ、それを受講生が持ちまわりでレポートをする形で進めます。 第1回 オリエンテーション 第2回 WTO(世界貿易機構)と地域貿易協定 第3回 WTOと地域貿易協定 第4回 TPP（環太平洋経済連携協定）とは何か 第5回 TPPとは何か 第6回 TPP賛成論 第7回 TPP賛成論 第8回 TPP反対論 第9回 TPP反対論 第10回 TPP参加国と日本 第11回 TPP参加国と日本 第12回 EU（欧州連合）とTPP 第13回 農業再生の課題とTPP 第14回 日本経済の課題とTPP 第15回 まとめ
履修上の注意	積極的に参加する姿勢が求められます。
教科書	特に指定しません。
参考書	文献は適宜紹介します。
成績評価方法	毎回の授業での受講生によるレポート（60%）を基本に、授業への参加姿勢(40%)を加味して総合的に評価します。

科目名	地方政治論	単位数	2	期別	後期	
科目コード	SA080	担当教員	清水 直樹	所属	高知短期大学	
連絡先	電話					088-873-2908(研究室)
	E-mail					shiminao@cc.u-kochi.ac.jp

授業概要 (テーマ等)	地方政治を分析するための方法論について学び、その方法を活用して、受講生に、各自関心のある地方政治を分析してもらいます。
授業の進め方	演習形式で進めます。具体的には、毎回担当者を決めたとで、報告する、報告の後、全員で議論、教員の解説、という手順で進めます。詳しい進め方については、第1回の授業で説明します。
達成目標	(1) 論理と根拠を持って地方政治を理解し、説明できるようになる。 (2) 政治分析方法論について理解する。 (3) 現在の政治状況を考える上で必要な地方政治、地方自治の知識を習得する。
授業計画 (講義の具体的 内容)	第1回 オリエンテーション 第2回 説明という試み 第3回 説明の枠組み 第4回 科学の条件としての反証可能性 第5回 観察、説明、理論 第6回 推論としての記述 第7回 共変関係を探る 第8回 原因の時間的先行 第9回 他の変数の統制 第10回 分析の単位、選択のバイアス、観察のユニバース 第11回 比較事例研究の可能性 第12回 単一事例研究の用い方 第13回 政治学と方法論 第14回 地方政治の分析(1) 第15回 地方政治の分析(2)
履修上の注意	担当部分を要約する際、わからない部分が多く出てくると思いますが、どの部分がどのようにわからなくて、わからないなりにどのように考えたのか、を明確にするよう心がけてください。
教科書	『原因を推論する：政治分析方法論のすすめ』久米郁男著、有斐閣(2013年)。
参考書	『創造の方法学』高根正昭、講談社(1979年)、『政策リサーチ入門：仮説検証による問題解決の技法』伊藤修一郎著、東京大学出版会(2011年)。その他は、授業中に紹介します。
成績評価方法	授業への参加態度(50%)と報告(50%)によって評価します。

科目名	社会調査論	単位数	2	期別	前期
科目コード	SA085	担当教員	畠中 洋行	所属	プロセスデザイナー(フリーランス)
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	住民参加による住まいづくり・まちづくり・地域づくりの実践現場での経験をふまえ、こどもから高齢者まで、いろいろな人と人との関係性を紡ぎだしていくプロセスにおける、社会調査の意義やあり方を具体的に考察し、実践的な方策を見いだす力を養うことを目的とします。
授業の進め方	様々な事例を映像等で紹介し、その内容をふまえて、受講生と意見のやりとりをしながら、方向性を整理していく進め方を考えています。
達成目標	(1) 地域・まちに存在するヒト・モノ・コトの魅力を発見、感じる視点の持ち方に気づいてもらう (2) 地域・まちに存在する様々な課題に対し、「何だろうか?」と疑問を持ってもらう (3) 上記の魅力をどうすればもっと魅力的なものにできるか、課題を解消するにはどのように取り組んでいけばいいかについて、少しでも理解が深まるようになる
授業計画 (講義の具体的な内容)	第1回 オリエンテーション 第2回 北方地区のまちづくり(住民参加による住環境改善)事例にみる地域の魅力と問題点のを見つけ方について 第3回 県営住宅若草南団地の建て替えにみる、居住者参加方式による取り組みとコミュニティ形成のあり方について 第4回 赤岡のまちづくり(その1)モノ・ヒト・コトの魅力を見つけるしくみづくりについて 第5回 赤岡のまちづくり(その2)絵金蔵・弁天座が生まれるまでのプロセスについて 第6回 赤岡のまちづくり(その3)地域のキーパーソンの魅力について 第7回 赤岡のまちづくり(その4)絵金蔵蔵長が語る絵金と絵金蔵の魅力について 第8回 地域資源を活かすデザインのチカラについて 第9回 鹿児島県鹿屋市柳谷集落(通称「やねだん」)の取り組みにみる地域づくりのしくみについて 第10回 道の駅の魅力・可能性について 第11回 「こどもとまち、こどもの社会参画」(その1)ドイツミュンヘンにおけるミニ・ミュンヘンの取り組みについて 第12回 「こどもとまち、こどもの社会参画」(その2)ミュンヘン市におけるこども議会等の取り組みについて 第13・14回 「こどもとまち、こどもの社会参画」(その3、その4)こどもが運営するまち「とさこタウン」の取り組みについて 第15回 授業のまとめ
履修上の注意	特になし
教科書	講義レジュメ及び関連資料の配布
参考書	同上
成績評価方法	講義への参加姿勢(70%)、各事例を聞いたうえでのコメントあるいはレポート(30%)などから総合的に判断する。

科目名	公法特講	単位数	2	期別	前期
科目コード	SB093	担当教員	小林 直三	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	憲法及び行政法に関する正確な知識を修得し、かつ、そのことを前提に諸論点を考察していく。
授業の進め方	原則として、通常の講義形式で行う。ただし、受講生にテーマを課して、数回程度、「必ず」報告を求める。
達成目標	(1) 憲法及び行政法に関する正確な知識を修得する。 (2) 憲法及び行政法の諸論点に関する判例・学説を理解する。 (3) 上記の2項目が達成できたことを前提とした上で、憲法及び行政法に関する諸論点について、きちんと分析し、自分自身で考えていくことができるようになる。
授業計画 (講義の具体的な内容)	第1回 イントロダクション(講義のすすめ方や成績評価方法、受講にあたっての注意事項などの説明) 第2回 司法審査の概念と限界について 第3回 国会及び内閣について 第4回 財政及び地方自治について 第5回 人権の概念について 第6回 信教の自由と政教分離原則について 第7回 表現の自由について 第8回 その他の人権について 第9回 行政法の基本原理について 第10回 行政組織法について 第11回 行政作用法について 第12回 行政救済法について(その1:国家補償法について) 第13回 行政救済法について(その2:行政争訟法について) 第14回 情報公開制度及び個人情報保護制度について 第15回 これまでの講義の補足説明と時事問題について
履修上の注意	2012年度以前の「憲法特講」または「行政法特講」を履修済の場合、この科目を履修することはできません。また、数回程度、「必ず」報告をしてもらいます。 なお、この科目は、本科での憲法・憲法・行政法・行政法の講義内容をきちんと理解できていることを前提として行いますので、注意してください。
教科書	『憲法実感!ゼミナール』孝忠延夫・大久保卓治編、法律文化社(2014年)
参考書	『テキストブック憲法』澤野義一・小林直三編、法律文化社(2014年) 『中絶権の憲法哲学的研究 アメリカ憲法判例を踏まえて』小林直三著、法律文化社(2013年)
成績評価方法	複数回の報告(60%)、および講義への参加姿勢など(40%)から総合的に評価する。

科目名	国際法特講	単位数	2	期別	後期
科目コード	SB100	担当教員	下山 憲二	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	国際判例の考察を通して、より高度に国際法を理解する。
授業の進め方	基本的にゼミ形式で行い、受講生に報告してもらう。教員が適宜解説を行う。
達成目標	(1)判例を理解し分析できるようになる。 (2)議論に積極的に参加できるようになる。 (3)判例を自ら報告できるようになる。
授業計画 (講義の具体的 内容)	第1回 オリエンテーション 第2回 報告判例の説明、報告方法について 第3回 教員による模擬報告 (コルフ海峡事件) 第4回 国連本部協定事件 (国際法と国内法の関係) 第5回 光華寮事件 (国家の要件) 第6回 ウィンブルドン号事件 (一般法と特別法) 第7回 エクスチェンジ号事件 (国家免除) 第8回 パルマス島事件 (島の領有、権原) 第9回 北海大陸棚事件 (大陸棚の画定) 第10回 ゼーリング事件 (人権の保護) 第11回 ナミビア事件 (国家機関) 第12回 東京裁判、ニュルンベルク裁判 (戦後処理) 第13回 ジェノサイド条約事件 (留保の有効性) 第14回 レインボー・ウォーリアー号事件 (国家責任と条約違反) 第15回 MOXプラント事件 (環境保護と予防原則) あくまで上記の判例は例であり、学生と相談の上決定する。
履修上の注意	活発な議論を期待する。
教科書	『ベーシック条約集2013年版』松井芳郎編、東信堂 (2013年)及び『判例国際法(第2版)』松井芳郎編、東信堂 (2006年)の購入が望ましい。なお、条約集については、最新版を購入してください。
参考書	特に指定しない。
成績評価方法	授業態度(80%)、報告内容(20%)を合わせて評価。

科目名	民事法特講	単位数	2	期別	後期
科目コード	SB121	担当教員	緒方 賢一	所属	高知大学人文学部
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	<p>民法は、取引や家族の問題について規定している私法の一般法です。日常生活の様々な場面で民法との関わりがありますが、本演習では高知県において盛んである農林水産業と民事法の関わりについて学びます。</p> <p>農地の売買や貸借にはどのような問題があり、現実にはどのようにそれがなされているか、家族内部の役割分担や経営の承継はどうなっているのか、あるいは漁業協同組合とはどういう組織で漁業者はどのような権利に基づいて漁業をしているか、といったことについて、調べ、考え、議論します。</p>
授業の進め方	<p>演習形式で授業を進めます。いくつかのトピックを設定し、教員がアウトラインを説明したあと、報告者を決めて課題について報告してもらい、報告にもとづいて質疑応答を行います。</p> <p>半年間のまとめとしてレポートを作成してもらいます。</p>
達成目標	<p>(1) 農林水産業を支える法構造について理解できる。</p> <p>(2) 特定の課題について調べ、報告することができる。</p> <p>(3) 法学的な観点からレポートを作成することができる。</p>
授業計画 (講義の具体的な内容)	<p>第1回 講義の概要説明とスケジュール確認</p> <p>第2回 第1回テーマ 農地問題についてのアウトライン説明</p> <p>第3回 第1回テーマ 農地問題についての報告・質疑応答</p> <p>第4回 第1回テーマ 農地問題についての報告・質疑応答</p> <p>第5回 第1回テーマ 農地問題についての報告・まとめ</p> <p>第6回 第2回テーマ 家族経営についてのアウトライン説明</p> <p>第7回 第2回テーマ 家族経営についての報告・質疑応答</p> <p>第8回 第2回テーマ 家族経営についての報告・まとめ</p> <p>第9回 第3回テーマ 農業の多面的機能についてのアウトライン説明</p> <p>第10回 第3回テーマ 農業の多面的機能についての報告・質疑応答</p> <p>第11回 第3回テーマ 農業の多面的機能についての報告・まとめ</p> <p>第12回 第4回テーマ 漁業権・漁村についてのアウトライン説明</p> <p>第13回 第4回テーマ 漁業権・漁村についての報告・質疑応答</p> <p>第14回 第4回テーマ 漁業権・漁村についての報告・まとめ</p> <p>第15回 レポート作成要領の説明</p>
履修上の注意	<p>なんらかの法律系科目を履修していることを前提に演習を行います。</p>
教科書	<p>報告に必要な文献についてはその都度指示を出します。</p>
参考書	<p>農業問題に関して予め、農山漁村文化協会の「シリーズ・地域の再生」のうちの何冊かを読んでおくとうれいでしょう。</p> <p>法律の演習ですので、六法は毎回持参してください。</p>
成績評価方法	<p>授業への参加姿勢(30%)および報告内容(40%)、レポート(30%)により評価します。</p>

科目名	刑事法特講	単位数	2	期別	後期
科目コード	SB130	担当教員	田中 康代	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	責任能力と責任無能力者への処遇について講義を行います。
授業の進め方	初回の授業で受講生と協議して、決定しますが、現段階では講義をするだけでなく、様々な文献を読み、学生と教員の間で討論しようと考えています。
達成目標	(1)責任能力意義について理解すること。 (2)精神障害者と犯罪の問題について理解すること。 (3)望ましい心神喪失者の処遇とはどのようなものかを各自考えること。
授業計画 (講義の具体的 内容)	<p>第1回 はじめに 授業方法の確認 第2回 責任能力とは何か 第3回 触法行為を行った責任無能力者の処遇(1) 第4回 触法行為を行った責任無能力者の処遇(2) 第5回 保護処分 第6回 精神保健福祉法の問題(1) 第7回 精神保健福祉法の問題(2) 第8回 心神喪失者等医療観察法の問題(1) 第9回 心神喪失者等医療観察法の問題(2) 第10回 国連総会決議「精神病者の保護及び精神保健ケアの改善のための原則」 第11回 障害者の権利条約と日本 第12回 諸外国の試み(1) 第13回 諸外国の試み(2) 第14回 諸外国の試み(3) 第15回 責任無能力者へのあるべき処遇とは</p> <p>これはあくまでも目安に過ぎず、受講者の希望によっては別の刑事法に関する問題(例えば、有罪確定後の犯罪者の処遇問題など)を取り扱ったり、刑法や刑事訴訟法の問題を取り扱ったり、法学検定の問題に挑戦する場合もあります。</p>
履修上の注意	できるだけ、出席し、発言してください。
教科書	プリント等を配布します。
参考書	特になし。
成績評価方法	報告内容(80%)、受講への参加姿勢(20%)を総合して評価します。

科目名	社会法特講	単位数	2	期別	前期
科目コード	SB140	担当教員	根岸 忠	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	社会法を構成する法分野のうち、労働法と社会保障法に関して、これら法領域に関する最新の論文を読むことをとおして、どのようなことがいま社会で問題となっているかを理解し、法的知識の涵養を目指す。
授業の進め方	今年度はワーク・ライフ・バランスなど家族にかかわることがらをテーマにして授業を行う。具体的には、教員が指定した又は各自が選んだ論文を報告者が報告し、議論するという形で授業を進める。
達成目標	(1) 論文の内容を正確に読むことができるようになる。 (2) 相手の意見を理解した上で、議論に参加できるようになる。
授業計画 (講義の具体的 内容)	第1回 はじめに 第2回 労働と家族 第3回 ワーク・ライフ・バランスに関する法(1) 第4回 ワーク・ライフ・バランスに関する法(2) 第5回 育児休業及び介護休業をめぐる法制度(1) 第6回 育児休業及び介護休業をめぐる法制度(2) 第7回 配転と労働契約(1) 第8回 配転と労働契約(2) 第9回 社会保障と家族 第10回 医療保険と被扶養者 第11回 遺族給付をめぐる問題 第12回 保育所と待機児童 第13回 単身家庭と貧困(1) 第14回 単身家庭と貧困(2) 第15回 生活保護と私的扶養
履修上の注意	労働法や社会保障法に関して十分な知識を有していることを要する。
教科書	とくに指定しないが、小型の法令集を毎回持参してもらいたい。
参考書	開講時に指示する。
成績評価方法	報告の内容及び議論への参加の度合いによって評価する。

科目名	商事法特講	単位数	2	期別	前期
科目コード	SB161	担当教員	菊池 直人	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	私たちは、様々な企業から商品やサービスを購入・利用して、日常生活を営んでいます。商事法特講では、このように日常生活と密接な関係のある、企業取引について学んでいきます。本科での学びをベースに、具体的な商取引と法規制および課題について考えていきます。
授業の進め方	講義・演習を併用した形式で進めます。毎回、担当者に報告を求めることがあります。
達成目標	(1) 企業取引法とは何か理解できるようになる。 (2) 各種企業取引とその法規制について理解できるようになる。 (3) 積極的に議論に参加し、自分の意見を述べるようになる。
授業計画 (講義の具体的な内容)	第1回 企業取引法総論 第2回 企業主体としての商人 第3回 会社とは 第4回 企業取引総説 商人間取引と消費者取引 第5回 消費者契約法 第6回 特定商取引法 第7回 割賦販売法 第8回 商品の流通・サービス提供と仲介 第9回 運送営業 第10回 倉庫営業・場屋営業 第11回 保険取引総論 損害保険 第12回 生命保険 第13回 企業取引と担保 第14回 信託・組合 第15回 企業取引と決済 * 以上は一応の目安であり、講義の進捗状況や受講者の希望などにより、テーマを変更する場合があります。
履修上の注意	六法を持参してください。
教科書	特に指定しません。
参考書	講義中に紹介します。
成績評価方法	報告内容(60%)、講義への参加姿勢(40%)により評価します。

科目名	簿記学特講	単位数	2	期別	集中
科目コード	SB210	担当教員	中野 慶伸	所属	土佐コンピュータ学院非常勤教員
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	日商簿記1級の基礎を学習します。
授業の進め方	講義、質疑応答、演習等
達成目標	(1) 個別原価計算について理解できるようになる (2) 工業簿記について理解ができるようになる (3) 個別原価計算と工業簿記の関係について理解を深められるようになる
授業計画 (講義の具体的 内容)	第1回 総論 第2回 原価計算と工業簿記 第3回 財務諸表 第4回 個別原価計算の意義 第5回 個別原価計算の概要 第6回 個別原価計算の計算手続 第7回 原価記録と財務記録 第8回 原価の費目別計算 第9回 材料費会計総論 第10回 材料購入原価の計算と処理 第11回 材料消費額の計算と処理 第12回 月末材料の管理 第13回 労務費会計総論 第14回 支払賃金の処理 第15回 賃金消費額の計算
履修上の注意	商業簿記の理解が前提となる。
教科書	『日商簿記1級合格テキスト』TAC出版
参考書	同上
成績評価方法	講義への参加姿勢などから総合的に評価する。

科目名	会計学特講	単位数	2	期別	前期	
科目コード	SB214	担当教員	梶原 太一	所属	高知短期大学	
連絡先	電話					088-873-2901
	E-mail					kajiwara@cc.u-kochi.ac.jp

授業概要 (テーマ等)	<p>この授業では、社会の様々な場面で活用されるようになってきている現代の会計について、世界の視野から議論します。現代の会計は、投資家の意思決定に役立つ情報の提供を最高規範としています。そのため、会計を用いる組織の範囲の拡大と、利害関係者の関心の多様化に伴って、開示される情報の量も年々拡大し続けています。</p> <p>この授業では、企業内容開示（disclosure）制度に関する世界の潮流を学びつつ、投資にあたって単に金銭的な見返りを追求するだけではなく、社会的な見返りの要求などの様々な価値判断を行う投資家の活動に注目して、これからの社会においてどのような情報の提供が必要になるのかを探っていきます。</p>
授業の進め方	<p>国内外の情報開示に関する制度について解説を織り交ぜながら、演習形式で進めます。また、受講者の希望と関心に応じて、個人発表の機会なども設けます。</p>
達成目標	<p>(1) 情報開示制度について理解すること (2) 会計士・税理士など会計専門職が果たす役割について理解すること (3) 国際財務報告基準（IFRS）の設定の動向を理解すること (4) 社会的な影響を追求する投資家の行動について理解すること (5) この授業の内容を理解しようとするのをきっかけとして、会計実践の学習を深め、将来の職業生活へと役立てられることを期待します</p>
授業計画 (講義の具体的内容)	<p>第1回 講義の内容解説 第2回～第3回 情報開示の制度 第4回～第5回 会計専門職の役割 第6回～第7回 国際財務報告基準（IFRS）の設定 第8回～第9回 企業の社会的責任（CSR）の情報開示 第10回～第12回 非営利組織（NPO）の情報開示 第13回～第14回 社会的投資利益率（SROI）による社会的成果の測定 第15回 まとめ</p>
履修上の注意	<p>前提となる知識は必要ありません。世界の事例についても学んでいきますので、語学（英語）に興味のある方や語学を学習したい方も歓迎します。</p>
教科書	<p>受講者と相談の上、決定します。</p>
参考書	<p>『変わる会計、変わる日本経済』石川純治著、日本評論社（2010年）。『NPO法人会計基準ハンドブック』NPO法人会計基準協議会専門委員会監、認定NPO法人会計税務専門家ネットワーク（2012年）。『社会環境情報デスクロージャーの展開』國部克彦編、中央経済社（2013年）。『責任ある投資』水口剛、岩波書店（2013年）。『非営利組織のソーシャル・アカウンティング』馬場英朗著、日本評論社（2013年）。</p>
成績評価方法	<p>講義への参加姿勢（50%）、期末の課題提出（50%）。</p>

科目名	税務会計論	単位数	2	期別	後期
科目コード	SB220	担当教員	梅田 昭彦	所属	梅田昭彦税理士事務所
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	税務会計を理解するための前提となる法人税法を習得し、財務会計と税務会計の差異を理解する。
授業の進め方	受講生の習得レベル・要望に合わせ、講義方式で行います。 尚、講義はテキストを中心に、必要に応じ補助資料を用いて進めます。
達成目標	(1) 法人における税務会計の基礎知識を習得する。 (2) 財務会計と税務会計の違いを理解する。 (3) 税制の最新動向を把握する。
授業計画 (講義の具体的 内容)	毎回、テキストを用いて講義した後、財務会計と税務会計の処理方法の違いを伝票イメージで解説します。 さらに、財務会計と税務会計の差異を調整する方法を、別表四と別表五(一)を用いて解説します。 第1回 オリエンテーション 第2回 財務会計・税務会計・管理会計の違い 第3回 損益の期間帰属 第4回 棚卸資産 第5回 減価償却 第6回 繰延資産の償却、圧縮記帳 第7回 役員の給与等 第8回 租税公課等、寄付金 第9回 交際費等 第10回 貸倒損失と貸倒引当金 第11回 受取配当等の益金不算入、有価証券の譲渡損益・時価評価損益 第12回 別表四と五(一)の作成方法 第13回 税率、所得税額の控除、申告と納税 第14回 税制改正等 第15回 法人税と所得税の違い
履修上の注意	(特になし)
教科書	開講時に指定します。
参考書	(特になし)
成績評価方法	講義への参加姿勢 (70%) ゼミでの報告 (30%)

科目名	税法特講	単位数	2	期別	後期
科目コード	SB230	担当教員	梅田 昭彦	所属	梅田昭彦税理士事務所
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	我が国の代表的な税法の基礎知識を習得する。
授業の進め方	受講生の習得レベル・要望に合わせ、講義方式で行います。 尚、講義はテキストを中心に、必要に応じ補助資料を用いて進めます。
達成目標	(1) 租税の目的、及び租税法の基本原則を理解する。 (2) 所得税法・法人税法・相続税法・消費税法の構造を理解する。 (3) 税制の改新動向を把握する。
授業計画 (講義の具体的 内容)	租税法 第1回 税(租税)とは何か? 第2回 税金が決まるまで 所得税法 第3回 所得の種類 第4回 課税所得の計算方法(収入～経費) 第5回 所得税額の計算 法人税法 第6回 企業会計と税法会計の違い 第7回 課税所得の計算方法(益金) 第8回 課税所得の計算方法(損金) 第9回 法人税額の計算 相続税法 第10回 相続税の課税財産 第11回 相続税額の計算 第12回 贈与税額の計算 消費税法 第13回 課税の対象 第14回 消費税額の計算 その他 第15回 税制改正の動向
履修上の注意	(特になし)
教科書	開講時に指定します。
参考書	(特になし)
成績評価方法	講義への参加姿勢 (70%) ゼミでの報告 (30%)

科目名	経営学特講	単位数	2	期別	後期
科目コード	SB240	担当教員	中道 一心	所属	高知大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	この授業では、経営学に関する基礎知識を授業します。
授業の進め方	通常の講義形式で授業を進めていきます。必要に応じて資料を配布します。 授業時間内に質問を投げかけますので、積極的に答えてください。
達成目標	(1) 経営学についての基本的枠組みを理解することができるようになる。 (2) 組織論についての基本的枠組みを理解することができるようになる。 (3) 戦略論についての基本的枠組みを理解することができるようになる。 (4) 国際経営についての基本的枠組みを理解することができるようになる。 (5) イノベーションについての基本的枠組みを理解することができるようになる。
授業計画 (講義の具体的 内容)	第1回 経営学とは何か 第2回 組織行動論(1) 第3回 組織行動論(2) 第4回 組織理論(1) 第5回 組織理論(2) 第6回 経営戦略論(1) 第7回 経営戦略論(2) 第8回 中間テスト 第9回 中間テストの解説 第10回 企業成長のための戦略と組織(1) 第11回 企業成長のための戦略と組織(2) 第12回 経営国際化の戦略と組織(1) 第13回 経営国際化の戦略と組織(2) 第14回 イノベーション経営の戦略と組織(1) 第15回 イノベーション経営の戦略と組織(2)
履修上の注意	
教科書	特になし
参考書	個別の論点にそくして、授業時間内に参考になる図書を紹介します。
成績評価方法	・ 中間テスト (50%) ・ 学期末試験 (50%) ・ 任意レポート(最大30点加点) ・ 授業への貢献 (加点)

科目名	情報処理応用演習	単位数	2	期別	前期	
科目コード	SC280	担当教員	大井 方子	所属	高知短期大学	
連絡先	電話					088-873-2871(研究室)
	E-mail					oimasako@cc.u-kochi.ac.jp

授業概要 (テーマ等)	自力でデータを分析できる力と、データの分析結果を読み解く力を養う。
授業の進め方	教科書の講義と実習。また、受講生は、自分で分析したいデータを用いてその分析経過や分析結果を授業内で報告する。
達成目標	(1) データを分析できるようになる。 (2) データの分析結果を読み解くことができるようになる。 (3) データ分析の背景にある統計学の理論を理解できるようになる。
授業計画 (講義の具体的 内容)	第1回 はじめに：何を分析したいのか 第2回 アンケート調査票の作成 第3回 データの入力とチェック 第4回 受講生からの報告(1) 第5回 グラフ 第6回 2つの関係性 第7回 受講生からの報告(2) 第8回 相関関係があるのか 第9回 2つの相関関係に差があるのか 第10回 クロス集計 第11回 2つに関連があるのか 第12回 受講生からの報告(3) 第13回 比率に差があるのか 第14回 平均値に差があるのか 第15回 受講生からの報告(4) ただし、受講生の希望や理解度により進度を変えることがある。
履修上の注意	データを使って分析したいことがあることが望ましい。
教科書	『Excelで学ぶアンケート処理 - 統計学って意外とやさしい?』石村貞夫・劉 晨・加藤千恵子、東京図書(2009年)
参考書	特になし。
成績評価方法	課題や授業への取り組み方(50%)と報告(50%)により評価する。

科目名	消費生活論	単位数	2	期別	集中
科目コード	SC290	担当教員	菊池 直人	所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	消費生活に関する基礎知識を提供するとともに、「自立した消費者」として行動するのに必要な法律・経済・環境問題等の知識を体系的に講義します。
授業の進め方	講義レジュメに基づき、講義方式で行います。この科目は複数の講師によるオムニバス方式を採用します。
達成目標	(1) 消費生活に関する基礎知識を身につけ、消費にかかわる情報を自ら収集・選択できる「自立した消費者」として行動できる力が養成される。 (2) 消費生活専門相談員の資格を獲得するための基礎的力量が身につくようになる。 (3) 消費にかかわる経済問題と法律問題、さらには環境問題等を関連付けて理解することができるようになる。
授業計画 (講義の具体的な内容)	講義はオムニバス形式で、各回毎に独立したテーマが講義されます。講師はテーマ毎に、その分野の専門家が担当します。 第1回 消費者問題概論(ガイダンス含む) 第2回 消費生活に必要な民法の知識 第3回 消費生活に必要な消費者契約法の知識 第4回 生活に必要な特定商取引法・割賦販売法の知識 第5回 若者と高齢者被害の救済事例 第6回 公正な競争の確保のために～独占禁止法等～ 第7回 経済の仕組みと消費生活～税金・物価・社会保障・保険～ 第8回 調停・訴訟等に関する知識 第9回 消費者教育の意義 第10回 食品表示の基礎知識 第11回 食品表示の基礎知識 第12回 消費生活とお金に関する基礎知識 第13回 金融商品に関する基礎知識 第14回 情報通信サービスに関する基礎知識 第15回 環境問題に関する基礎知識 講義の順序に変更がある場合もあります。
履修上の注意	公開講義ですので、在学生だけでなく、一般の方も受講できます。また、科目等履修生として受講することもできます。
教科書	毎回、講義レジュメを配布します。
参考書	講義のなかで紹介します。
成績評価方法	毎日の講義終了後、10分程度で感想を書いていただきます。また、単位認定希望者には、これとは別に2000字程度のレポートを提出していただく予定です。成績評価は、これらの提出物を総合して評価します。評価の基準は、感想文50%、レポート評価50%とします。

科目名	特別研究	単位数	4	期別	通年
科目コード	SC291	担当教員		所属	高知短期大学
連絡先	電話				
	E-mail				

授業概要 (テーマ等)	学生の希望によるテーマについて調査・研究を進め、その成果を論文にまとめる指導を行う
授業の進め方	教員による個別指導
達成目標	(1) 研究課題を設定し、学習・研究計画を作成することを学ぶ (2) 研究論文作成の基礎的技法を学ぶ (3) 自らの学習・研究成果を論文にまとめる (4) 『学生論集』へ掲載することを目標とする
授業計画 (講義の具体的 内容)	専任教員と希望学生の間で決めることとなる(学習・研究計画の検討・作成、計画にそった学習・研究経過のチェックなどのスケジュールを教員と学生の間で決めて進める。)
履修上の注意	指導を希望する教員に相談した上で履修申請をすること。 学生自身の力で論文を書くこと。
教科書	なし
参考書	研究テーマに応じて必要な文献を探すことも学びの目的の1つとなる
成績評価方法	調査・研究への取り組みと研究成果である論文の完成度によって評価